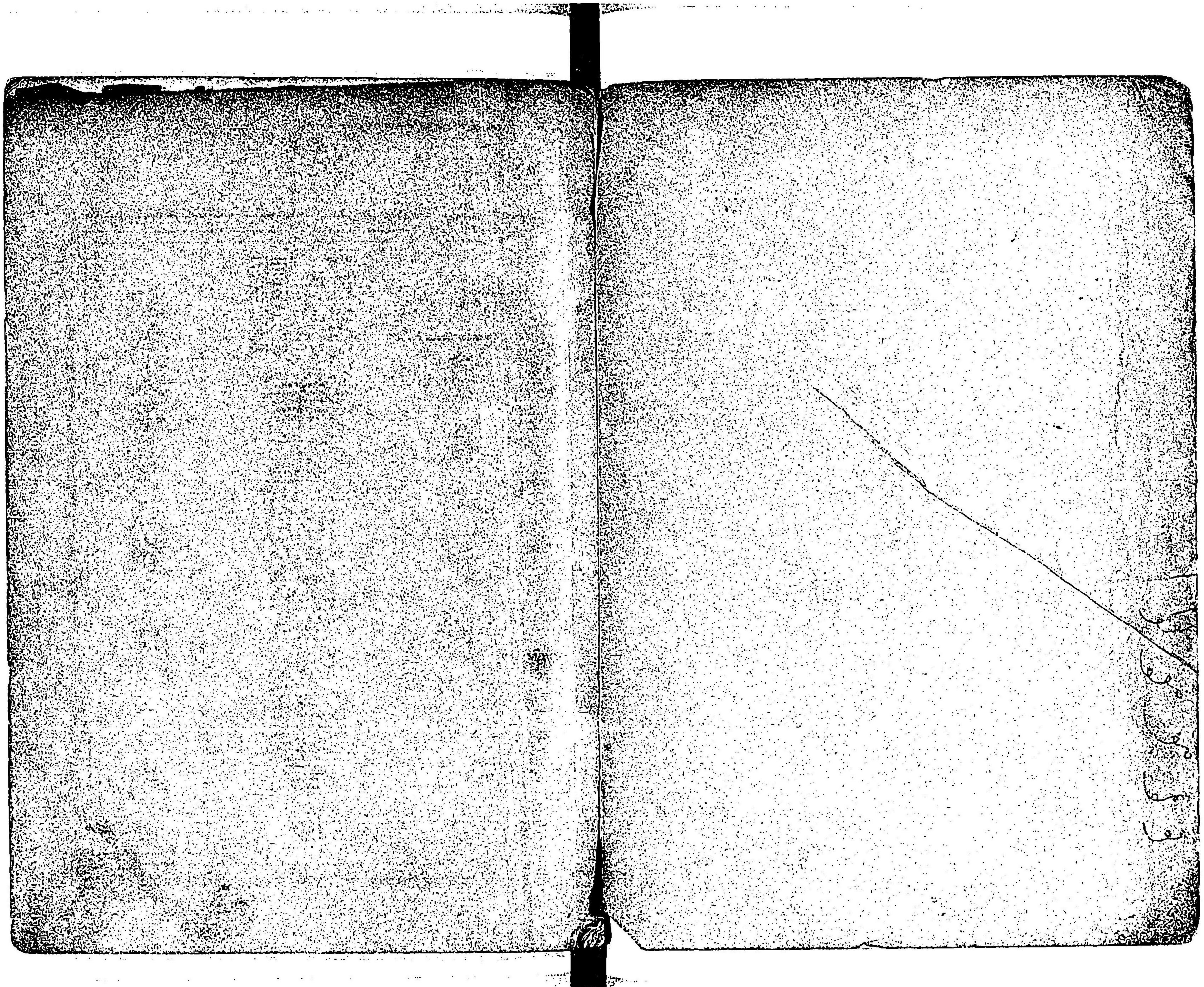


島周二編輯

日中  
等記滿洲學  
會  
發行

明治十八年五月版權免許



特28

明治十八年十月五日內務省印付



島周二編輯

日本

圖書

筆記讀本

卷

明治十八年五月版權免許

用筆

心  
福  
生

乙百和友  
 士教



凡例

- 一 筆記法即「フホノグラフィ」トハ希臘ノフォノ(語音)グラフィ  
 ッフエソ(登記)ノ二語ヨリ成レル者ニシテ一種ノ簡便明  
 瞭ナル記號ヲ以テ發音ヲ記録スルノ法ナリ
- 一 記號トハ發音ヲ記録スベキ符牒即チ筆記的ノ文字ナリ
- 一 反文トハ記號ヲ以テ筆記シタル事實ヲ尋常ノ文字ニ纏  
 譯スルヲ云フ
- 一 筆記法ヲ練習スルニハ硬軟中ヲ得タル鉛筆(旭日ノ標又  
 ハ鷲ノ標アル鉛筆ヲ良トス)ヲ以テ西洋紙ニテ習フナ良  
 トス然レモ實際會議又ハ演舌等ヲ筆記スルニハ器械ノ  
 アルアリソハ本會ニ就テ質サレヨ
- 一 本書從來本會ニ於テ自習會員ニ頒賦シ來リシヲ書籍ノ  
 請ニ應シ上梓スル者ニシテ苟モ銳意本書ニ就キ研究サ

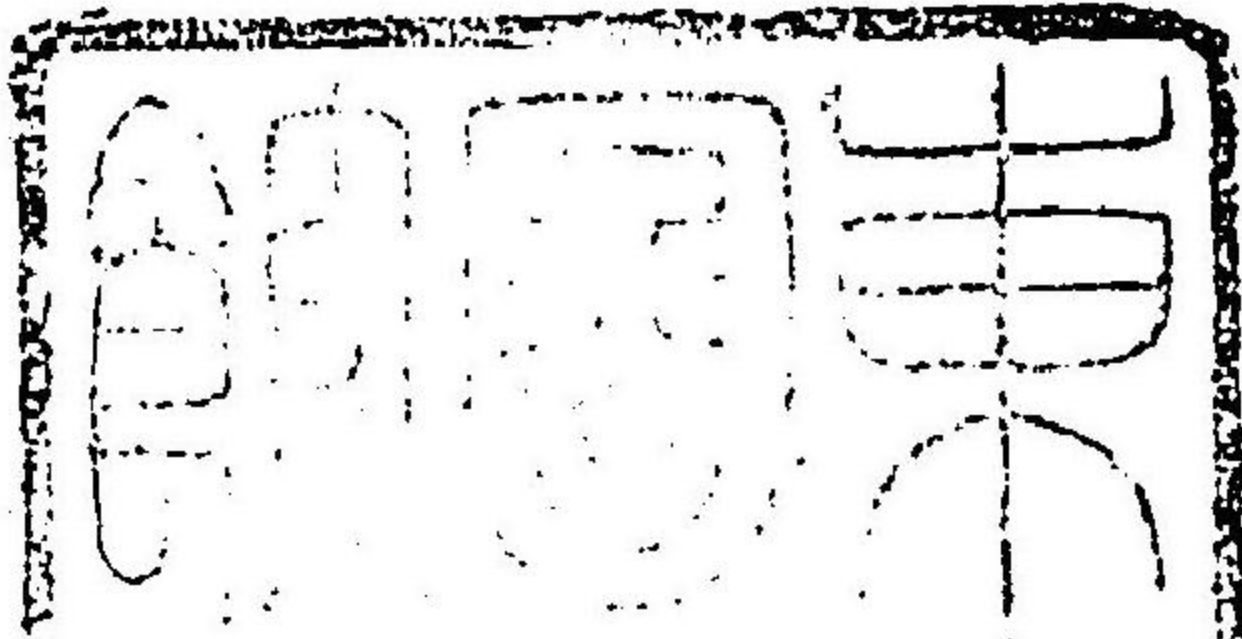
しるし  
教



凡例

- 一 筆記法即「フホノグラフィ」トハ希臘ノフォソ(語音)グラフィフエソ(登記)ノ二語ヨリ成レル者ニシテ一種ノ簡便明瞭ナル記號ヲ以テ發音ヲ記録スルノ法ナリ
- 一 記號トハ發音ヲ記録スベキ符牒即チ筆記的ノ文字ナリ
- 一 反文トハ記號ヲ以テ筆記シタル事實ヲ尋常ノ文字ニ翻譯スルチ云フ
- 一 筆記法ヲ練習スルニハ硬軟中ヲ得タル鉛筆(旭日ノ標又ハ鷲ノ標アル鉛筆ヲ良トス)ヲ以テ西洋紙ニテ習フナ良トス然レモ實際會議又ハ演舌等ヲ筆記スルニハ器械ノアルアリソハ本會ニ就テ質サレヨ
- 一 本書從來本會ニ於テ自習會員ニ頒賦シ來リシチ書肆ノ請ニ應シ上梓スル者ニシテ苟モ銳意本書ニ就キ研究サ

ル、アラハ筆記ニ熟達スル難キニアラサルナリ  
一本書購讀ノ諸子ハ本會ニ向テ疑義ヲ質問スルノ權アリ  
若シ夫レ手續ノ如キハ本會ニ就テ問フ所アレ  
明治十八年八月下澣  
編者識ス



日本傍聽筆記法獨學全書

編 總 論

日本傍聽筆記學會新編會長 小島周二編輯

抑此ノ傍聽筆記法ナル者ハ一種ノ簡明單易ナル記號ヲ以  
テノ論辨討議雜談學話等其ノ發言ノ儘神速詳細ニ筆記ス  
ルヲ得ル者ナリ而シテ其ノ目的タル之ヲ大ニシテハ日本文  
章言語ノ不完全ヲ漸チ退フテ之ヲ改良セシメ之ヲ小ニ  
シテハ辨客論士輩ノ辨論上ノ注意心ヲ惹キ起サシムルノ  
ミナラス爲ニ各人各箇ノ言語應對上ニ致ル頗ル好結果ヲ  
現サシムルニアリ  
夫レ然リ其簡單明瞭ナル一種ノ記號ヲ以筆記スル所以ノ  
者ハ何ゾヤ他ナシ元來我國ニ專テ行ハル、所ノ漢字片假

名平假名等ノ文字ハ其用極メテ廣シト雖モ其字畫タル煩  
雜擾々紛々トシテ毫モ疾書ニ便ナラズ即チ其幾分ノ勞ヲ  
簡省セシガ爲メナリ然ラバ其簡便ナル記號トハ何ゾ曰ク  
線緯ノ曲直ヲ以テ發音ヲ區別シ其字畫ハ單一ナル者ナルガ  
故ニ能ク其煩擾ヲ免ル、ナリ且ツ夫レ吾人ガ言語ノ速カ  
ナル駟馬モ尙ホ及バザルガ如キ之ニ對スルノ筆記タル豈  
ニソレ神速ヲ要セズシテ可ナル可シヤ是レ吾人ガ一種ノ  
記號ヲ以テ筆記スル以所ノ者ナリ  
且ツヤ我邦ノ文章言語ハ頗ル不完全ナリト云ハザルヲ得  
ズ其不完全トハ何チ云フカ曰我國ハ中古ヨリ文章ト言語  
同一ナラズシテ例セバ言語上ヨリ「あなた之勉強致します  
ぬ」ト謂ヘバ文章上ヨリ「貴君ハ勉強家ナリ」ト云フ如ク  
ニシテ言語文章決シテ全一ナラザルナリ加之ノミナラズ

國中一事物ニ就テモ各方言ヲ異ニシ多々益々多々ナリ是  
レチ之レ吾人ガ我邦ノ文章言語ハ不完全ナリト云フ以所  
ナリ然ラバ是レニ對シテ完全ナル者トハ何チ云フカ曰ク  
彼泰西諸國ノ文章言語ノ景況如何チ見ヨ文章ハ即チ言語  
ニシテ言語ハ即チ文章ニアラズヤ是レ吾人ガ文章言語ノ  
完全ナル者ハ泰西諸國ニアリト謂フ以所ナリ  
若シ人アリ子等ハ何チ以テカ日本ノ文章言語ノ不完全チ  
ハ漸チ退フテ改良スルヲ得ルカト問ハ、吾人ハ將ニ之ニ  
答テ言ハソトス吾人將來ノ計畫如何チ見ヨ其ノ間必ズ有  
名無實ノ事ナキナリ期シ江湖有志ノ士ニ示スアルチ何ト  
ナレバ今此ニ論ゼザルモ不可ナケレバナリ否目前ニ關係  
ナキチ以テナレバナリ且ツ夫レ筆記者ナル者ハ頗ル重任  
ヲ負擔スル者ニシテ其地位ニヨリ甚ダシキカ發言者チソ



或ハ鎮窓呻吟ノ苦ヲ嘗メシメ或ハ其ノ人ノ名譽ヲ毀損ス  
ルモアル可ク或ハ然ラザル可ク或ハ黒者ヲシテ青天白日  
タラシメ或ハ至善ヲシテ至惡タラシム民間ニ在リテ筆記  
者タルモ政府ニ在リテ筆記者タルモ豈ニ夫レ筆記者タル  
ノ重任ヲ遺忘シテ可ナル可ソヤ是レ筆記者タル者ハ吾人  
ガ重任ナリト云以所ナリ故ニ辨士論客モコレガ爲メニ辨  
論上ニ於テ注意ニ注意ヲ加ヘテ發言スルヲ以テ其結果タ  
ル已レテ利スルヲハ勿論世人ニ益アリテ遂ニハ辨論社會  
ハ一層ノ改良ヲナス可キヲ期ソ待ツ所ナリ果ソ然ラハ吾  
人ノ快樂ハ世間豈ニ喩フルニ者アラソヤ何トナレバ吾人  
ノ目的ノ成就スル所アリテ世人ト共ニ樂ミ眞ニ明治聖代  
大平ノ民タルニ違背セザレバナリ請フ江湖ノ諸士決シテ  
無用ノ辨トナサズ此ノ書ニ從フテ研究練磨スル所アレバ

必ラズ已レテ利益スルヲハ亦蓋シ尠少ニアラザル可キナ  
リ尙筆記法ノ濫興ヲ知ラント欲セバ請フ速ニ本會ニ加入  
シテ吾人ト共ニ研究練磨スル所アレ  
今ヤ吾邦ハ改進ノ風潮ニ向ヒ自由ノ空氣充滿セント欲ス  
ルノ時ニシテ腕力ヲ敬スルノ時ナラズ文運日進ノ世紀  
ニシテ言論社會モ又甚ダ進歩シ上ハ大都ヨリ下ハ僻陬ニ至  
ルマデ必ズ何會何館何舍ノ名號ヲ以テ演舌討論ノ會アラ  
ザルハナシ吁又盛ナリト云フ可シ時哉々々此ノ時ニ際シ  
傍聽筆記ノ行ハル、天爲ニ出ヅルカ將タ人爲ニ出ヅルカ  
況乎國會ノ數年ニ開設サル、チヤ傍聽筆記法豈一日モ  
欲ク可ソヤ豈ニ一日モ忽諸ニ附ス可キノ時ナラソヤ江湖  
ノ諸士勉旃々々

第二編 字 學

夫ノ字學ヲ學バシニハ必ズ記號ノ稱呼單複等ヲ能ク研究  
諸記スベシ先ツ第一ノ記號ヨリ詳細之ヲ解ク可シ  
凡ソ講談演舌ノ時ニ一個ノ符號ヲ以テ筆記スルト通常ノ  
日用欠ク可ラザル文字ヲ以テスルトハ其疾速遲緩難易果  
ノ如何ゾヤ其時間一時一句ニテモ幾秒幾分ノ差違ナクソ  
バアラズ況乎演舌者ノ言語雄辨流ル、ガ如キニ於テチャ  
決テ通常文字ニテハ筆記ニ奇ヲ極メシ鬼神ノ如キ其人  
ト雖モ演者ト並馳シ其發言ニ從フテ詳細筆記スルコトハ叶  
フマシ是ソノ記號ナル即チ一個ノ符號ヲ製シ筆記スル以  
所ノ者ナリ  
ソレ既ニ記號ヲ作ルノ目的右ノ如クナルヲ以テ其目的ヲ  
達セシガ爲メニ尤モ簡單ナル符號ヲ以テセズンバアル可

ラズ今苟モ筆ヲ以テ記ス可キ記號ハ其種類數多ナリト雖  
モ之ヲ大別スレバ點及ビ線ノ二者ニ外ナラズ只其線ノ經  
緯長短曲直大小其點圈ノ附記ノ上下ニ從フテ小別ヲナシ  
始メテ完全ニ至ルヲ得ル者トス  
ソノ記號ハ單記號ト複記號トノ二種別アリ而シテ又別ニ疊  
呼記號ト云フ者アリ先ツ單記號ノ組織ヨリ解クベシ

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	イ	ユ	エ	ヨ
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ	ヰ	ウ	ヱ	ヲ
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
ダ	ヂ	ヅ	デ	ド
バ	ビ	ブ	ベ	ボ
パ	ピ	プ	ペ	ポ

右ノ單記號即十五十音ノ中ア<sup>○</sup>イ<sup>○</sup>ウ<sup>○</sup>エ<sup>○</sup>オ<sup>○</sup>ノ五字ヲ母音ト稱  
 シ中間ノク<sup>○</sup>ス<sup>○</sup>ツ<sup>○</sup>ヌ<sup>○</sup>フ<sup>○</sup>ム<sup>○</sup>ユ<sup>○</sup>ル<sup>○</sup>ウ<sup>○</sup>ノ九字ナル一經ヲ父音ト稱  
 シ自余ヲ盡ク子音ト稱ス蓋シ子音ハ皆父母兩音ノ合体シ  
 テ生シタル者ナリ即チ父音ノク<sup>○</sup>ト母音ノア<sup>○</sup>トチ合シテ強  
 ク詰呼スレバ自然カ<sup>○</sup>ノ音ヲ生ズルニ至ル故チ以テカ<sup>○</sup>ナル  
 記號文字ハク<sup>○</sup>ア<sup>○</sup>ノ合附セシ者トナル<sup>○</sup>明カナリ先ヅ最  
 初ニハ右ノ記號ヲ能ク請記シ筆ヲ下シテ澁滯ナキヲ要ス  
 而シテ其ノ次ニ示スハ濁音記號ニシテ總テ正音記號ヲ太  
 ク記スレバ濁音トナル(以下皆之ニ働フ)者ト知ル可シ左ニ  
 示スハ複記號ニシテコレ又其ノ組織前ト異ナルナキヲ以  
 テ之ガ解ヲ略シ其發音ノミヲ左方ニ記スコレ亦能ク研究  
 請記スベシ

複記號

キア	キイ	キウ	キエ	キオ
ギア	ギイ	ギウ	ギエ	ギオ
クア	クイ	クウ	クエ	クオ
グア	グイ	グウ	グエ	グオ
シア	シイ	シウ	シエ	シオ
ジア	ジイ	ジウ	ジエ	ジオ
チア	チイ	チウ	チエ	チオ
ヂア	ヂイ	ヂウ	ヂエ	ヂオ
ニア	ニイ	ニウ	ニエ	ニオ
ミア	ミイ	ミウ	ミエ	ミオ
ファ	フィ	フウ	フェ	フォ
フィ	フイ	フウ	フエ	フオ
リア	リイ	リウ	リエ	リオ
ピア	ピイ	ピウ	ピエ	ピオ
ピア	パイ	ピウ	ピエ	ピオ

十

抑前ノ單複記號ハ基礎トナル者ナレバ必ズ充分ニ諸記ス  
 ルヲ要スコレヨリ聲呼記號ニ移ラヌ  
 疊呼記號トハ猶和漢ノ(々々)或ハ(ゝゝ)ニ於ル如キ者ニシテ  
 我筆記法ニハ之ヲ波形ニ記ス又同綴ノ記號相續ク時ハ父  
 音ヲ省キ母音ノミヲ記シテ發音セシムルヲ例トス即チ左  
 ノ如シコレ其筆ヲ省クニ外ナラヌ

疊呼記號

奇々

怪々

比々

同緯ノ記  
號續ク時  
ノ記シ方  
下ノ如シ

立チ止マル

差シ指ス

*dy*

*dy*

同緯ノ記号  
ヲ連書スレバ  
下ノ如シ

クツヲト

ナニス子ノ

*dy*

*dy*

テタツトチ

ニナス子ノ

*dy*

*dy*

ハヒフヘホ

マニムメモ

*dy*

*dy*


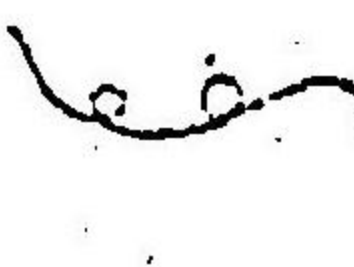



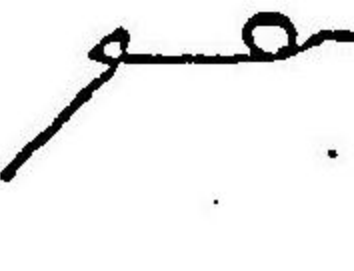



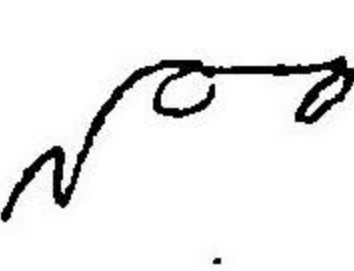
第三編

稱呼區別

文字ノ發音呼聲ニ從テ平呼長呼反呼詰呼ニ分ツ讀者前ニ  
掲グシ單複ノ記號及ビ疊呼記號ヲ記臆セシナラソ故ニ先  
ヅ第一平呼ノ綴字法ヨリ説クヘシ讀者左ニ示ス所ノ平呼  
文第一ノ表中綴字例ニ倣ヘ既ニ記臆セシ記號文ヲ以テ綴  
字題ヲ綴リ又反文例ニ倣ヘ反文題ヲ悉ク譯讀セヨ(因ニ日  
ク是ヨリ以後ノ反文題ハ少ク卷末ニ翻譯シ置キタレバ參  
考アレ而シテ綴文題ハ別ニ舉示セザルモ不可ナケレバ之  
ヲ略ス

平呼單語

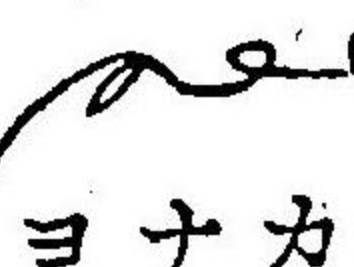
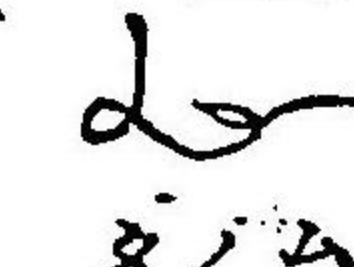
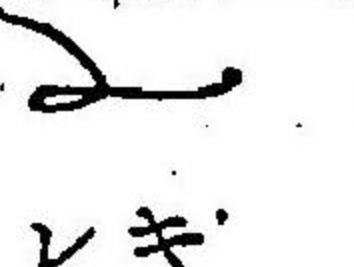
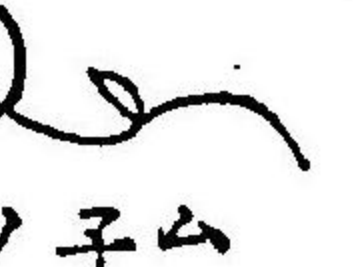
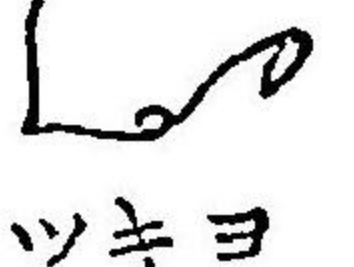
綴字例

- |    |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|
| 4. | いろは   | 花見  | 日夜  | 譽れ  | 徳利  |
|    |  |  |  |  |  |
| 2. | 近道  | 利屈  | 盗人  | 留守居   | 親子  |
|    |  |  |  |  |  |

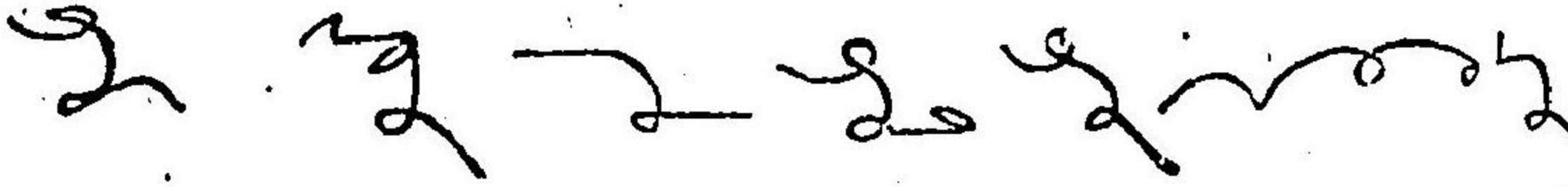
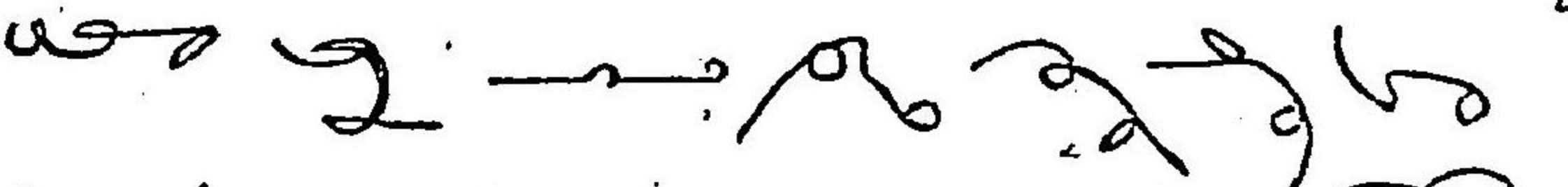

綴字題

1. 髮結 如何 遙 荷物 捕獲 特別 地理
2. 利益 拔身 類似 奥向 行 開化 字力
3. 多謝 歴代 筋常 菓 情 禮記 無益

反文例

- |    |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|
| 1. |  |  |  |  |  |
| 2. | 子カイ   | ナイギ   | ラクヤキ  | ムズメ   | ウラヤム  |

反文題

1. 
2. 
3. 

讀者猶次ニ掲グル平呼ノ單第二第三トモ綴字題ハ記號文  
ヲ以テ筆記シ反文題ハ悉ク譯讀アラソコヲ要ス

平呼單語綴字反字例題 (第三)

Handwritten examples of phonetic notation for various words, including characters like 稻妻, 驢馬, 配置, 賑, 持志, 智畧.

(綴字)

我邦 其他 一時 記録 荷モ 會議 某 學術 頗ル  
 頻ニ 幸 格別 卓説 不識 無智 遂ニ 認ム 無主義  
 但シ 如斯 府下 都下 甚シキ 或ハ 蛇足 甲乙 所  
 差異 彙ニ 獨 自ラ 喜怒愛樂 恰モ 示ス 奇々 怪々  
 然リ ヘヤ } } ノ } } トルコ イギリス アメリカ  
 アフリカ イタリア イスパニヤ

平呼單語綴字反字例題

第二

Handwritten examples of phonetic notation for words like 稻妻, 驢馬, 配置, 賑, 持志, 智畧.

綴字題

改曆 氣脉 苦樂 蓋 孤獨 概畧 義士  
 愚痴 下馬 誤脫 過日 過去 画学 才智  
 四書 水理 赤色 座敷 地主 是非 賊徒  
 社會 謝義 洒落 書物 種類 諸家 大蛇  
 授与 女子

反字題

Handwritten examples of phonetic notation for various words.

諸尾ニ附スル畧字表

一	ガ武ハ	トモ	スレバ	コトハ
ニ	ニ	トテモ	タレバ	コトデ
ハ	ハ	トテ	ナバ	トス
ノ	ヲ	アリ	非ズ	トシ
ノ	ス	ナリ	非ル	ナクバ
ノ	テ	セリ	可シ	ナゲレバ
ノ	ト	レナ	可カラズ	ナラバ
ハ	モ	タリ	シテ	アラバ
ハ	ニハ	ナス	ニシテ	タラバ
ハ	ハハ	ナシ	者シテ	セザレバ
ハ	ヨバ	アル	シタリ	アリトス
ハ	ノハ	ナル	サレタリ	アリテハ
ハ	ジハ	セル	モトス	ナリトス
ハ	トハ	スル	モノナリ	ナリテハ
ハ	ニモ	レル	コト	非レバ
ハ	ハモ	タル	ノコト	アラン
ハ	ヲモ	アレバ	コトヲ	ナラバ
ハ	ノモ	ナレバ	コトノ	ナラン
ハ	テモ	セバ	コトニ	タラザレバ
				タラン

次ニ讀者ノ眼ニ觸レシム可キハ平呼ノ連語ナレト今連語ニ移ルノ前以テ讀者ノ再ビ諸記ヲ請ハザル可ヲザルノ者アリ即チ語尾ニ附スル略字ニシテ連語綴字ノ際其ノ語尾ニ用ニル者ナリコレ亦字書ノ繁擾ヲ省クニ出ル者ナリ



# 數字畧字

## 十位

1 2 3 4 5 6 7 8 9  
 十 二十 三十 四十 五十 六十 七十 八十 九十

## 百位

1 2 3 4 5 6 7 8 9  
 百 二百 三百 四百 五百 六百 七百 八百 九百

## 千位

1 2 3 4 5 6 7 8 9  
 千 二千 三千 四千 五千 六千 七千 八千 九千

## 万位

1 2 3 4 5 6 7 8 9  
 万 二万 三万 四万 五万 六万 七万 八万 九万

356 一億五千万 十万八千 四万五千

三千五百万 15 18 45

百万 二百万 三千万 四千万 70  
 4 26 3 4 七十万

右ノ語尾略字ハ急速請記スルヲ要セザレドヨリ以後  
 連語ノ綴字ノ際ニハ必ズ右表ニ願ミテ用ユルヲ得ル略字  
 ハ必ズ用イ遂ニ悉ク記臆シ凝滞ナキニ至ルヲ要ス數字モ  
 我筆記法ニ於テハ次ニ示ス如ク幾十百萬ノ多キニ至ルモ  
 容易ニ迅速記スルヲ得ル様製シ置ケリ又學者ノ記臆ヲ要  
 スル左ニ示ス

乎呼連語綴字反文 (第一)

例題

金ハ人ノ魂ヲ殺シ 殺身ハ人ノ肉ヲ殺ス

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

讀者己ニ語尾ニ附スル略字並ニ略數字ヲ記シタルハコレヨリ進ゾテ平呼文ノ連語ニ移ル讀者左ニ掲グル連語綴字反文中ノ例題ニ倣フテ電勉譯讀又ハ綴字アレ(因ニ云フ以綴綴字ト云フハ記號ヲ以テ筆記スルヲ反文トハ記號文ヲ譯讀スルヲ了知アルベシ)

(前=續シ)

- 6 速ニ 熟スル 果實ハ 腐敗モ 又 速カナリ
- 7 張リ ツメタル 弓ハ 竟ニ 弱シ
- 8 羽織ハ 衣服ニ 合ヒテ 之ヲ 裁テ
- 9 市ニ 愚者 ナケレハ 惡果 售レス
- 10 百果 其 時ニ ヨリテ 味ヒ ヨシ
- 11 曲レル 杖ニハ 曲レル 影アリ
- 12 曲レル <sup>クラシ</sup>活計ナ ナスモノハ 直グナル 死ヲ 得難シ
- 13 登ラヌ 者ハ 落チタル 一 ナシ

平呼連語及文題 (第二)

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.

全綴字例題

- 1 事ヲ 爲ニハ 必ス 之ヲ 遂ヨ 否ヲサレハ 則チ 始メニ  
ヨリ 爲スヲ ナカレ
- 2 怒氣ヲ 正スハ 則チ 善シ
- 3 月日ハ 人ヲ 待タス
- 4 細キ 木ハ 火ニ 燃エテ 太キ 木ハ 火ヲ 消ス
- 5 春ニ 花ナキモノハ 秋ニ 果實ナシ

全綴字例題

- 1 後レテ取ヲサルモノハ愚者ト争ハス
- 2 物ニ比較セサレハ善シ惡シテ解セス
- 3 雲雀ノ片股ハ一羽ノ鷺ニ勝ル
- 4 東ニ近キモノハ西ニ離ル
- 5 眼ニ外物ハ見ユレドモ眼ニ眼ハ見ヘス
- 6 人ノ行ヒテ見テ我行ヒテ正セ
- 7 我好マサルモノハ人ニ施スコトナカレ
- 8 鈍キ礪砥モ刃物ヲ鋭ス 9 河ニ隨テ海ニ入ル
- 10 記憶ハ思慮ノ基礎ナリ
- 11 燧石モ打タサレハ火ヲ放タス
- 12 互ニ道ヲ知リテ始メテ和睦ス
- 13 拙ク話スハ巧ミニ話スニ勝ル
- 14 徳ハ行ヒニ在リテ舌ノ先キニハアラス
- 15 和ヲカナル言葉ハ口ヲ傷ハス
- 16 慈悲喜捨ハ家ヨリ始ム
- 17 知識ハ勢アルカラナリ 18 難キコトハ望ミノ基ナリ
- 19 夜ハ思慮ノ母ナリ 20 晝ニハ目アリ夜ニハ耳アリ

平呼連語翻文例題 (第三)

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20.

長呼綴字翻文例題 (第一)

單語綴字例

有名 移住 陋習 傍聽 放蕩  
 謀畧 入費

全題

融通 敗走 發明 炮臺 波濤 命 邦國  
 佩刀 奉職 褒賞 陛下 兵備 養育 刑法  
 經濟 教育 劇場 敬白 僥倖 不肖 不平  
 普通 伏兵 無道 輻湊 風說 公和 公務

全翻文例

幼帝 幼童 失望 縱橫 恭禮 逼留 中夫  
 勅命 著明

單語翻文題

Handwritten examples of single word conversions.

是ニテ平呼ハ止メ更ニ進ソテ長呼ニ移ラン長呼トハ其音  
 ノ長ク引ク長空通ノ如キ者ニシテ之ヲ記號ニテ筆記スル  
 ニハ其ノ邊方ヲ長ク引クヲ法トス則チ<sup>ロ</sup>ナ<sup>ロ</sup>ト<sup>ロ</sup>ン<sup>ロ</sup>ヲ<sup>ロ</sup>ナ<sup>ロ</sup>フ  
 ヲ<sup>ロ</sup>ト<sup>ロ</sup>スルナリ其ノ長ク引記シ難キ<sup>ク</sup>一<sup>ク</sup>ツ<sup>ク</sup>ノ<sup>ク</sup>如キ記號  
 ニ至テハ反對ノ方向ニ引記ス<sup>ク</sup>ト<sup>ク</sup>ナ<sup>ク</sup>ノ<sup>ク</sup>類ナリ而シ  
 テ其ノ到底前法ニ從フ能ハサルアラハ其ノ長呼ニ屬スヘ  
 ヤ記號文字ノ頭上ニ(一)(長呼ノ符)ヲ記置スルヲ以テ區別  
 スル者トス夫レ斯ノ如キハ甚タ煩擾ノ如ク見ユレト實際  
 練習活用スルニ至テハ其輕便云フ可ラス猶左ニ示ス反文  
 例并ニ綴字例ニ働フテ篤ト熟慮シ反文及ヒ綴字ヲナサン  
 一ナ

全反文例題

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.

(前=續)

- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33

連語綴字例題

- 1 耳ハ 大キ カル可シ 舌ハ 小サ カル可シ
- 2 自ヲ 過チテ 其 薄命ヲ 罵ル
- 3 無智ナル 美女ハ 造作ナキ 家屋ノ如シ
- 4 後悔セサル モノハ 樂ミテ 知ラス
- 5 能ク 問フ 所ノ 人ハ 能ク 學フ
- 6 法律 密ナルニ 從ヒテ 犯スモノ 多シ
- 7 自主 自由ヲ 守ルハ 自主 自由ニ 非ス
- 8 記憶ハ 固有ノ 寶物ナリ

全綴字題

- 1 死ト云フコトハ生活ノ尺度ナリ
- 2 業務ヲ怠レハ業務ヲ失フ者ナリ
- 3 自己ノ家屋ハ其人ノ城郭ナリ
- 4 訴訟ハ理由ナキノ契約コ生セス
- 5 我功勞ハ敗レタレハ我志望ヲ失ハス
- 6 養フ道理ヲ知リテ後チニ妻ヲ娶レ
- 7 人業ヲ保護セバ業人ヲ保護ス
- 8 人ノ做ス如ク做セバ人必ズ賞ス可シ
- 9 契約協議ハ法律ヲ支配スルニ至ル
- 10 功名ノ道理ハ才能ノ人ノ爲ニ開ク
- 11 甲過チテ而シテ後ニ乙之ヲ學ブ
- 12 朋友ノ樂ニハ晩ク行キ悲ニハ速ニ行ケ
- 13 我人ヲ敬スレバ人亦我ヲ敬ス
- 14 租税ハ可成的納稅者ノ納稅ニ便リヨキ時ヲ撰ニ  
ピテ徴収ス可シ
- 15 國中ノ利益ハ汎ク各自ノ利益平等ヲ得ルニアリ
- 16 租税トハ人其保護ニ供スル所ノ保證ノ價格ナリ

長呼連語翻文例題 (第二)

1. 死ト云フコトハ生活ノ尺度ナリ
2. 業務ヲ怠レハ業務ヲ失フ者ナリ
3. 自己ノ家屋ハ其人ノ城郭ナリ
4. 訴訟ハ理由ナキノ契約コ生セス
5. 我功勞ハ敗レタレハ我志望ヲ失ハス
6. 養フ道理ヲ知リテ後チニ妻ヲ娶レ
7. 人業ヲ保護セバ業人ヲ保護ス
8. 人ノ做ス如ク做セバ人必ズ賞ス可シ
9. 契約協議ハ法律ヲ支配スルニ至ル
10. 功名ノ道理ハ才能ノ人ノ爲ニ開ク
11. 甲過チテ而シテ後ニ乙之ヲ學ブ
12. 朋友ノ樂ニハ晩ク行キ悲ニハ速ニ行ケ
13. 我人ヲ敬スレバ人亦我ヲ敬ス
14. 租税ハ可成的納稅者ノ納稅ニ便リヨキ時ヲ撰ニ  
ピテ徴収ス可シ
15. 國中ノ利益ハ汎ク各自ノ利益平等ヲ得ルニアリ
16. 租税トハ人其保護ニ供スル所ノ保證ノ價格ナリ

反呼文綴字翻文(第一)

單語綴字例

維新 傍觀 陰謀 露見 官真

全題

1 育民 2 誘引 3 反對 4 敗軍 5 判事 6 反呼 7 文  
 8 犯則 9 繁榮 10 翻譯 11 妄言 12 亡魂 13 鳳輦 14 走奔  
 15 勉強 16 僻論 17 平論 18 屯集 19 突然 20 鎮西 21 陳營  
 22 長短 23 直言 24 勅任 25 良民 26 近隣 27 關係 28 演說

全翻譯例題

輪講 本心 漸進 金満家 漢学

1 ey 2 e 3 ee 4 ey 5 ee 6 ey  
 7 ee 8 ee 9 ee 10 ey 11 ey 12 dy 13 da  
 14 do 15 dra 16 dra 17 do 18 da 19 ee  
 20 do 21 dy 22 da 23 ay 24 da 25 io 26 ee  
 27 dy 28 ay 29 ey 30 do 31 ee 32 ey 33 ay 34 ey  
 35 ee 36 ay 37 ee 38 ey 39 do 40 do 41 ey

卅五

讀者前ニ掲ゲレ長呼ノ綴字反文ヲ研究記得セシナラノ故  
 ニ長呼ハ既ニ了知スル者ト見做シ今度反呼ノ指教ニ及バ  
 ノ反呼トハ即チ我國ノ音ニシテ我筆記法ニ於テ反呼ノ  
 符ハ此ノ如キヲ以テ記スル者ナリ假令ハ權ト云フ時ハ  
 記號ノケノ字ニ右ノ反呼符ヲ附記スル者ニシテトナル  
 ナリ而シテ此ノ反呼符ヲ施シ難キアラバ(實附此ノ如キ  
 トハナケレドモ筆記ノ際反呼符ヲ脱シ後ニ反呼ニナサソ  
 トスルノ時ノ如キ)其ノ記號ノ上ニ記置スルモ妨ゲナシ即  
 チトナトナスノ類ナリ其ノ他反呼ニ於テハ別ニ説明ス  
 ベキトナシ讀者猶左ニ掲グル反文綴字表中ノ例ニ依テ考  
 究スベシ



全反文題

1. 心誠ニシテ之ヲ求ムルハ自ラ善道ヲ得ルナリ
3. 閑暇ハ繁用ヨリ猶苦ルシキモノナリ
5. 難キ事ハ今日ナセ明日モ猶易キニ非ズ
6. 賢者ハ終リニ始メ愚者ハ始メニ終ル
7. 愚者ト天堂ニ居ラシヨリハ智者ト獄中ニ坐スルニ如ク
8. 時日ト忍耐トハ桑葉ナシテ紬緞ニ變ゼシム可シ
9. 天才ヲ恃マズ人カヲ盡ス可シ
10. 人ノ事業ハ志願成就ノ先驅タリ
11. 今日思考シテ明日語ル可シ
12. 無益ノ争論ハ勝ツニ益ナク負ルニ益アリ
13. 善良ナル新聞ニハ新聞アラズ
14. 閑暇ハ繁用ヨリ猶苦ルシキモノナリ

連語綴字例 (前=續ク)

心誠ニシテ之ヲ求ムルハ自ラ善道ヲ得ルナリ

- 1 閑暇ハ繁用ヨリ猶苦ルシキモノナリ
- 2 難キ事ハ今日ナセ明日モ猶易キニ非ズ
- 3 賢者ハ終リニ始メ愚者ハ始メニ終ル
- 4 愚者ト天堂ニ居ラシヨリハ智者ト獄中ニ坐スルニ如ク
- 5 時日ト忍耐トハ桑葉ナシテ紬緞ニ變ゼシム可シ
- 6 天才ヲ恃マズ人カヲ盡ス可シ
- 7 人ノ事業ハ志願成就ノ先驅タリ
- 8 今日思考シテ明日語ル可シ
- 9 無益ノ争論ハ勝ツニ益ナク負ルニ益アリ
- 10 善良ナル新聞ニハ新聞アラズ

(前續)

11. ㄍ ㄌ ㄈ ㄆ ㄊ ㄊ ㄊ ㄊ ㄌ ㄍ ㄆ ㄆ ㄆ
12. ㄈ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ
13. ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ
14. ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ
15. ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ

反呼翻文例題 (第三)

1. ㄌ ㄍ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ
2. ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ
3. ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ
4. ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ
5. ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ
6. ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ
7. ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ
8. ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ
9. ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ
10. ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ ㄆ

全綴字題

- 1 知識アリト雖也風俗正シカラサレハ未タ富强ヲ致スニ足ラス
- 2 凡ソ利潤ト爲ル者ニハ三原素アリ即チ財本ノ利子ニ危険ノ辨償監督ノ給料是ナリ
- 3 財産ナル言葉ハ能ク其真休ノ原資ヲ説クニ我所有スル事物ハ我之ヲ專領シ秋毫モ他人ニ干預セラレサルノ主力ヲ含蓄セリ
- 4 人其腦力ニ依リテ生出セル者モ其手足ヲ用シテ生出セル者ト同シク之ヲ專有スヘキ權理ヲ有ス
- 5 人生ハ近寒ノ地ニ行旅スル者ノ如シ寒氣愈々甚シキニ地ニ至レバ行歩愈々速ニセザル可ラス
- 6 其親愛スル所ノ友ヲ見テハ該人ノ性質ヲ知ル可ク其開明ノ度ヲ見テハ該國人思想ノ曲直正否ヲ知ル可キナリ
- 7 和平ハ賢者ノ夢ナリ戰亂ハ人生ノ正史ナリ
- 8 社會人類タル者ハ常ニ生活自治ノ存スルモノナレハ必ズ之ガ化醇變遷ナカラサル可ラス

前條示ス所ニテ讀者ハ充分ニ反呼ハ知了シタル者ト信ズ故ニ自今詰呼ニ移ラン詰呼トハ結音ニシテ語ヲ詰メテ呼ブ時若クハ力ヲ込メテ云フ時口中ニ在リ外ニ出テザル音ニシテ出發ノ出一件ノ一北國ノ北ノ如キヲ云フ之ヲ筆記法ニテハ其結音ニナル文字ヲ尋常記號ノ半分ニ記スルモノトシ或ハ其ノ端ヲ卷ク時モアリ壓制チ一件ヲトナスノ類ナリ其ノ他前法ニ從フ能ハサル場合アラハ詰呼符(、)ナル一ノ點ヲ結音記號ノ上ニ附置スルヲ以テ區別ス結黨ヲシト記スルカ如シ其ノ他説明スヘキコトナケレハ讀者左ニ掲グル汎例中ニ就テ學ヒ思考スルアラハ解シ難キノコトアルナシ

(前續)

連語綴字題

1. 了 へ へ へ へ へ  
 密ヲ 紙ルハ 小指ヲ 以テ セヨ

2. へ へ へ へ へ  
 悲歎一時 快樂ノ 一日ヨリ 長シ

全上題

- 1 昇ラント 欲スルモノハ 降ラン 一チ 思へ
- 2 囊中ニ 金ナキ 者ハ 舌頭ニ 金アリ
- 3 己レノ 升チ 以テ 人ノ 穀物ヲ 量ル 勿レ
- 4 其所業ハ 以テ 其心術ヲ 指示スルニ 足ル
- 5 土地ノ 所有權ハ 天空ニ 達ス可シ
- 6 一策 損スレハ 一百ノ 榮譽ヲ 損ス
- 7 二兎ヲ 逐フモノ 一兎ヲモ 得難シ
- 8 風ニ 向テ 塵ヲ 拂フ 勿レ
- 9 極メテ 美シキ 花ハ 却テ 香シカラス
- 10 人ノ 人タル 専ラ 生涯ノ 教育ニ ヨル者ナリ 教育ハ 生ニ 涯 其身ヲ 離レサルモノナリ

語呼單語綴字翻文題 (第一)

へ へ へ へ へ へ  
 壓制 一件 一件 鬱金 全 鬱憤

へ へ へ へ へ へ  
 活版 一朝 發行 跋扈 謁見 夫

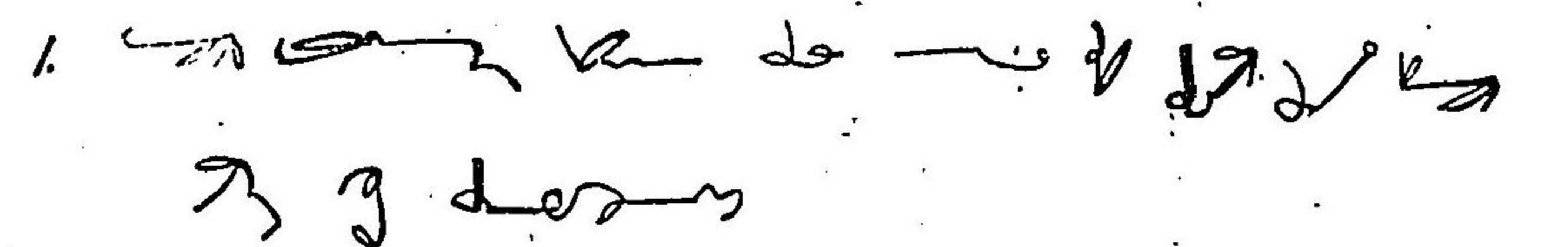
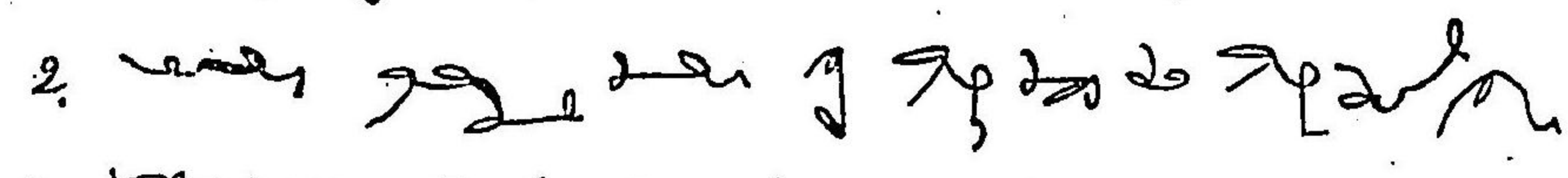

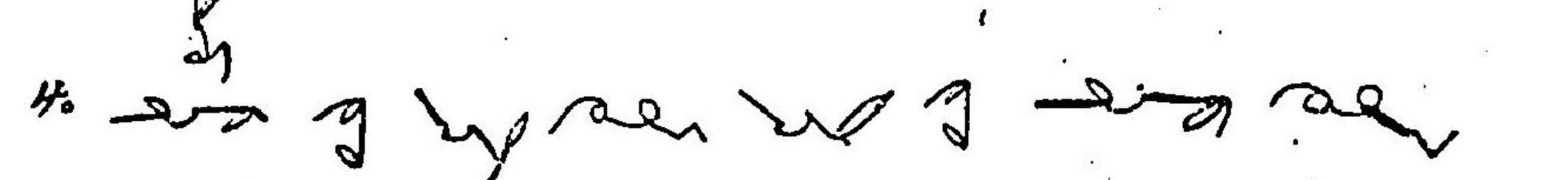
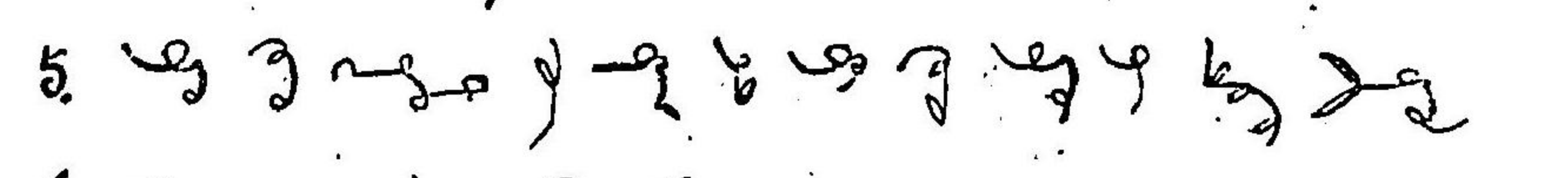
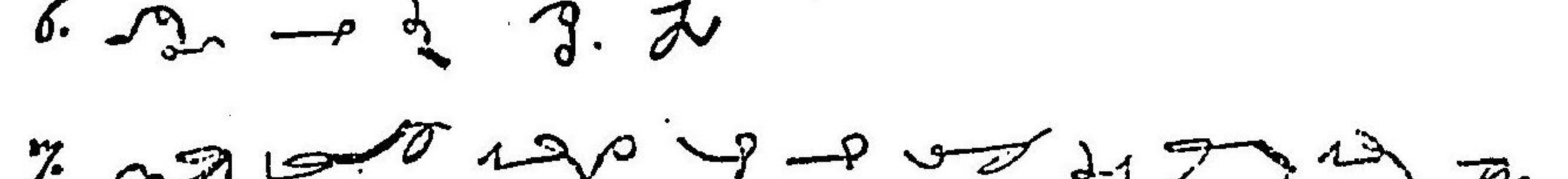
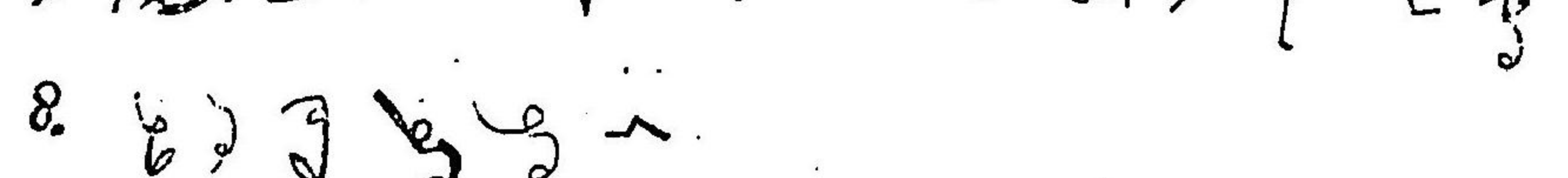

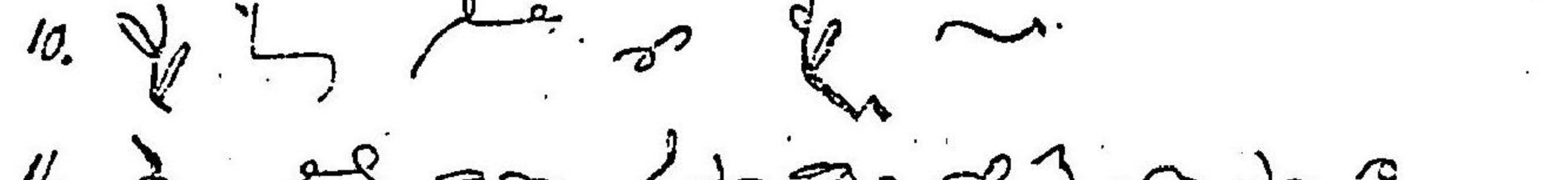
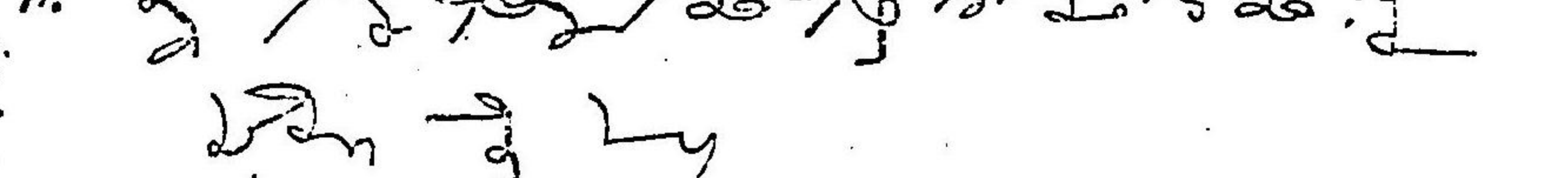
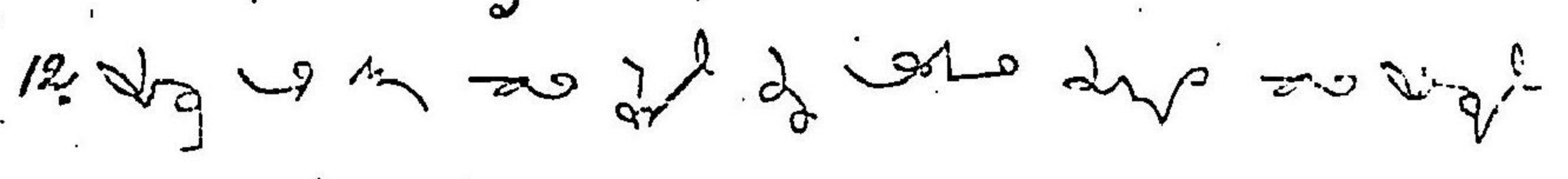

全題

1. 日本 2. 筆記 3. 學會 4. 語呼 5. 一旦 6. 技群 7. 突出 8. 獨歩  
 9. 整居 10. 棧古 11. 木琴 12. 月琴 13. 結婚 14. 實施 15. 結黨 16. 學校  
 17. 滅法 18. 出仕 19. 活計 20. 月給

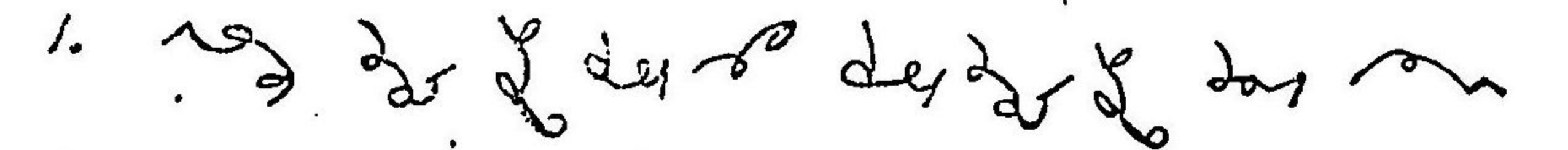


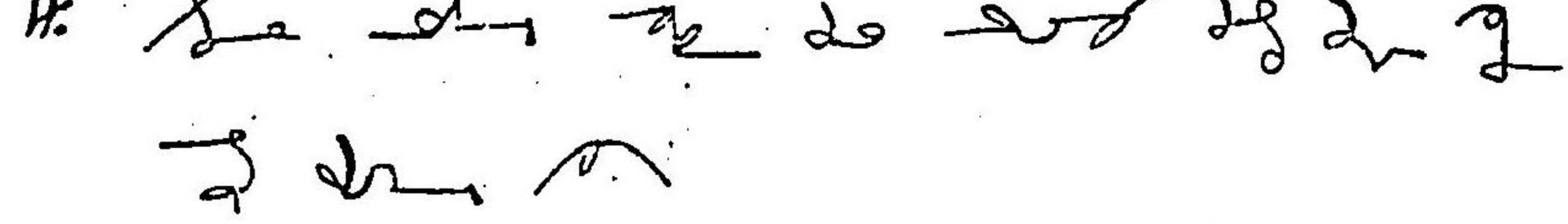

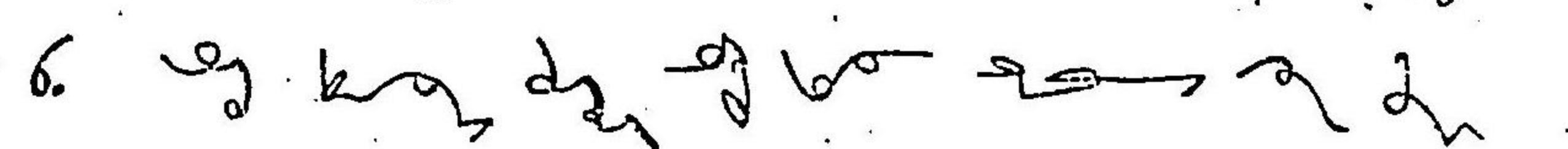
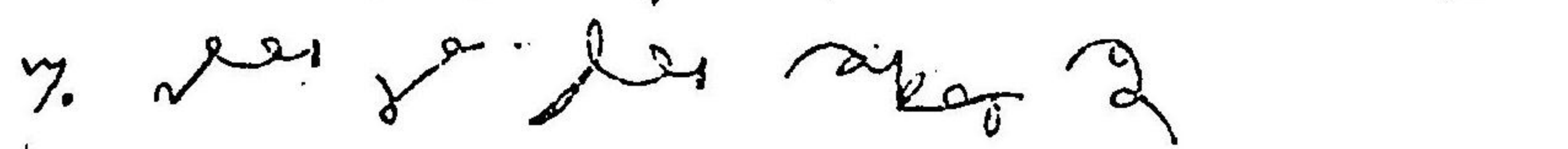


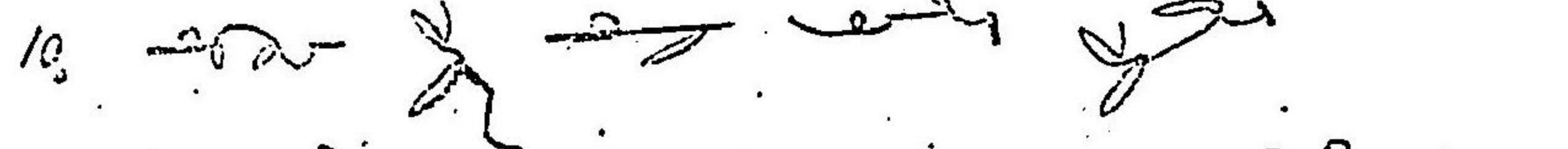

翻文題

1. へ 2. へ 3. へ 4. へ 5. へ 6. へ 7. へ 8. へ  
 9. へ 10. へ 11. へ 12. へ 13. へ 14. へ 15. へ 16. へ  
 17. へ 18. へ 19. へ 20. へ 21. へ 22. へ 23. へ 24. へ

詰呼翻文題 (第二)

1. 
2. 
3. 
4. 
5. 
6. 
7. 
8. 
9. 
10. 
11. 
12. 

全翻文題 (前續)

1. 
2. 
3. 
4. 
5. 
6. 
7. 
8. 
9. 
10. 
11. 

(前=續)



綴字題

- 1 人ヲ益スルモノハ正ニ以テ己レヲ益シ人ヲ損スニ  
ルモノ適々以テ己レヲ損ス
- 2 人生ノ如何ハ道德ノ結果ニヨルモノナリ
- 3 精神ノ發達ハ新規ノ思想ヲ得ルニアラサレハ能ハニ  
サルナリ
- 4 幼者ニ日課ヲ授ケルハ其未タ疲倦ノ色ヲ顯ササルニ  
及ソテ止メサル可ラス
- 5 凡ソ字内ノ講義ヲ以テスルモ練習ナクソハ人ヲシニ  
テ一鞋ヲ造ラシムルヲ能ハス
- 6 精神發達ノ進路ハ知識ヨリ記憶ニ進ムモノナリ
- 7 吾輩苟モ他人ニ超過卓絶セント欲セハ吾輩宜シニ  
ク勞力勉勵ス可シ

讀者上來示ス所ニヨリ其ノ法ニ從ヒ毎ニ其示ス所ノ綴字  
 題ハ記號ヲ以テ綴リ反文ハ皆讀來シテ我國字ニ譯セシナ  
 ラハ筆勢ノ遲速ハ兎マレ角マレ如何ナル文章ニテモ筆記  
 的ノ文字ヲ以テ書記スルヲ得ルナラソ然レトモソモ此ノ  
 筆記法ニ於テハ最モ練習ヲ要スル者ナレハ更ニ上來示シ  
 來リシ平呼長呼反呼詰呼ノ四呼ヲ合シ四呼文トナシ左ニ  
 續々示シ置ケハ矢張り前例ニ從ヒ其ノ綴文題ハ記號ヲ以  
 テ筆記シ反文題ハ悉ク譯讀記得セヨ只夫レ練習ハ此ニ止  
 ラス故ニ加點法ニ移ルノ前猶充分ニ幾多ノ文章ヲ反文綴  
 文スルヲ最モ緊要ノ事トスレハ平素人ト應對スル上ニ其  
 ノ言語ハ意中ニテ記號ヲ以テ筆記スル位ニ注意スヘシ四  
 呼文ハ第一ヨリ第十二ニ至ル必ス銳意綴文譯讀スヘシ

(前續)

8. ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ
9. ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ
10. ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ
11. ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ
12. ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ

四呼文例題 (第一)

1. ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ
2. ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ
3. ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ
4. ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ
5. ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ
6. ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ
7. ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ

翻文例題 (第二)

1. 凡百ノ人事同一ノ情況ノ下ニハ必ラス同一ノ結果ニ  
チ現ズ
2. 爲ス可キ時ニ爲セハ則チ從フ爲スヘカラサルチ爲  
ス可カラサルノ時ニ爲セハ則チ凶ナリ
3. 陽氣ノ發スル所金石亦透ル精神一到何事カ成ラ  
サラン
4. 生キレハ則チ堯舜死スレハ則チ腐骨生キレハ即チ  
桀王死スレハ即チ腐骨一ナリ
5. 循行論議ノ士嫉妬ノ名ニ遇ハス刑戮ノ咎チ免カル  
、チ得ル者ハ蓋シ其幸ナル者ナリ
6. 利百ナラサレハ俗チ變セス功什ナラサレハ器ハチ  
易ヘス
7. 大抵人ハ吾カ一己チ信セスシテ己レカ出テ逢フ一  
世ノ説チ信スル者ナリ

綴字題

- 1 凡百ノ人事同一ノ情況ノ下ニハ必ラス同一ノ結果ニ  
チ現ズ
- 2 爲ス可キ時ニ爲セハ則チ從フ爲スヘカラサルチ爲  
ス可カラサルノ時ニ爲セハ則チ凶ナリ
- 3 陽氣ノ發スル所金石亦透ル精神一到何事カ成ラ  
サラン
- 4 生キレハ則チ堯舜死スレハ則チ腐骨生キレハ即チ  
桀王死スレハ即チ腐骨一ナリ
- 5 循行論議ノ士嫉妬ノ名ニ遇ハス刑戮ノ咎チ免カル  
、チ得ル者ハ蓋シ其幸ナル者ナリ
- 6 利百ナラサレハ俗チ變セス功什ナラサレハ器ハチ  
易ヘス
- 7 大抵人ハ吾カ一己チ信セスシテ己レカ出テ逢フ一  
世ノ説チ信スル者ナリ



綴 字 題

- 1 物情 恟々ノ 際ニ 於テ 要用トスル 條例ハ 其靜謐ニ 復スルノ 後ハ 則チ 之ヲ 廢止ス可シ 病ヲ 養フカ 爲メニ 是ルノ 食餌ハ 健康ニ 復スルノ 後 復テ 用フ可カラサルト 同一ノ 理ナリ
- 2 人民一般ノ 意思ノ 嚮フ 所ヲ 以テ 法ノ 根源トシ 之ヲ 以テ 國家ノ 大權ト 爲ス故ニ 人民ト 共ニ 欲スル所ハ 法トナリ 共ニ 欲セサル 所ハ 則チ 法トナスニ 足ラス
- 3 天下 凡百ノ 社會 始メテ 生スルニ 於テハ 制度ヲ 立ル所ノ 者ハ 必ス 國家ノ 元首ニ 在リ 後ニ 至ラハ 國家ノ 元首ヲ 立ル 所ノ 者ハ 制度ニ 在リ
- 4 刑典 極メテ 寛和ナル 邦國ニ 於テハ 人心ノ 輕罰ニ 感動 敬服スルヲ 猶 他ノ 國民ノ 嚴刑ニ 恐怖 畏懼スルカ 如シ 是レ 實驗ニ 於テ 然リ
- 5 確定ノ 制度ヲ 貴重セサル 國人ハ 一ノ 英雄ヲ 見テ 神ノ 如ク 資ヒ 君權ヲ 舉ケテ 此者ニ 委託シテ 中央 集權ノ 緒ヲ 開キ 然ラサレハ 或ハ 全ク 政府ヲ 廢シテ 各個人ノ 自己 專制 即チ 法ナク 道ナキニ 陥ラントス

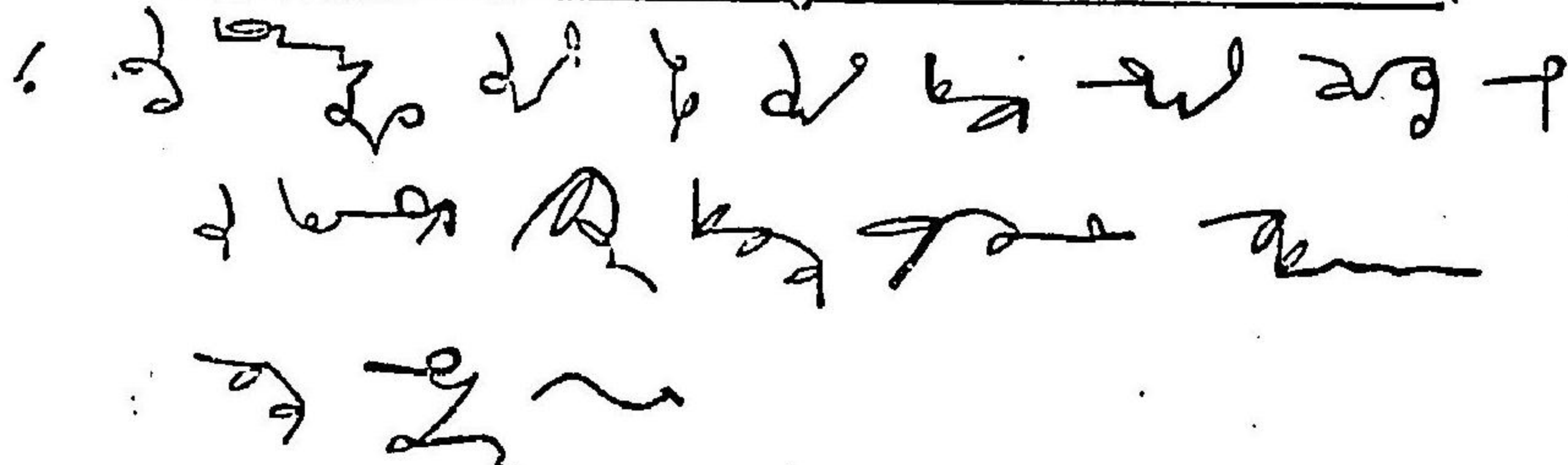
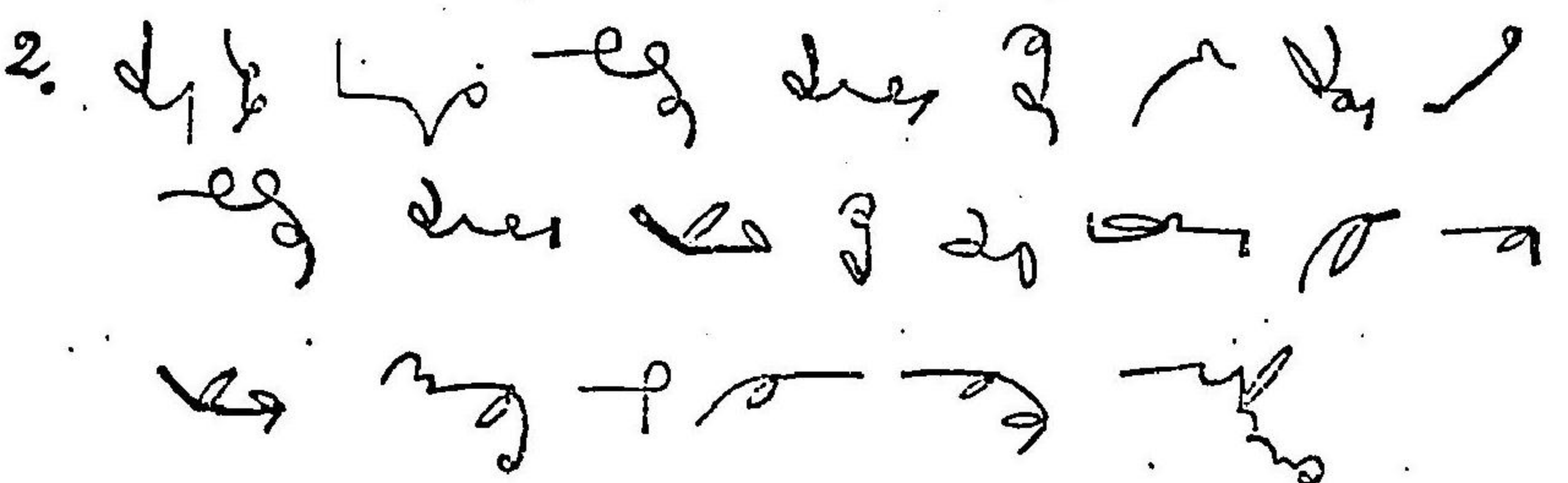
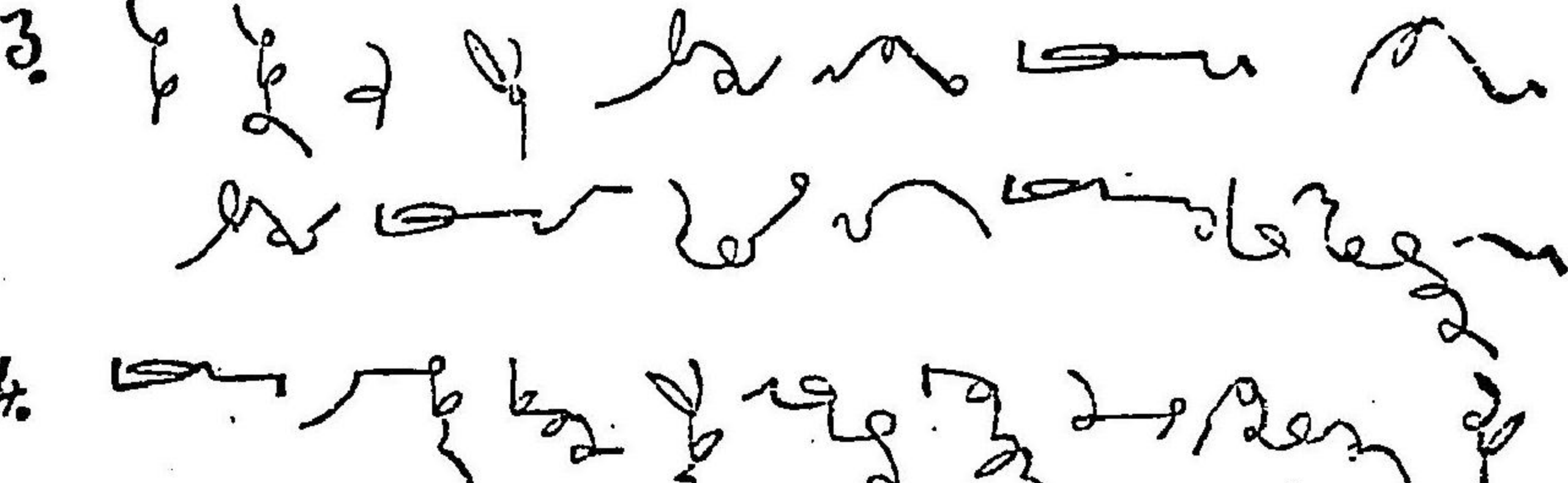
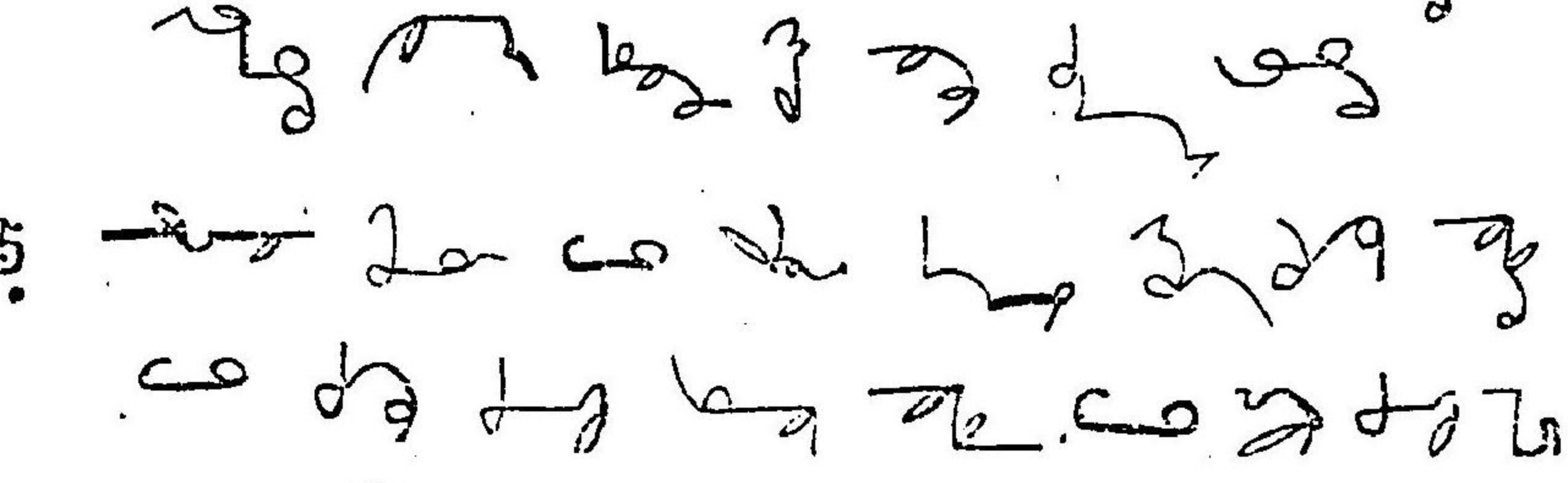
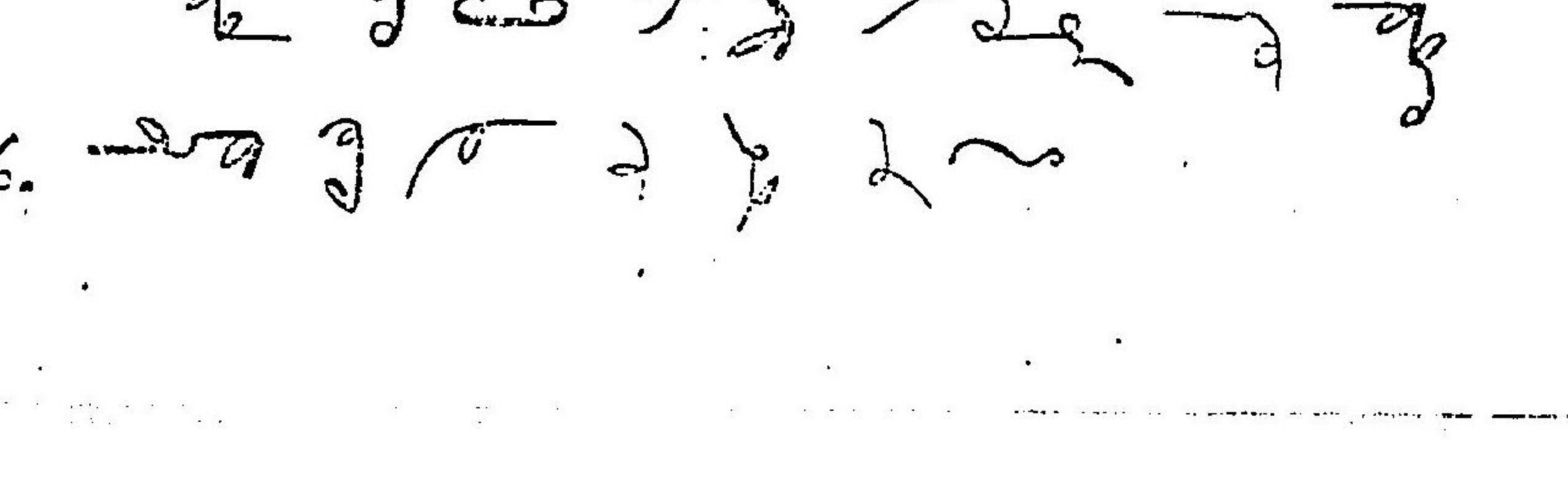

(前=續ク)

7. *Handwritten notes in Japanese, including the number 7 and several lines of cursive text.*

綴字題

- 1 教授ノ成功ヲ保タント欲シハ教師自ラ商明 忠明ナ  
ル 德行ヲ有スルニ在リ 是外人ノ能ク 喙ヲ容ルニ  
所ニ非ルナリ
- 2 理學ノ目的ハ知識ニ非ス 唯精力ヲシテ 知識ト相親ニ  
陸ナラシムルニアルノミ
- 3 兒童ノ寔ニ 兒童タル時ハ 特ニ一回ニシテ 其幼時ニ  
ニ適スル 教育ヲ受ル時モ 亦二回ナシ
- 4 人ノ辨解ヲ爲スニ 功ミナル者ハ 却テ事ヲ爲スニ  
功ナルヲ能ハス
- 5 學術ナル者ハ 元來 實驗上ヨリ 得タル 學識ヲ 蒐集 整  
頓シタル者ナリ
- 6 唯宜ク 分陰ヲ 惜メ 分陰ヲ 惜メハ 寸陰 其中ニ 存スニ
- 7 練習ハ 一思想ヲ 從テ 暢發スルヲ 謂フナリ
- 8 汝ノ 父母ヨリ 受ル 所ハ 汝ニ 所有ス可シ
- 9 堅確 平易ノ 道路ニシテ 見テ 善良ト 爲ス可キ者ハ 其ニ  
道 必ス 善良ナル可シ
- 10 彫刻術ノ 大理石ニ 於ケルハ 猶 教育ノ 人心ニ 於ルカニ  
如シ

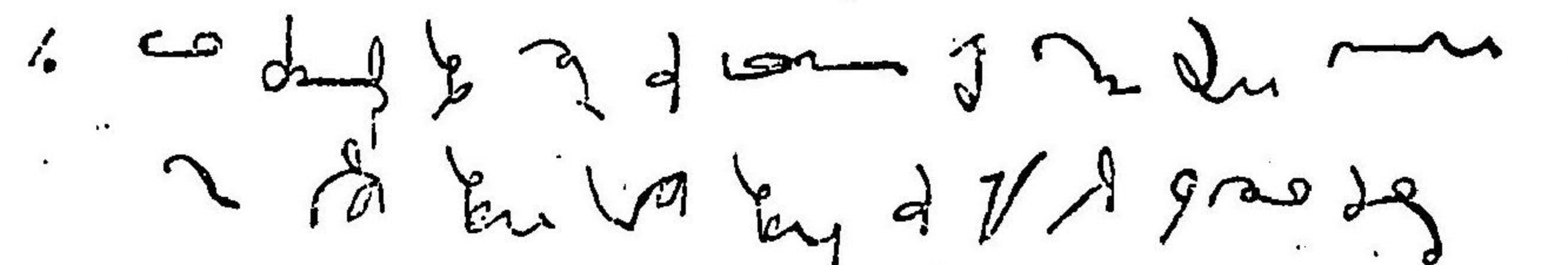
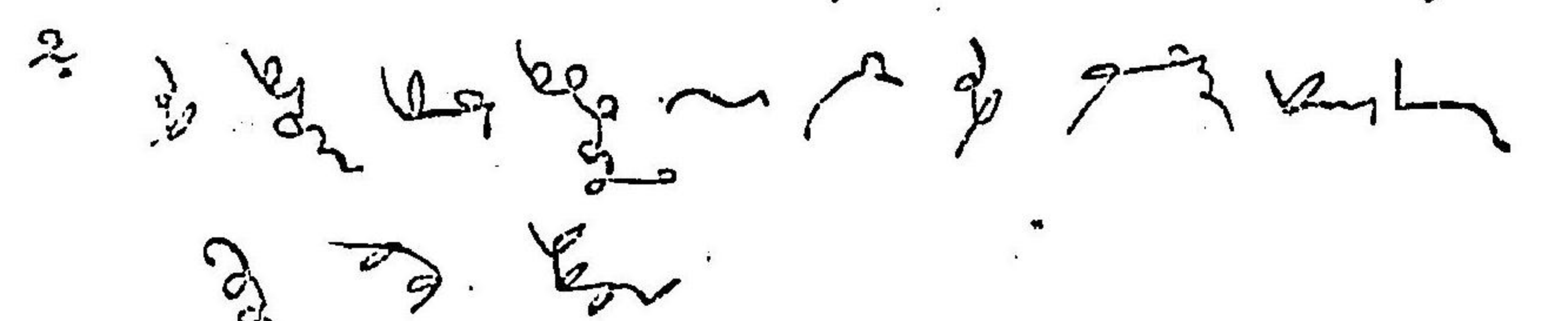
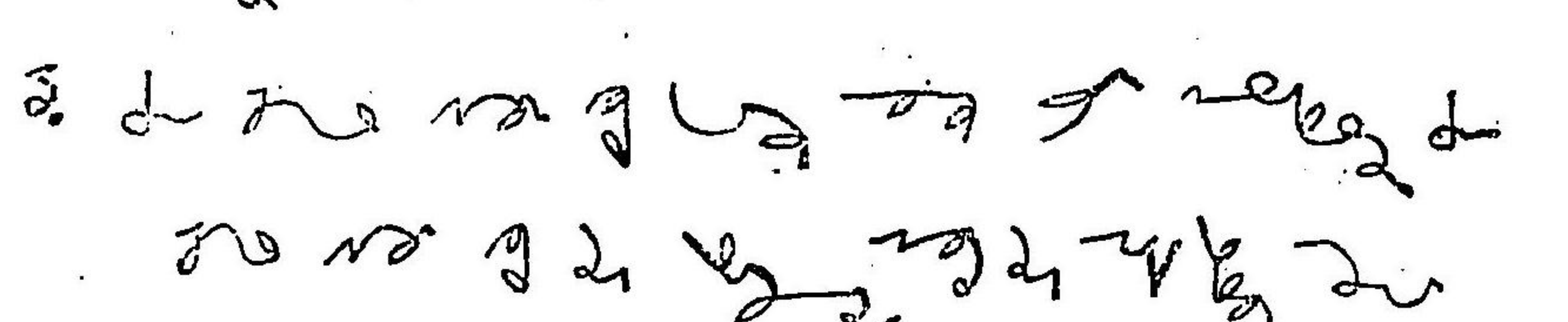
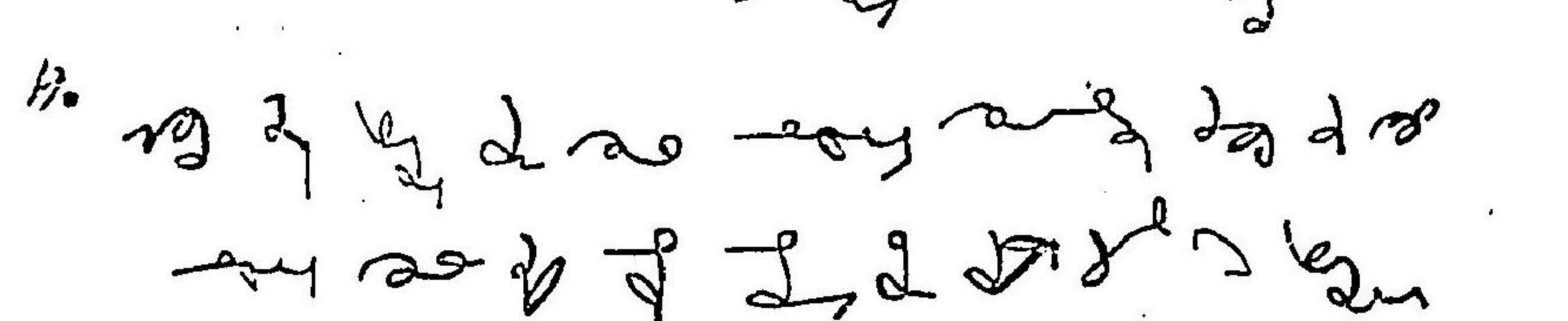
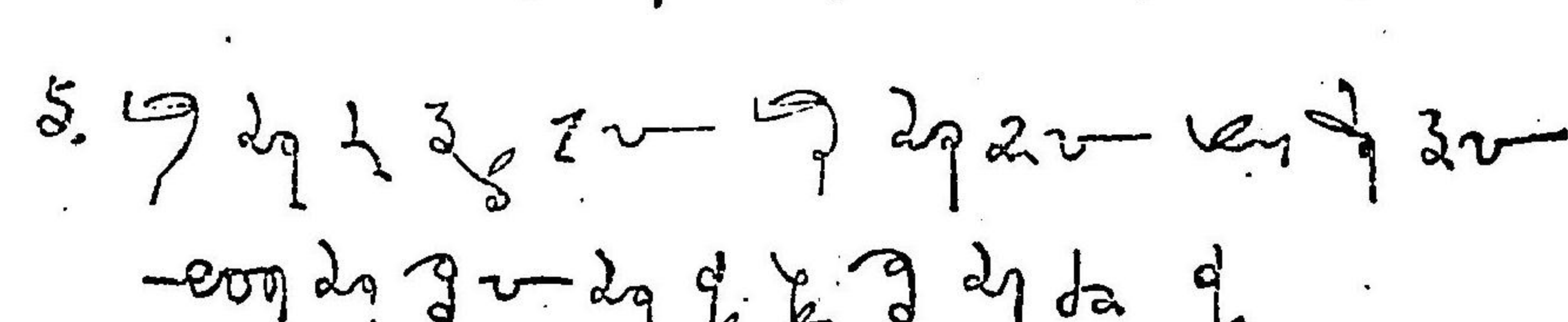
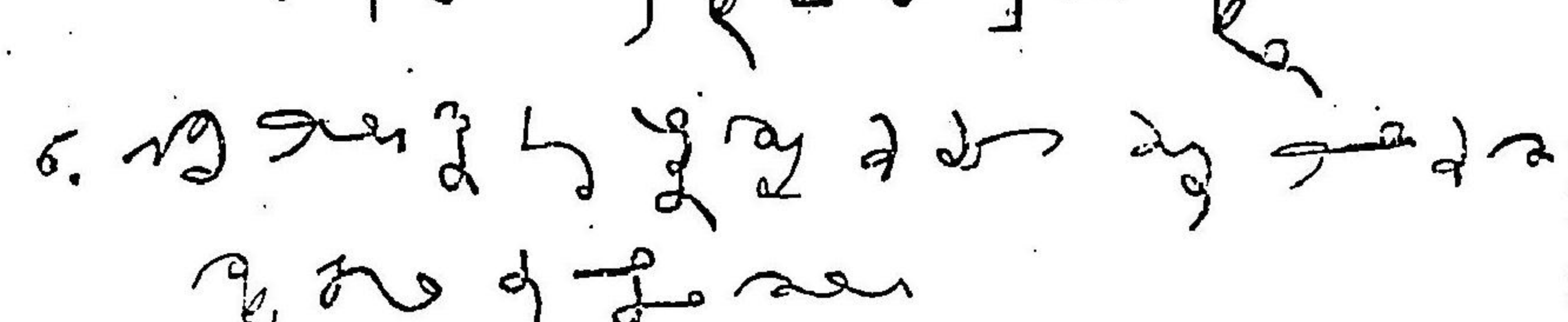

翻文例題 (第三)

1. 
2. 
3. 
4. 
5. 
6. 

綴字題

- 1 人ハ筆記ノ練習セサル可カラス何トナレハ筆ハ人ノ智覺ニ  
チ磨キ言語ヲ正シ思慮ヲ益シ靈魂ヲ盛ニスルヲ大ナレニ  
ハナリ見ル可シ文詞讀書盛ナルノ民ニシテ唯能ク開化ニ  
ノ民タルヲ得ルニ至ル可シ
- 2 習慣ハ我存滅ニ能ハサル一種ノ力ナリ此力ハ或ハ之ヲ善ニ  
用シ或ハ之ヲ誤用スト雖モ其活動ヲ防止スルハ我力ノ  
及フ所ニ非ス
- 3 道德教育ハ少年ニ教フルニ善道ヲ以テスルヨリハ寧ロ之ニ  
チシテ其善トスル所ノ行爲ニ固着スルノ性情ヲ發達セシ  
ムルニ在ルトリ
- 4 人間ノ本質ハ其人ノ慣性ニ就テ求ム可カラス必ス其精神ニ  
及父母家族社會及本國ノ關係ニ就テ之ヲ求ム可シ
- 5 人各一ト度ハ必ス責任ヲ受ク可キ者ナリ而シテ善良德行ニ  
ノ人タラズニハ必ス其精神ヲ薰陶ス可キナリ
- 6 幼稚ノ心意ハ空虛ニ存在スルヲ能ハス若シ之ヲ與フルニ  
善ヲ以テセサレハ其感ヲ受領スルヲ必ヒリ
- 7 人間精神ノ暢發及活動ヲ主司スルノ法ハ宇宙間萬物ノ法ニ  
則ト更ニ異ナルヲチ眞正ノ教育ハ此法則ヲ了解シ且  
之ヲ應用スルヲ本トス

翻文例題 (第四)

1. 
2. 
3. 
4. 
5. 
6. 
7. 

綴字題

- 1 獵夫ノ銃丸一旦水禽ノ羽翼ニ觸ル時ハ忽チ水中ニ入リテ  
其影ヲ見ス汝若シ兒童ヲシテ驚怖ノ心ヲ懷カシムル時  
ハ則チ汝ノ眼ヲ避ク可シ
- 2 少年精神ノ胃腑ハ能ク多量ノ食物ヲ受ケ得ルト雖モ當時  
世人ノ強テ與フル所ノ食物ヲ食ニ盡サント欲セハ駝鳥  
ノ胃腑ヲ假リ用ヒサル可ラス
- 3 想像ノ人ハ實在ノ人ヨリ老タリ兒童ノ地位ハ賤劣ノ人ヨ  
リ却テ高優ノ人ニ近シ時ヲ度ルハ市中ノ時辰鐘ヲ見ノ  
ヨリ先星辰ノ運行及ヒ太陽ノ高低ヲ望メテ之ヲ度ル可  
キナリ
- 4 言ハ思想ヲ先ニシ規則ハ原理ヲ先ニシ記憶ハ判斷ヲ先ニ  
シ定規ノ教導ハ臨時ノ教導ヲ先ニシ綴字ハ讀書ヲ先ニ  
シ文字ノ稱呼ハ文字ノ發音ヲ先ニシ人工ハ天工ヲ先ニ  
ス可シ
- 5 自然ノ理既ニ感得ノ質ヲ以テ童蒙ノ腦ニ賦與ス故ニ百事  
皆感得セサルナシ然レモ徒ニ地名人名其他意味ナキ  
言語ヲ讀記セシメ以テ童蒙ノ微弱ナル腦髓ヲ害フコト  
勿レ勉メテ童蒙ノ感得シ易ク且要用ニシテ修身讀記ス  
可キモノヲ授ク可シ

翻文例題 (第五)

1. 獵夫ノ銃丸一旦水禽ノ羽翼ニ觸ル時ハ忽チ水中ニ入リテ  
其影ヲ見ス汝若シ兒童ヲシテ驚怖ノ心ヲ懷カシムル時  
ハ則チ汝ノ眼ヲ避ク可シ
2. 少年精神ノ胃腑ハ能ク多量ノ食物ヲ受ケ得ルト雖モ當時  
世人ノ強テ與フル所ノ食物ヲ食ニ盡サント欲セハ駝鳥  
ノ胃腑ヲ假リ用ヒサル可ラス
3. 想像ノ人ハ實在ノ人ヨリ老タリ兒童ノ地位ハ賤劣ノ人ヨ  
リ却テ高優ノ人ニ近シ時ヲ度ルハ市中ノ時辰鐘ヲ見ノ  
ヨリ先星辰ノ運行及ヒ太陽ノ高低ヲ望メテ之ヲ度ル可  
キナリ
4. 言ハ思想ヲ先ニシ規則ハ原理ヲ先ニシ記憶ハ判斷ヲ先ニ  
シ定規ノ教導ハ臨時ノ教導ヲ先ニシ綴字ハ讀書ヲ先ニ  
シ文字ノ稱呼ハ文字ノ發音ヲ先ニシ人工ハ天工ヲ先ニ  
ス可シ
5. 自然ノ理既ニ感得ノ質ヲ以テ童蒙ノ腦ニ賦與ス故ニ百事  
皆感得セサルナシ然レモ徒ニ地名人名其他意味ナキ  
言語ヲ讀記セシメ以テ童蒙ノ微弱ナル腦髓ヲ害フコト  
勿レ勉メテ童蒙ノ感得シ易ク且要用ニシテ修身讀記ス  
可キモノヲ授ク可シ

綴字題

- 1 教育ノ要ハ真理ヲ愛スルノ心ヲ養ヒ且此真理ヲ看破ス可キ精神ノ視力ヲ澄明スルニアリ
- 2 善良ナル國民ヲ養生スルハ歡樂愉快ヲ求メテ之ニ耽ルヨリモ甚タ喜ブ可キ者ナリ
- 3 冗長ノ講義及ヒ冗長ノ理論ハ徒ニ兒童ヲ驚駭シ且其心ヲ攪亂スルノミニシテ之ヲ教ルニ非ルナリ
- 4 教育ハ人ノ性ヲ變換フルニ非ス唯能ク之ヲ修繕スルノミナリ
- 5 人ノ能ク其睿智ヲ保有シ且能ク之ヲ強健ナラシムルハ習慣ノ致ス所ナリ
- 6 腦力練習善ヲ極ムト雖モ其心汚穢ナル片ハ猶賦稟ノ上ニ聖殿ヲ建ルカ如シ
- 7 辛苦ノ事ハ卓絶ノ才ニ進ム可キ道路ナリ絶妙ノ地位ハ辛苦ノ人ノ獲可キ恩賞ナリ
- 8 教育ハ心ト体トノ各様ノ需用ニ注意シテ之ヲ施サ、ル可ラス
- 9 藝術ハ自ラ藝術ナリ人若シ之ヲ講究ヒサレハ藝術家ト稱ス可カラサルナリ
- 10 智識ノ損耗スルハ必ス注意ノ欠乏ニ原因セサル事ナシ

翻文題 (第六)

1. 教育ノ要ハ真理ヲ愛スルノ心ヲ養ヒ且此真理ヲ看破ス可キ精神ノ視力ヲ澄明スルニアリ
2. 善良ナル國民ヲ養生スルハ歡樂愉快ヲ求メテ之ニ耽ルヨリモ甚タ喜ブ可キ者ナリ
3. 冗長ノ講義及ヒ冗長ノ理論ハ徒ニ兒童ヲ驚駭シ且其心ヲ攪亂スルノミニシテ之ヲ教ルニ非ルナリ
4. 教育ハ人ノ性ヲ變換フルニ非ス唯能ク之ヲ修繕スルノミナリ
5. 人ノ能ク其睿智ヲ保有シ且能ク之ヲ強健ナラシムルハ習慣ノ致ス所ナリ
6. 腦力練習善ヲ極ムト雖モ其心汚穢ナル片ハ猶賦稟ノ上ニ聖殿ヲ建ルカ如シ
7. 辛苦ノ事ハ卓絶ノ才ニ進ム可キ道路ナリ絶妙ノ地位ハ辛苦ノ人ノ獲可キ恩賞ナリ
8. 教育ハ心ト体トノ各様ノ需用ニ注意シテ之ヲ施サ、ル可ラス
9. 藝術ハ自ラ藝術ナリ人若シ之ヲ講究ヒサレハ藝術家ト稱ス可カラサルナリ
10. 智識ノ損耗スルハ必ス注意ノ欠乏ニ原因セサル事ナシ

綴字題

- 1 太陽動植物ノ爲メニ常ニ光線温度ヲ送與シ數々雨ヲ降ラシメ風ヲ起シ稀ニ雷鳴激電ヲ來スハ校戒ノ良範ナリ
- 2 教育ノ主トスル所ハ懲戒ナリ是即兒童ノ私慾ヲ挫折シ以テ其天然ノ鄙癖ヲ剪滅セシメカ爲メナリ
- 3 自己ノ活動ハ其身ヲ修繕スルニ欠ク可カラサル要訣タリニ教育トハ唯自然ノ活動力ニ供給スルニ材料ヲ以テ其教育ノ目的ヲ達セシムルノミ
- 4 人間ノ精神ヲ照明スルノ方法ハ暗夜ニ電光ノ閃クカ如ク一時人眼ヲ眩惑シ復忽チ之ヲ暗黒ノ内ニ捨ツルカ如キニ非ス黎明ノ際漸次諸物ヲ光明ナラシムルカ如クナル可シ
- 5 人ハ成敗得失ヲ使令シ己レノ意ニ從ハシムルノ權ナシ然レモ勉強シテ己マサレハ天賞トシテ成就ノ賜物ヲ受ク可シ
- 6 人ノ思想ヲ明晰ナラシメント欲セハ宜シク識別ノ力ヲ養成ス可シ故ニ生徒ヲ教育スルニ當テヤ必ス生徒自己ノ智力ニ關涉スルヲ勿レ
- 7 凡ソ工業人智及ヒ社會ノ進歩ハ宇宙ノ法則ヲ覺知スルニ關スルモノニシテ之ニ由ラサレハ別ニ進歩ノ路ナキカ故ニ國ノ隆盛ニ赴クハ物理學博物學ノ小學ヲ盛ニスルニ如ス

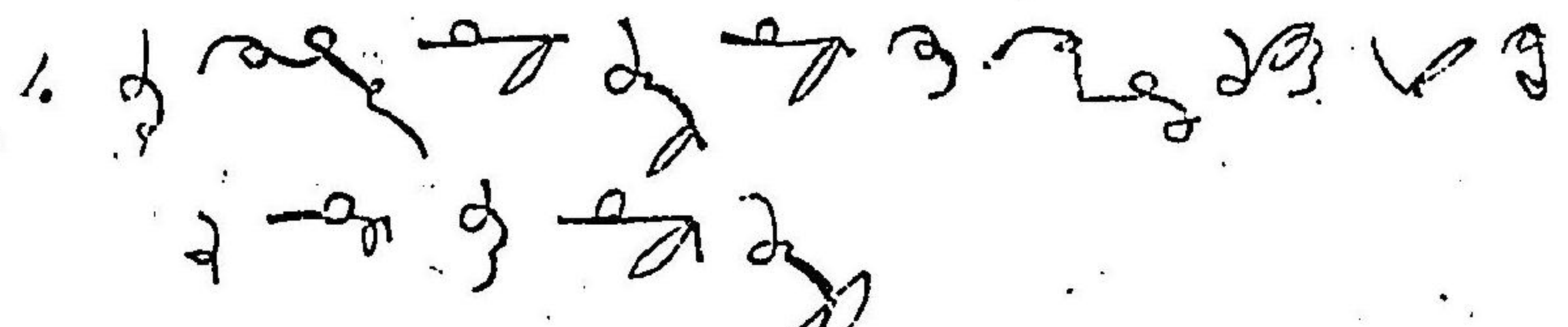
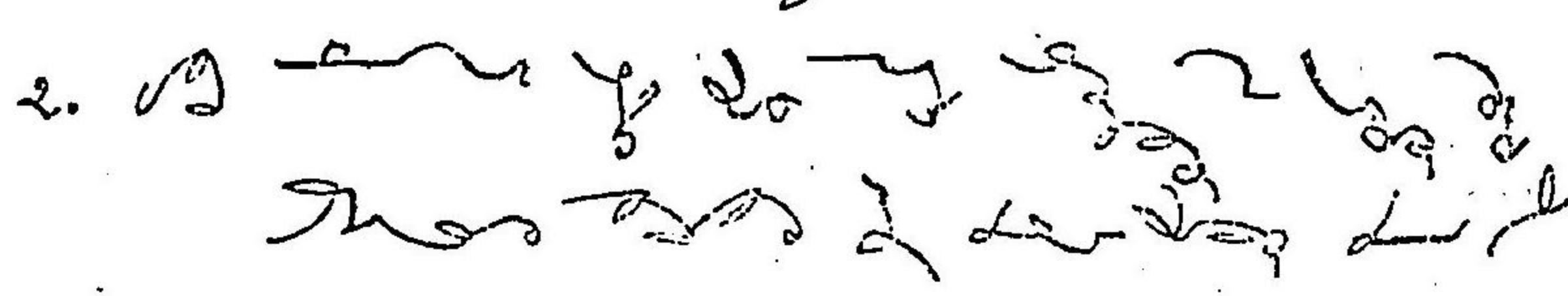
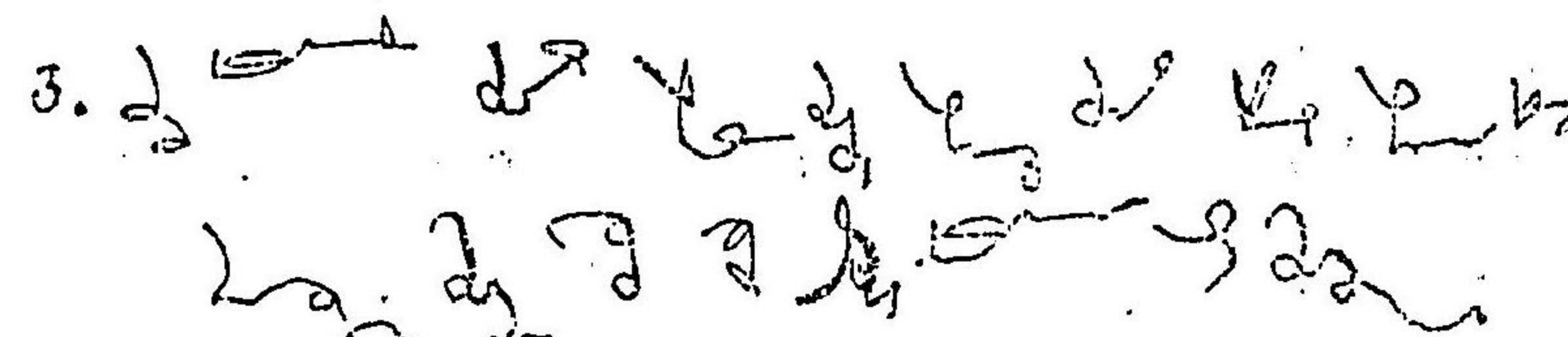
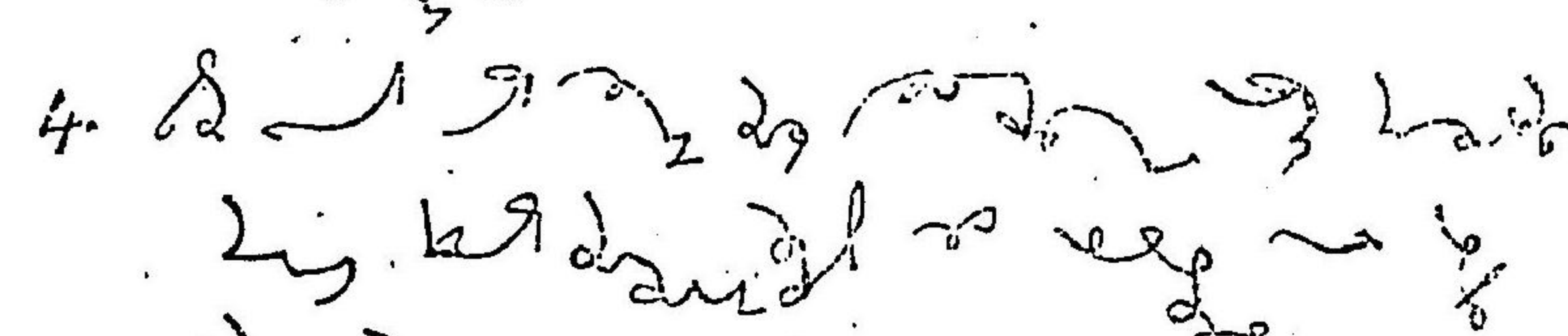
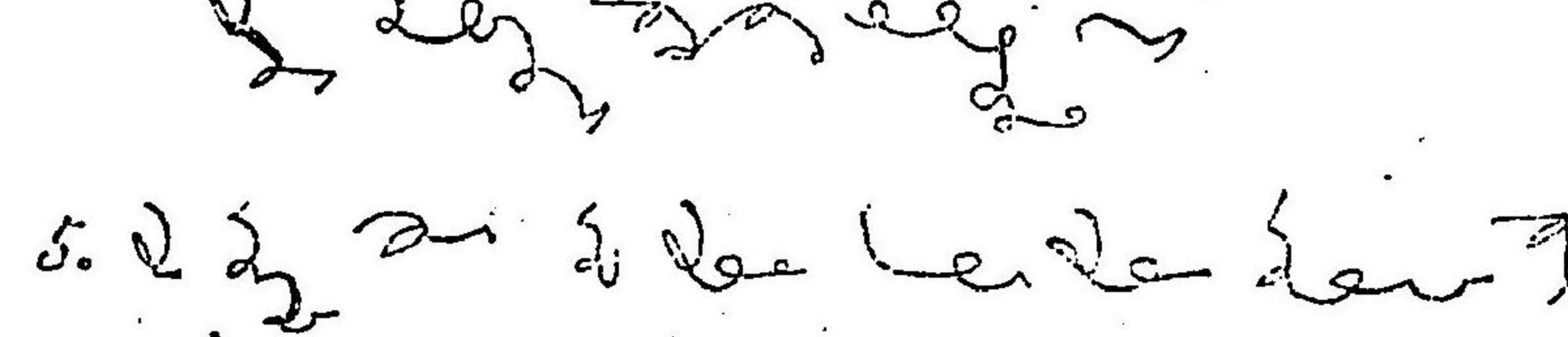
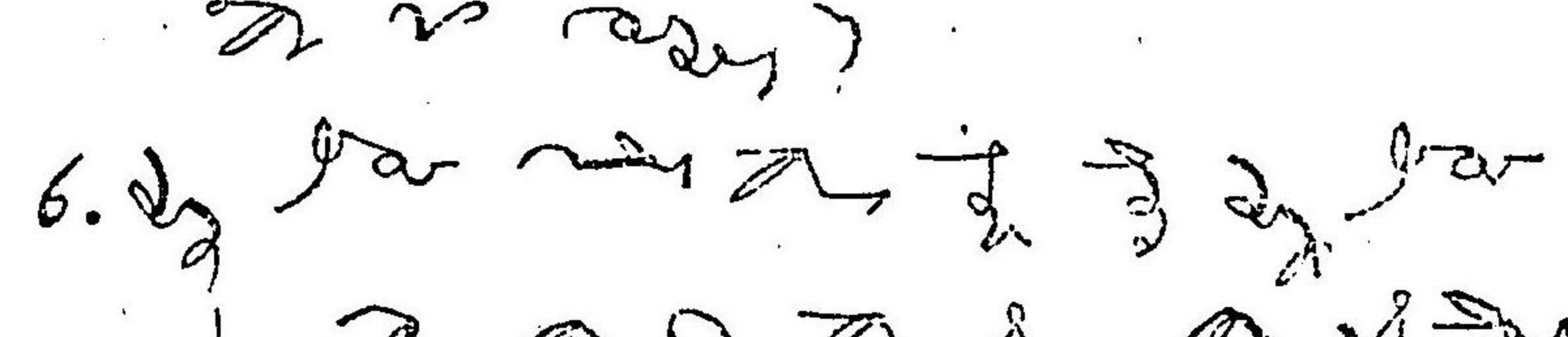
翻文例題 (第七)

1. 太陽動植物ノ爲メニ常ニ光線温度ヲ送與シ數々雨ヲ降ラシメ風ヲ起シ稀ニ雷鳴激電ヲ來スハ校戒ノ良範ナリ
2. 教育ノ主トスル所ハ懲戒ナリ是即兒童ノ私慾ヲ挫折シ以テ其天然ノ鄙癖ヲ剪滅セシメカ爲メナリ
3. 自己ノ活動ハ其身ヲ修繕スルニ欠ク可カラサル要訣タリニ教育トハ唯自然ノ活動力ニ供給スルニ材料ヲ以テ其教育ノ目的ヲ達セシムルノミ
4. 人間ノ精神ヲ照明スルノ方法ハ暗夜ニ電光ノ閃クカ如ク一時人眼ヲ眩惑シ復忽チ之ヲ暗黒ノ内ニ捨ツルカ如キニ非ス黎明ノ際漸次諸物ヲ光明ナラシムルカ如クナル可シ
5. 人ハ成敗得失ヲ使令シ己レノ意ニ從ハシムルノ權ナシ然レモ勉強シテ己マサレハ天賞トシテ成就ノ賜物ヲ受ク可シ
6. 人ノ思想ヲ明晰ナラシメント欲セハ宜シク識別ノ力ヲ養成ス可シ故ニ生徒ヲ教育スルニ當テヤ必ス生徒自己ノ智力ニ關涉スルヲ勿レ
7. 凡ソ工業人智及ヒ社會ノ進歩ハ宇宙ノ法則ヲ覺知スルニ關スルモノニシテ之ニ由ラサレハ別ニ進歩ノ路ナキカ故ニ國ノ隆盛ニ赴クハ物理學博物學ノ小學ヲ盛ニスルニ如ス

綴字題

- 1 教育ノ結果ヲ見ルハ恰モ草木ノ蕾ノ太陽ト水氣ノ發育ニ  
藉テ花ヲ開キ實ヲ結フカ如キモノニシテ空器ニ水ヲ盛  
ルカ如キモノニ非ス
- 2 人間ノ知識ハ五官ニ原キ五官ハ智力ニ原キ智力ハ道理ニ  
原ク道理ハ識別ノ力ヲ運用シ以テ之ヲ我意思ニ及ス者  
ナリ
- 3 精神及道德ノ教育ニ於テハ兒童ヲシテ事ノ曲非ヲ判決ス  
ルノ前必ス先正直ノ風ニ感染ヒシムルヲ要ス
- 4 人タル者ハ其品行ヲ高尚ニス可シ然ラサレハ才能アリト  
雖モ觀ルニ足ラス世間ノ利運ヲ得ルモ貴フニ足ルコト  
ナシ
- 5 諸學術ノ價值ヲ互ニ相比較シ其多少ヲ測知スルハ教育ノ  
道ニ於テ一大緊要ノ問題ニシテ今日我輩ノ具ニ講究セ  
サル可カラサル所ノモノナリ
- 6 人間ハ固ト惡癖アリ縱令是非ノ心ヲ以テ之ヲ矯正スルモ  
一旦其欲ヲ逞フシテ其性情ノ誘フ所ニ墮トスルノ勢  
ヒアリ
- 7 汝カ職業上ニ名譽ヲ得ノカ爲ニ勞作ス可シ決シテ汝カ一  
身上ニ名望聲譽ヲ得ノコトヲ要求ス可カラス

翻文例題 (第八)

1. 
2. 
3. 
4. 
5. 
6. 

綴字題

1 平等ナル者ハ決シテ存立ス可カラズ其事タル事物ノ停滯不  
動ヲ生ズルカ故ニ道德上ト社會上ニ於テモ空虚寂滅ノ  
勢ヒニ陥ラザル可ラス若シ夫レ萬物ニシテ其容積相均  
シク同一ノ距離同一ノ引カタラハ天体ノ行運仰シ可カ  
ラス四季ノ涉環觀ル可カラス而シテ植物ノ生育望ム可  
カラサルナリ夫レ人生ニ財產ノ不同アルハ造物主ノ深  
意ニ出ル者トス如何トナレハ人々ノ財產ハ此不同ニ非  
ンハ存スル能ハス而シテ此財產タル實ニ人世改進黨ノ基礎  
タレハナリ

2 古人ノ固守セル所ノ制度習慣ハ今人ヨリ之ヲ觀レハ其軌  
行ニ堪エス而シテ當時ノ先覺者カ首唱セシ所ノ正義確論  
ハ衆人認メテ邪說妄談ト爲セリ人々習慣教育ノ爲メニ  
其心智ヲ絆サレ之カ羈約ヲ脱スルノ難キ彼カ如ク公衆  
ノ時俗ニ迷エテ其識見ニ乏シキ此ノ如ク夫レ其甚シ諺  
ニ曰ク當時ノ人ニシテ能ク當時ノ歴史ヲ記スル者非ス  
ト蓋シ偏見ノ免レサルヲ證ヒルナリ

翻文例題 (第九)

1. *[Handwritten Japanese text]*

2. *[Handwritten Japanese text]*

3. *[Handwritten Japanese text]*



綴字題

- 1 凡ソ人ハ諸道理諸効驗ハ同時ニ並起並立スルヤヲ信シ易キノ失アリ是心思意想ノ年代記ヲ回顧スルヲ忘レタルニ由リ數百年ノ思想ヲ以テ一朝ノ思想ト誤認スルニ至レリ
- 2 幸福ノ波及ハ之ヲ凶害ノ波及ニ比スルハ頗ル遅クシテ感ヲ起シ難ク幸福種子ノ希望ニ於ルハ凶害種子ノ駭愕ニ於ルカ如キノ生殖結果ヲ得ルヲ寡ク然レモ此差異ハ十分ニ之ヲ補フヲ得可シ何トナレハ幸福ハ常ニ行ハル所ノ必然原因ノ結果ニシテ凶害ハ唯變ニヨリテ生シ間斷アリテ起ル者ナレハナリ
- 3 見識ハ愈々高尚ニシテ愈々無識者ノ能ク了知シ得サル者トス故ニ夫ノ廣ク一時ニ入望ヲ取ル者又ハ愚民ノ喝采ヲ得ル記者ノ如キハ其知識世人ト大ナル差違ナキヲ以テ衆人ノ能ク了知シ得ル所ノ者ニシテ迥ニ世人ニ超越シ凡眼ノ達シ能ハサル高尚ノ人物ニ非ルナリ何トナレハ他人ノ器量ヲ鑑察スルハ多少思想ノ同シキ所アルニ非サレハ能ハス己レ其器ニシテ始メテ能ク他人ノ器宇ヲ鑑別シ得可キヲ以テナリ故ニ最モ卓絶ナル士カ若シ一般投票ノ法ニ依テ撰舉セラレシテ希望ヒハ到底其志ヲ達スルノ期ヲカル可シ

翻文例題 (第十)

1. 凡ソ人ハ諸道理諸効驗ハ同時ニ並起並立スルヤヲ信シ易キノ失アリ是心思意想ノ年代記ヲ回顧スルヲ忘レタルニ由リ數百年ノ思想ヲ以テ一朝ノ思想ト誤認スルニ至レリ
2. 幸福ノ波及ハ之ヲ凶害ノ波及ニ比スルハ頗ル遅クシテ感ヲ起シ難ク幸福種子ノ希望ニ於ルハ凶害種子ノ駭愕ニ於ルカ如キノ生殖結果ヲ得ルヲ寡ク然レモ此差異ハ十分ニ之ヲ補フヲ得可シ何トナレハ幸福ハ常ニ行ハル所ノ必然原因ノ結果ニシテ凶害ハ唯變ニヨリテ生シ間斷アリテ起ル者ナレハナリ
3. 見識ハ愈々高尚ニシテ愈々無識者ノ能ク了知シ得サル者トス故ニ夫ノ廣ク一時ニ入望ヲ取ル者又ハ愚民ノ喝采ヲ得ル記者ノ如キハ其知識世人ト大ナル差違ナキヲ以テ衆人ノ能ク了知シ得ル所ノ者ニシテ迥ニ世人ニ超越シ凡眼ノ達シ能ハサル高尚ノ人物ニ非ルナリ何トナレハ他人ノ器量ヲ鑑察スルハ多少思想ノ同シキ所アルニ非サレハ能ハス己レ其器ニシテ始メテ能ク他人ノ器宇ヲ鑑別シ得可キヲ以テナリ故ニ最モ卓絶ナル士カ若シ一般投票ノ法ニ依テ撰舉セラレシテ希望ヒハ到底其志ヲ達スルノ期ヲカル可シ
4. 凡ソ人ハ諸道理諸効驗ハ同時ニ並起並立スルヤヲ信シ易キノ失アリ是心思意想ノ年代記ヲ回顧スルヲ忘レタルニ由リ數百年ノ思想ヲ以テ一朝ノ思想ト誤認スルニ至レリ

- 1 凡ソ完全ノ條律ハ未開不充分ナル世界ニ行ル可キニ非スニ  
 社會ノ景況蠻野ニ近クニ從ヒ完全無欠ナル道義條律ニ  
 ハ反テ不經ト認メラル、ナリ故ニ理論ノ直チニ用ヒテニ  
 レテ社會ニ適當スルハ理論ノ完全正理ナルヲ證スルニ  
 足ラス寧ロ其不充分ナルカ或ハ其非ナルヲ證ス可キナ  
 リ然リ而シテ理ノ少ク社會ノ現狀ニ適セサルモ未タ以  
 テ其完全正理ヲ證ス可キニ非ス唯其現狀ニ適セサルノ  
 一事ハ或ハ理論ノ正シキカ故ナルモ知ル可カラス
- 2 今日新起ヲ拒ムハ進歩ヲ拒ムナリ若シ常々新起拒絶ノ主  
 義ニ遵フハ吾人ノ景狀ハ果シテ如何ナル可キヤ夫レ現  
 存ノ事物皆其始ヲ有セサルハナシ凡テ設立セラレタル  
 事物ハ原ト皆新起トラスンハアラス其舊行ノ故ヲ以テ  
 法律ヲ今日ニ賞賛スルノ徒ヲシテ其法律ヲ設立スルノ  
 昔ニ在ラシメハ其新法タルノ故ヲ以テ之ヲ抗拒セシナ  
 ラン
- 3 夫レ一國ノ執政家ナル者ハ凡テ一般普通ノ形勢ニ於テハ  
 其國土ニ於テ其相伍スル所ノ國民ト同一其文學ニ養生  
 セラレ同一其古傳ニ薰陶セラレ又其同一風俗習慣ニ呼  
 吸スルヲ明カナリ故ニ執政家ハ當時ノ風氣ニ鑄造セラ  
 ル、受造物ニシテ一世ヲ鑄造スル所ノ創造物者ニハ非  
 サルナリ然ラハ則チ其國執政家ノ施行スル所ノ措置ハ  
 一國社會進動ノ成果ニシテ決シテ社會進動ノ原因タラ  
 サルヤ明カナリ

1. 凡ソ完全ノ條律ハ未開不充分ナル世界ニ行ル可キニ非スニ  
 社會ノ景況蠻野ニ近クニ從ヒ完全無欠ナル道義條律ニ  
 ハ反テ不經ト認メラル、ナリ故ニ理論ノ直チニ用ヒテニ  
 レテ社會ニ適當スルハ理論ノ完全正理ナルヲ證スルニ  
 足ラス寧ロ其不充分ナルカ或ハ其非ナルヲ證ス可キナ  
 リ然リ而シテ理ノ少ク社會ノ現狀ニ適セサルモ未タ以  
 テ其完全正理ヲ證ス可キニ非ス唯其現狀ニ適セサルノ  
 一事ハ或ハ理論ノ正シキカ故ナルモ知ル可カラス
2. 今日新起ヲ拒ムハ進歩ヲ拒ムナリ若シ常々新起拒絶ノ主  
 義ニ遵フハ吾人ノ景狀ハ果シテ如何ナル可キヤ夫レ現  
 存ノ事物皆其始ヲ有セサルハナシ凡テ設立セラレタル  
 事物ハ原ト皆新起トラスンハアラス其舊行ノ故ヲ以テ  
 法律ヲ今日ニ賞賛スルノ徒ヲシテ其法律ヲ設立スルノ  
 昔ニ在ラシメハ其新法タルノ故ヲ以テ之ヲ抗拒セシナ  
 ラン
3. 夫レ一國ノ執政家ナル者ハ凡テ一般普通ノ形勢ニ於テハ  
 其國土ニ於テ其相伍スル所ノ國民ト同一其文學ニ養生  
 セラレ同一其古傳ニ薰陶セラレ又其同一風俗習慣ニ呼  
 吸スルヲ明カナリ故ニ執政家ハ當時ノ風氣ニ鑄造セラ  
 ル、受造物ニシテ一世ヲ鑄造スル所ノ創造物者ニハ非  
 サルナリ然ラハ則チ其國執政家ノ施行スル所ノ措置ハ  
 一國社會進動ノ成果ニシテ決シテ社會進動ノ原因タラ  
 サルヤ明カナリ
4. 夫レ一國ノ執政家ナル者ハ凡テ一般普通ノ形勢ニ於テハ  
 其國土ニ於テ其相伍スル所ノ國民ト同一其文學ニ養生  
 セラレ同一其古傳ニ薰陶セラレ又其同一風俗習慣ニ呼  
 吸スルヲ明カナリ故ニ執政家ハ當時ノ風氣ニ鑄造セラ  
 ル、受造物ニシテ一世ヲ鑄造スル所ノ創造物者ニハ非  
 サルナリ然ラハ則チ其國執政家ノ施行スル所ノ措置ハ  
 一國社會進動ノ成果ニシテ決シテ社會進動ノ原因タラ  
 サルヤ明カナリ

綴字題

1 都テ字義ヲ求ムルニハ之ヲ學問上ニ求メソヨリハ之ヲ世  
 人ノ偏ネク理會スル者ニ求ルノ其真意ヲ得ルニ如ス事  
 ニ名ヲ命スルハ世人一般ノ意ニ出タリ世人ノ意ハ即チ  
 天賦ノ徳性ノ集リタル意ナリ世人ノ普ク理會スル意義  
 ハ年月ヲ經テ成ル者ニシテ几案ノ上ニ之ヲ決スルカ如  
 キニ非ルナリ今一事アリテ新ニ世ニ顯ルレハ字義ノ之  
 ニ應スル語ヲ以テ之ニ命シ再ヒ之ニ類似スル者顯ルレ  
 ハ又之ヲ其字義ノ中ニ加入スルヲ以テ漸次其意義廣ク  
 ナリ若干ノ義ヲ包ルニ至ル然ルニ學問上ニ定メタル  
 字義ハ限アリテ之ヲ普通ノ用ト爲ス能ハス故ニ字義ヲ  
 學問上ニ定メタル者ハ狭クシテ稍不正ニ涉ルアリ世間  
 普通ノ字義ハ廣クシテ精細ナリ

2 所謂人民ノ志願ハ國中總体ノ志願ニ非スシテ多數ノ一半  
 ノ志願ナリ去レハ即チ活潑ナル人民ノ部分ニテ其黨ノ  
 多キ者ノ志願ナリ故ニ此多數ノ一半ハ議論ニ勝タル姿  
 ニシテ志ヲ得可ケレトモ少數ノ一半ハ勢ヲ失フ可シ所謂  
 政府ハ此多數ノ一半ヨリ成立シタル者ナレハ政府ノ權

翻文例題 (第十二)

Handwritten Japanese text, likely a translation or commentary on the adjacent page. The text is written in a cursive style and covers most of the page.

(前=續ク)

ヲ限ラサレハ小數ノ一半即チ勢弱キ人民ハ其自由ヲ保  
 難カル可シ  
 3 凡ク政体政法ヲ以テ國民ノ形勢ニ應セシムルニハ特ニ一  
 階ノ進歩ヲ以テ足レリト爲サス必スヤ將來ニ希望スル  
 諸階ノ進歩ニ適ス可キヲ目的ト爲サシムル可ラス其將來  
 ニ諸階ノ進歩中ニハ今日ノ人ノ思想上ニ浮ヒ來ラサル  
 者モアル可シ故ニ善政体善政法タル可キ者ハ兼テ之  
 ヲ構造スルノ法功ニシテ善アレハ輒チ之ヲ収メ利ア  
 レハ輒チ之ヲ取リ改良進歩ノ事業ハ數ヲ盡シテ之ヲ包  
 含ス可キニ適シ其善美ヲ聚集スルニ當リテ毫末ノ妨碍  
 モナカル可キヲ要ス

猶讀者ニ示ス四呼文ハ多々益々多々ナレト際限ナケレハ  
 此ニ止メテ殊ニ紙數限リアレハ讀者此ノ意ヲ了シ必ス練  
 習アラソト切望ス今ヤ加點法ニ移ルノ前ニ我國文法ヲ  
 知ルノ一大緊要ヲ生シ來リタルヲ以テ下ニ文法ノ大略ヲ  
 學ク兼テ筆記練習ノ便ヲ得セシムルタメ文典語中ニ必  
 要ナル略字ヲ制シ文法ヲ示スノ前ニ掲ケタレハ讀者先ッ  
 文典ノ略字ヲ能ク研究諸記シ次ニ示ス所ノ文典ヲ記號ヲ  
 以テ筆記スルノ際其略字ヲ必ス用非幾度トナク文典ヲ筆  
 記シ一ハ文法ヲ學ブノ利ヲ得一ハ筆記練習ノ便ヲ取ルヲ  
 要ス而シテ文典ノ略字ハ始終必要ノ略字ノミニシテ人ノ  
 語言中ニハ離レサルノ字ナレハ能ク其濃淡ノ別字形ノ類  
 似等ヲ混同スルナク記得セサル可ラス其略字ヲ用ユルニ  
 ハ筆記文中ニ於テ必ス獨立セシメ決シテ他ノ記號ト連續

スルヲ許サス何トナレハ混同シ易キヲ以テ容易ニ略字ナルヲ知ラシメント欲スレハナリ其未タ加點法ニ移ルノ前ナレハ語尾ノ略字ヲ記スルニ困難ナラソコハ加點法ニ及フ迄其前後上下左右惟各自意ノ注ク所ニ任シ假リニ附記シテ可ナリ猶加點法ノ段ニ至リ加點法ヲ了解スルニ至レハ略字ニ對スル語尾略字ハ不用トナル者ナレト暫ク此ニハ右ノ法ニヨラサル可ラス

左ニ示ス文典略字表中ニ於テ往々同形ノ文字アレド必スヤ濃淡ノ別或ハ圈ノ大小ニヨリ決シテ同一ノ文字ナケレハ能ク識別スルヲ要ス又同一ノ略字ニテ二様若クハ三様ニ讀マシムルアリ其讀方ハ必ス右方ニ列記ス

(文典畧字)

|                      |                      |                    |
|----------------------|----------------------|--------------------|
| 夫レ                   | 常 <small>平常</small>  | 有リ                 |
| 此レ                   | 又                    | 也                  |
| 或ハ                   | 譬                    | 決 <small>決</small> |
| 即チ                   | 示ス                   | 天 <small>天</small> |
| 於テ                   | 中                    | 故                  |
| 如シ                   | 二因 <small>二因</small> | 及ブ                 |
| 總 <small>皆</small>   | 我                    | 所                  |
| 及 <small>而</small>   | 我等                   | 時                  |
| 業                    | 汝                    | 宜 <small>宜</small> |
| 五                    | 汝等                   | 入 <small>入</small> |
| ヨリ <small>カラ</small> | 彼レ                   | 働 <small>働</small> |
| 何レ <small>ドレ</small> | 彼等                   | 種 <small>種</small> |
| 直ニ <small>直接</small> | 如何 <small>如何</small> | 類 <small>類</small> |
| 用ル <small>以テ</small> | 知ル                   | 讀 <small>讀</small> |
| 申ス <small>云</small>  | 添ル                   | 書 <small>書</small> |
| 元來                   | 續ク                   | 從 <small>從</small> |
|                      | 下 <small>降</small>   | 若シ                 |
|                      | 外 <small>外</small>   | 與 <small>與</small> |
|                      |                      | 終                  |
|                      |                      | 變 <small>變</small> |
|                      |                      | 遷 <small>遷</small> |

欲ス 雖片 無シ 審精カ 為ニ 答 問 設立ル 如何ハ 茲ニ 重テ 集ル 来ル

夫ノ 自ラ 唯 通例 活用 別以 頭ス 拾モ 摸様 格別 掲允 機會 記憶 記録 益シ 公カ

幸福 最初 今ヲ 何故 甚多 否 然リ 然ズ 抑々 借 寧口 剩 勉為 夫故 此知 更ニ 更々 外

有難 多謝 背ク 苟モ 一般 大キ 多キ 始テ 考フ 致ス 既ニ 登ル 語ス 後ト 凡ソ 法則 定ル 行ク 必

讀者右ニ示ス略字ヲ刻苦必ス記憶スルヲ要ス猶急速覺悟  
スルヲ得スノハ左ニ擧グル日本ノ文典ヲ筆記スルノ際右  
ノ表ヲ願ミ掲出スル所ノ略字ハ必ス用非遂退全ク記得ス  
ルニ至ルヲ要ス是ヨリ日本文典ノ概略ヲ解カノ讀者熟讀  
玩味我國文法ヲ了解スルニ至ラソトヲ務ム可シ

第四編

文法學

○日本文典

第一章

言辭學

言辭ハ萬物にわたりて其數際限なしと雖も今之を別て

八種とす即 名詞 形容詞 代名詞 動詞 副詞 接續

詞 後詞 感詞 なり

第二章 名詞

名詞ハ總て人獸事物の名目を示す詞なり即 人 獸 天

地 日 月 草 木 禮 義 廉 耻 善 惡 等の

如し

名詞にハ本名と通名との二種あり本名詞ハ一人或ハ一物

に限るものを云ふ即 天照太神 日本 東京 等の如し

通名詞ハ諸物に涉り同類に通ずるものなり即 人 國

山 川 都 等の如し

又本名詞にても通名詞にても無形のものを示すを想像の名詞と云ふ即 歳 時 寒 暑 事 業 等の如し

第三章 名詞の數

名詞にの單。複。の二數あり單一のものを示すを單數の名詞と云ふこれの幾個のうちにて只其中の一個をさして云ふなり即 亞細亞洲 太平洋 といふときは五大洲、五大洋の中に就て一個を示すなり之を單數の名詞と云ふ○複數との二個以上の物を示す詞を云ふ即 諸人 人々 此等 小兒トモ 等の如し總て複數は諸の字を上置き又文字を重ね或の等、トモと云ふ詞を下に置くものと知るべし

第四章 名詞の性

名詞は動物、植物を示すとき男。女。の性あり○男性の名詞の

男、父、伯父、兄、弟、息、舅、婿、君、僕、奴、牡牛、雄鷄、雄花等總て男に就きたる詞を云ふ○女性の名詞は母、伯母、姉、妹、娘、姑、嫁、后、妾、婢、牝牛、雌鷄、雌花等總て女に就きたる詞を云ふ

第五章 名詞の格

文章中に於て名詞の互に關係し或の他の詞と關係して賓主の作用を爲すことありこれを名詞の格と云ふ今之を四種に區別す即第一格。第二格。第三格。第四格。と云ふに賓格なり

(第一格) 文章中の主とあるべき名詞に屬するものなり即

小兒が書物ヲ讀ム 人ハ眞直ニ立テテ歩行ス 花ハ散ル

月明ニ星稀ナリ 等に於て小兒、人、花、月、星は文章の主と

あるゆゑに第一格の名詞と云ふ此格は名詞の下にガ、ハ、ノ、といふ辭を添ふるを本體とす此等の辭なきものは之を略



せるあり

(第二格) 名詞の互に關係し或は物の持主となるとき其間の係り合ひを示すものなり即 小兒ノ書物 人ノ命 君ガ世 雁カ音 天津神 等に於て小兒、人、君等の書物、命、世等の持主なるが如し此格の名詞の下にノ、ガ、ツといふ辭を添ふるを本體とす

(第三格) 文章中にて位地時限などに係りたる名詞に屬するものなり即 魚ハ水中ニ棲ム 人ハ遠方ニ行ク 地球ハ西ヨリ東ヘ旋ル 等の如し此格は名詞の下にニ、ヘといふ辭を添ふるを本體とす

(第四格) 此格は文章中主格に對して賓となるものあり即 主人ハ客ヲ愛ス 小兒カ書物ヲ讀ム 教師ガ生徒ヲ教フ 等に於て客、書物などは主人及び小兒に對して賓とな

るが如し此格は名詞の下にヲといふ辭を添ふるを本體とす

總て我國の名詞の格は下にガ、ノ、ニ、ヲ等の辭を添へて語るを法とす其これを添へざるもの略せるなりと知るべし

### 第六章 名詞の種類

何れの詞にても文章中に於て名詞の位に置くとさし皆名詞となるものなり

○動詞 動詞を直に名詞となして用うるものなり 即 往クヲ告ゲテ來ルヲ知ル と云へる文章に於て往ク、來ルは動詞なれども名詞となるが如し

○形容詞 形容詞を直に名詞となすものなり即 富士山ノ高サ一里九丁アリ 直キヲ擧ケテ曲レルヲ錯ク 等に於て高サ、直キ、曲レルは元來形容詞なれども直に名詞

となすが如し

○成○句○名○詞○ 一句にてても一文章にてても名詞の位に置くとき、直に名詞となるものなり即 學校ニ行クヲ樂ト思ヘリ 汝ニ筆ノ用ヲ方ナ致フ可シ など云へる文章に於て學校ニ行ク、筆ノ用ヲ方などは本よりの成句なれども個様の所にては名詞となるなり

第七章 形容詞

形容詞ハ常に名詞の前に在りて名詞の性質、形狀を精く示すものなり即 善キ人 賢キ小兒 大ナル鳥 等の善キ、賢キ、大ナルは形容詞にして人、小兒、鳥と云ふ名詞の性質、形狀を示すものなり

第八章 形容詞の詞尾

形容詞ハ其詞尾にキ、ル、ノ、ナと云へる詞を置くを本然とす

即 青キ山 大ナル家 衆クハ小兒 暖ナ日 等の如し

又詞尾なきものわり即 春風 高山 小舟 等の如し

第九章 形容詞の種類

種々の詞より來りて形容詞となるものわり

○名詞狀形容詞 名詞を以て直に形容詞となすものなり

即 鹽海 風船 日本國 等或は 銀ノ匙 煉瓦ノ家

等の如し

○動詞狀形容詞 此詞ハ動詞より分れ來りて詞の作用を示し兼て名詞を形容する詞なり即 散ル花 學ブ人 走

ル馬 飛ブ鳥 等の如し此中散ル、學ブ、走ル、飛ブは元來動

詞にして花、人、馬、鳥と云ふ名詞の作用を示せども今名詞の前に在りてハ形容詞とあるなり

第十章 數形容詞

形容詞のうちには數量を現すものありこれを數。形。容。詞。と云ふ即 一、二、三、四、十、百、千、萬 等の如し

數形容詞に原。數。變。數。不。定。數。の三種あり ○原數は基本の數を示すものなり即 一、二、十、百、千 等の如し

○番數の順序を示すものにして此詞は多く數字の前に第の字を置き或は數字の後に番號又等の字を置くを常とす 即 第一、第二、三番、四號、五等 などの如し

○不定數形容詞 此詞の定限なく一般に數量を示すものにして物の多少の定かならぬときに用おるものなり即 多キ 寡キ 或ル物 幾許 若干ノ人 數多ノ小兒 或は人ノ衆キ樂ノ少キ 等の如し

第十一章 代名詞

代名詞の名詞の代りに用うる詞にして廣く物名の代りに用うるにはコレ、カレ、コノ、カノなど、云ひ自分の名の代りには我と云ひ相手の人の名の代りには汝と云ふ今 此小兒ハ人形ヲ持テリ 汝モ人形ヲ愛スルヤ我モ甚コレヲ好メリ といへる文に於て汝と云ふハ相手の名の代りに用お我といふハ自分の名の代りに用おコレと云ふハ人形と云ふ代りに用おたるものにて此三詞を代名詞と云ふなり 今代名詞を分て三種とす ○人代名詞、疑問代名詞、指示代名詞なり

第十二章 人代名詞

人代名詞の人の名の代りに用うる詞にしてこれに第一。人。稱。第二。人。稱。第三。人。稱。の區別あり之を代名詞の人。稱。と云ふ ○第一人稱の對話するとき演説する人にて即自分の名に

代ふるものを云ふ即 吾 我等 己レ 等なり  
 ○第二人稱は話を聞く人にて即自分の相手の名の代りに  
 用うるものあり即 汝 足下 アナタ 等なり  
 ○第三人稱は自分と相手の外なる人物の名の代りに用わ  
 る故に人、獸、事物に限らず話の中にあるもの、名に代へる  
 詞なり即 是 其 彼 等なり假令は 汝ハ此小兒ト女  
 子トチ知レリヤ○コレヲ知レリ と言ふとき汝ハ相手の  
 名の代りにて二人稱コレト云ふは小兒と女子の名の代り  
 にて三人稱なり又 彼ハ吾ヲ見ルトキニ必其帽ヲ脱ク  
 と云ふとき彼と云ふは三人稱にて小兒と女子との代りに  
 用ひ吾といふは自分の名の代りにて一人稱なり  
 人代名詞ハ亦名詞の如く四箇の格あり又單複の數あり左  
 の表を見て知るべし

人代名詞の表

第一人稱

|     |     | 單數  | 複數   |
|-----|-----|-----|------|
| 第一格 | ワレハ | ワレガ | ワレヲハ |
| 第二格 | ワレニ | ワレガ | ワレヲハ |
| 第三格 | ワレニ | ワレニ | ワレニ  |
| 第四格 | ワレヲ | ワレヲ | ワレヲ  |

第二人稱

|     |      | 單數   | 複數    |
|-----|------|------|-------|
| 第一格 | ナムヂガ | ナムヂガ | ナムヂヲガ |
| 第二格 | ナムヂノ | ナムヂノ | ナムヂヲノ |
| 第三格 | ナムヂニ | ナムヂニ | ナムヂニ  |
| 第四格 | ナムヂヲ | ナムヂヲ | ナムヂヲ  |

第三人稱

|     |                                   |                                    |
|-----|-----------------------------------|------------------------------------|
| 第一格 | カレカカレハコレガコレハ<br><small>是彼</small> | カレラガカレラハコレラハ<br><small>是彼等</small> |
| 第二格 | カノカレノコノコレノ                        | カレラノコレラノ                           |
| 第三格 | カレニコレニ                            | カレラニコレラニ                           |
| 第四格 | カレヲコレヲ                            | カレラヲコレラヲ                           |

總て格はガ、ノ、ニ、ヲを代名詞の下に添ふるを法とす又複數の單數の下にラと云ふ詞を添ふるものなり  
此外漢字を假りて尊卑を別つ代名詞ありこれを假稱人。代名詞と云ふ今これを左の表に掲ぐ

|      |           |
|------|-----------|
| 第一人稱 | 僕 拙者 臣 某  |
| 第二人稱 | 君 貴殿 公 足下 |
| 第三人稱 | 彼 奴 的     |

第十三章 疑問代名詞

疑問代名詞は明かに知れざる人或は物の名に代へて用ゐるものなり即 誰カ出テ、救ヒ給ヘ と云ふ文の誰又 何ヲ以テカ身ノ幸福ヲ得ヘキ と云ふ文の何と云ふ詞の類あり又 勉メサレハ何事モ難シ又 何ヲカ忍フ可ケンヤ などいへる文に在る何事、何ヲカと云へる詞も疑問代名詞なり此詞も亦名詞の如く四個の格ありて皆ガ、ノ、ニ、ヲの辭を添ふるものあり

第十四章 指示代名詞

指示代名詞は手指を以て指すか如く事物を示すときに用ゐるものなり假令は 此小兒ハ人形ヲ持テリ 其身モ自ラ幸福ヲ得ヘシ 彼子ハ彼女子ノ爲ニ親切ナリヤ などいへる文に於て此、其、彼と云ふ詞ハ小兒、身、子と云ふ名詞を

示す指示代名詞なり

以上三種の代名詞を尙能く知らしめむ爲に文例を左に掲

今コノ指示代名詞男兒ハ家ヲ辭シテ遠行セントレ戸前ノ階

ヲ降リタルユエ其指示代名詞妹モ階ヲ降リテコレ第三人稱

ヲ送り別ニ臨ミテ言ヲ贈答スル所ナリ

兄曰汝第二人名詞懐ミテ家ヲ守リ能ク其指示代名詞ヲ保ツヘ

兄又云フ予第一人名詞彼指示代名詞郷ニ到ヲハ速ニ書ヲ以テ

安否ヲ報ス可レ汝第二人名詞モ亦其指示代名詞安否ヲ報セヨ

予第一人名詞ガ他郷ニ在ル間ハ只汝第二人名詞ノ消息ヲ得

ルヲ以テ樂トナスヘキノミ

汝等二人代名詞第此指示代名詞二人ハ如何ナルモ疑問代名詞

思フヤ

第十五章 動詞

動詞の物事の働かを示す詞にて讀ム、學ブ、教フ、眠ル等の如き類を云ふ實に此詞は文章中に在て主格の名詞と共に要用のものおれり此詞を缺くときり全き文章をなさいるゆゑに其意味も通することなし假令は 小兒ガ書物ヲ讀ムといふとき小兒は主格の名詞にして讀ムハ小兒の爲す業を示すなり斯の如く主格と動詞と相連結するときり全き文章をなすゆゑに意味も能く通曉す若し此動詞を缺きて只小兒ガ書物ヲとのみいへば讀ムことなるや玩ふことなるや曾て分明ならず故に動詞ハ文章中の大切なる詞にして常に缺く可らざることを知るべし

第十六章 動詞ノ種類

動詞ノ其働きの次第に従て他動、自動、能動、受動の四種に區別す

○他動詞ノ文主の働きの能く他の物品に及達するを云ふ  
即 農夫が稻ヲ刈ル といふとき農夫の働きの能く稻に及ぶが如し若し唯農夫が刈ル どのみいふとき何物を刈ることを知ることを能はず依て此類を他動詞といふ  
○自動詞ノ文主、獨自働きて他の物に移ること無きものをいふ即 小兒が眠ル といふとき眠ルといふ詞ノ自動詞なるを以て小兒の働きは他の者に移ることなく意味の能く通ずるものなり  
○能動詞は自分の働きの能く他の者に及べる詞なり假令バ 教師が生徒ヲ教フ といへば教師の働きの能く生徒

に及ぶを以て教フといふ詞ノ能動詞なり  
○受動詞ノ他の者の働きを自分に受くる詞なり假令ハ 生徒カ教師ニ教ヘラル といへば生徒と教師の働きの受くるを以て教ヘラルといふ詞は受動詞なり  
總て能動詞の終にラルといふ詞を添へたるものは受動詞の形なりと知るべし

第十七章

動詞には規則動詞と不規則動詞との二種あり  
○規則動詞は其語尾を種々に變するに皆一定の法則あるものなり而して語尾を變するに三個の法あり即四段活用中二段活用、下二段活用なり○四段活用は動詞の語尾をアイウエの四段に變するものをいひ中二段活用ハイウの二段に變するものをいひ下二段活用ハウエの二段ニ變する

ものをいふなり

規則動詞活用の圖(一)に動詞變畫

| 段 二 中                | 用 活 段 四  |     |
|----------------------|--|-----|
| 懸 落 起                | 有 住 逢 打 押 飽  | ア 緯 |
|                      | ア ス ア ウ オ ア<br>ヲ    マ    ハ    タ    サ    カ   <br>ン      |     |
| コ オ オ<br>ヒ    ナ    キ | ア ス ア ウ オ ア<br>リ    ミ    ヒ    ナ    シ    キ   <br>テ      | イ 緯 |
| コ オ オ<br>フ    ツ    ク | ア ス ア ウ オ ア<br>ル    ム    フ    ツ    ス   <br>ク   <br>ヘ キ | ウ 緯 |
|                      | ア ス ア ウ オ ア<br>レ    メ    ヘ    テ    セ   <br>ケ   <br>ヨ   | エ 緯 |

此圖の如く四段活用の動詞の下に續く詞に従て語尾を四段に變するものなり例之は飽カシ、飽キテ、飽クベキ、飽ケヨ

| 用 活 段 二 下   | 用 活                         |
|---|-----------------------------|
| 流 消 譽 教 捨 瘦 受                                     | 用 老 恨                       |
|   |                             |
|   | モ チ 井   <br>オ イ   <br>ソ ラ ミ |
| ナ ガ ル<br>キ ヨ<br>ホ ム<br>ナ シ フ<br>ス ツ<br>ヤ ス<br>ウ ク | モ チ ウ   <br>オ ヨ   <br>ウ ラ ム |
| ナ ガ レ<br>キ エ<br>ホ メ<br>ナ シ ヘ<br>ス テ<br>ヤ セ<br>ウ ケ |                             |



等の如くンテヘキヨなどの詞の上に在ればカ、キ、ク、ケと變化す又中二段活用のものに起キノ、起キテ、起クヘキ、起キヨなどの如く唯キノの二段に變化す又下二段活用は受ケン受ケテ、受クヘキ、受ケヨなどの如く唯ケケの二段に變化するのみこれら動詞活用の法則といふなり猶左の圖を見るべし

|    |                     |                     |                     |
|----|---------------------|---------------------|---------------------|
| 活用 | 下二段                 | 中二段                 | 四段                  |
|    | 受                   | 起                   | 飽                   |
|    | ウケン<br>ウケバ<br>ウケズ   | オキソ<br>オキバ<br>オキズ   | アカン<br>アカバ<br>アカズ   |
|    | ウケテ<br>ウケタリ<br>ウケベキ | オキテ<br>オキタリ<br>オキベキ | アキテ<br>アキタリ<br>アキベキ |
|    | ウケヨ                 | オキヨ                 | アケヨ<br>アケバ          |

○不規則動詞は前の三體の活用に合ひざる詞をいふ此詞も亦一段活用と三段活用の別あり  
不規則動詞活用の圖

| 一 段 活 用 動 詞    |                |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 居 <sup>#</sup> | 見 <sup>ト</sup> | 干 <sup>レ</sup> | 似 <sup>=</sup> | 著 <sup>*</sup> | 鑄 <sup>イ</sup> |
|                |                |                |                |                |                |
| 井              | ミ              | ヒ              | ニ              | キ              | イ              |
|                |                |                |                |                |                |
|                |                |                |                |                |                |

此詞の前の如クンテヘキヨ等の詞の上に在るときも只イ緯の一音より外に變ずることあり例之は

等の如し

| 試                             | 著              | 鑄              |
|-------------------------------|----------------|----------------|
| コ、ロ、ミ、ゾ<br>コ、ロ、ミ、ゾ<br>コ、ロ、ミ、ゾ | キ、キ、キ<br>ズ、バ、ソ | イ、イ、イ<br>ズ、バ、ソ |
| コ、ロ、ミ、タリ                      | キ、タリ           | イ、タリ           |
| コ、ロ、ミ、テ                       | キ、テ            | イ、テ            |
| コ、ロ、ミ                         | キ              | イ              |
| コ、ロ、ミ、ヨ                       | キ、ヨ            | イ、ヨ            |

| 三段活用 |   |         |
|------|---|---------|
| 爲    | 來 |         |
|      |   | ア、<br>緋 |
| シ    | キ | イ、<br>緋 |
| ス    | ク | ウ、<br>緋 |
| セ    |   | エ、<br>緋 |
|      | ユ | オ、<br>緋 |

三段活用は此二詞の外にあることなし但漢字音を直に國

語となし之にシ、ス、セ(爲)といふ詞を添へて動詞となすものは皆此三段活用なるものなり

等の如し

| 音字      | 漢同        | 用活        | 三段        |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| 論       | 奏         | 爲         | 來         |
| ゼ、ゼ、ズ、バ | セ、セ、ズ、バ   | セ、セ、ズ、バ   | コ、コ、ズ、バ   |
| シ、タリ    | シ、タリ      | シ、タリ      | キ、タリ      |
| ズ、ベ、キ   | ス、ス、ス、ベ、キ | ス、ス、ス、ベ、キ | ク、ク、ク、ベ、キ |
| セ、ヨ     | セ、ヨ       | セ、ヨ       | コ、ヨ       |

第十八章

分詞(一)に形容動

分詞は働きを現したる動詞の又下の詞に續きて恰も形容詞の形を爲すものなり即動詞と形容詞との兩部分に涉る詞ゆゑ分詞と名づくるなり例之に打ッといへば動詞なれども打ッ人といへば人の働く模様を示すゆゑに分詞となるなり今動詞と分詞の區別を明に示さん爲に左に略表を擧ぐ

動詞及び分詞の表

|    |         | 四段活用     |        | 中二段活用  |      | 下二段活用 |      |
|----|---------|----------|--------|--------|------|-------|------|
| 受動 | 能動      | 分詞       | 動詞     | 分詞     | 動詞   | 分詞    | 動詞   |
|    | 人ニ打タル、犬 | 犬ヲ人ニ打タル、 | 人カ犬ヲ打ッ | 犬ヲ打ッ人  | 雪ガ落ッ | 落ッル雪  | 水ガ流ル |
|    |         | 落サル、雪    | 雪ガ落サル、 | 水ガ流サル、 |      | 流サル、水 |      |

此の如く打ッ、落ッル、流ル、といふ詞は人、雪、水の模様を示す故に形容詞の用を爲すものなり

第十九章 助動詞

助動詞は常に動詞の後に添ひて働きの次第、時限等を精く定めて動詞の意味の不足なる所を補ひ助くるものなり即前章に擧げたるソ、タリ、ベキの類なり假令は飽カ、飽キどのみにては意味猶不十分の所あり之に助動詞(ソ、タリ、ベキ等)を添へて飽カン、飽キタリといへば意味全く充分なるか如しさて通常用ゐる所の助動詞はソ、タリ、ベキ、ナリ、ナラム等なりこれ皆動詞の意味を補ひて時限等を體に定むるに要用のものなり

第二十章 動詞の時限

動詞の時限は過去、現在、未來の三時なり

○過。去。の。既。に。過。ぎ。去。り。た。る。時。限。を。云。ふ。即。既。往。の。時。に。あ。り。し。事。を。今。日。話。す。も。の。な。り。假。令。ハ。此。學。校。ハ。前。月。大。試。験。ヲ。爲。シ。タ。リ。彼。ハ。昨。年。五。級。ニ。登。レ。リ。我。ハ。先。刻。學。校。ヨ。リ。歸。リ。シ。等。の。如。し。

○現。在。と。は。今。爲。す。時。刻。を。示。す。を。云。ふ。假。令。は。我。ハ。學。校。へ。行。ク。彼。ハ。今。書。物。ヲ。讀。ム。等。の。如。し。

○未。來。と。は。今。よ。り。後。に。於。て。作。さ。ん。と。す。る。働。き。を。示。す。も。の。な。り。假。令。ハ。我。ハ。明。日。學。校。へ。入。ラ。ム。彼。ハ。來。月。必。登。級。ス。ヘ。シ。等。の。如。し。

總て動詞の時刻は現在の時刻のみ助動詞を添へすして意味の充分なることあれども過去と未來は必クリ、シ、ム、ヘシの如き助動詞を添へされり其意味の足らざるものと知るべし。

第二十一章 動詞の法

凡。う。事。を。話。す。に。働。き。の。次。第。を。定。め。自。他。の。區。別。を。現。す。に。法。則。あ。り。こ。れ。を。動。詞。の。法。と。い。ふ。即。不。定。法。直。説。法。命。令。法。接。續。法。疑。問。法。な。り。

○不。定。法。は。文。主。な。く。只。時。限。の。み。を。定。め。働。き。を。一。般。に。示。す。詞。な。り。即。行。カ。ン。行。ク。行。キ。タ。リ。等。の。如。し。

○直。説。法。は。平。常。の。話。に。し。て。文。主。の。働。き。を。直。に。現。す。も。の。な。り。即。吾。ハ。行。カ。ン。吾。ハ。行。ク。吾。ハ。行。キ。タ。リ。等。の。如。し。

此。の。こ。と。く。不。定。法。は。主。格。の。名。詞。な。く。唯。動。詞。の。み。を。置。く。法。な。り。直。説。法。は。不。定。法。に。主。格。の。名。詞。を。置。き。た。る。も。の。と。知。る。べ。し。

○命。令。法。は。使。令。を。現。す。法。に。し。て。希。求。勸。止。等。を。現。す。に。用。う。即。汝。今。其。筆。ヲ。取。來。レ。然。レ。ハ。座。ニ。就。キ。テ。復。讀。セ。ヨ。謹。

テ父母ノ話ヲ聽クヘシ 忽ニナスヘカラス 明日アリト  
 云フコトナカレ 等の如し  
 ○接續法は上の文と下の文と讀けて語るとききの法ふれば  
 常に接續詞のト、ドモ、雖ヒ、トキ、シテ、ハ等を下に置くものな  
 り假令は 惡事ハ小ナリト雖ヒ 芳香ヲ好ムトキハ 今  
 日學バズシテ 善キ人トナラント欲セバ 等の如く必其  
 下にある文に續くものなり  
 ○疑問法は疑はしき事を人に問ひ尋ぬるとききの法にして  
 必下にカ、ヤ、ゾといふ詞を添ふる物なり假令は 汝モ紙鳶  
 ノ颺ルヲ欲スルカ 汝ニ筆アリヤ 此名ヲバ何トイフツ  
 等の如し  
 總て我國の文章及び話は何れも此五法の外に漏るゝこと  
 なし今猶時限と共にこれを審に知らしめん爲に文例を左

に掲ぐ

人もー身接續法尔幸福未來あらんことを願現在む

能命令法く其身直説法を修めよ 天直説法を善人現在尔福現在を與ふるものなり

汝疑問法も書籍過去を得たりや 書籍接續法がどられ現在た

事を學ぶこと直説法能未來むらん

猶茲に問答を設けて時限及び法を審にす  
 問 彼ハ昨年五級ニ登レリ 此文は何の時限なるや

答 これは過去なり如何となれば昨年の事を今日話す故なり

問 彼ハ今書物ヲ讀ム 此文の期限は何なるや

答 これは現在なり如何となれば今茲になす事を話す故なり

問 我ハ明日學校ニ入ラン 此文は何の期限なるや

答 これは未。來。あり如何となれば明日なすべきことを今話す故なり

問 行カン 行ク 此動詞は何の法なるや

答 これは不定法なり如何となれば只動詞のみにて主格の名詞なき故なり

問 我ハ行ク 我ハ行カン 此法は何なるや

答 これは直說法あり如何となれば通常の話にて命令に

ても疑問にてもなき故あり

問 汝今筆ヲ取リ來レ 此文は何の法なりや

答 これは命令法なり如何となれば使令して筆を取らしむる故なり

問 惡事ハ小ナリト雖也 此文の法は何と云へるや

答 これは接續法なり如何となれば此下に在る忽ニナスベカラズといふ文に續く故なり

問 此書ノ名ハ何トイフツ 此文は何の法なるや

答 これは疑問法なり如何となれば書物の名を尋ね問ふ故なり

第二十二章 集合動詞

集合動詞は種々の詞を重ねて一個の動詞となしたるものなり例之は カヘリミル(返見)ウケアフ(請合)ムシハム(喰)オハ

ス(御座)タチワカル(別立)等の如しこれ皆二詞相集りて熟語と成り一個の意味とされるなり

第二十三章 他より轉し來れる動詞

何れの詞にても働きの意味を現すときは皆動詞となるものなり例之は淀ム、宿ルなどは名詞より來り赤ム、高ムなどは形容詞より來りて動詞となる又論ズ、奏ス等は漢字音の後にスといふ詞を添へ、レフル(料理)フレル(布令)〇(俗)等(用ス)等は漢字音を直に動詞となす等の如し

此等は皆動詞となりたる故に其活用の變化も亦元來の動詞と異なることなし

第二十四章 副詞

副詞は動詞或は形容詞に副ひて其摸様を猶精く示すものなり假令は 夜將ニ明ケントス 鶏先ツ鳴ク といふ文

に於て將ニ先ツは明ケントス、鳴クといふ動詞の摸様を精く現はし又 東京ハ最大ナル都會ナリ といふとき最といふ詞は副詞にして大ナルといへる形容詞を精く現はすのなり

又副詞は他の副詞に副ひて其摸様を精く示すことあり假令は舟カ早ク走ルといへば早クといふ詞は唯走ることの遲速を現すのみ然るに又舟カ甚早ク走ルといへば甚といふ詞ハ早クといふ詞に副ひて其早きことの勝れたるを示そが如し

第二十五章 副詞の品類

副詞は其意味の異なるに従て位地、時刻、順序、分量、決定、状態、疑問、否、不の八種に區別す

○位地副詞は場所を現すものなり即 玆ニ 彼處ニ 右

= 左 = 等の如し  
 ○ 時刻副詞は時限を現すものなり即 曩 = 以前 今  
 後 昨日 明年 此時 等の如し  
 ○ 順序副詞は順序の番数を現すものなり即 第一 = 第  
 二 = 最初 最後 等の如し  
 ○ 分量副詞は大小、多寡を現すものなり即 多ク 少ク  
 僅 = 半 十分 等の如し  
 ○ 決定副詞は物事の然るべきを體に定むるものなり即  
 體 = 正 = 必 等の如し  
 ○ 状態副詞は物事の働く有様を現すものなり即 善ク  
 惡ク 強ク 弱ク 等の如し  
 ○ 疑問副詞は疑はしき摸様を現すものなり即 如何様 =  
 何故 = 乎 歟 等の如し

○ 否不副詞は働きを打ち消すことを現すものなり即 否  
 不 (勿) ヲカラス (然不) 等の如し  
 此八種の外猶數多の副詞あり之を一般副詞と云ふ即 更  
 = 抑 摠 嘗テ 寧ロ 剩へ 等の如し  
 又一句の儘直に動詞に副ひて其働きを精く定むる副詞あ  
 りこれを成句副詞といふ假令は コレガ爲ニ 然ル故ニ  
 是ヲ以テ 等の如し

第二十六章

副詞は元來の詞と他の詞より轉し來るものあり假令は  
 甚寒ニ 最高ニ などの甚最は元來のものなり其他一ニ  
 二番ニ等ハ形容詞より來り無益ニ、達者ニ等ハ名詞より來  
 り思フニ、至テ等は動詞より來るか如し又形容詞の詞尾な  
 るキをクに變して副詞とあすもの多し即高キを高ク固キ



を固クに變ずるの類あり

第二十七章 接續詞

接續詞は事物或は詞を續き句を合せて全文をなすものなり  
り假令は 人ニ賢キモノノ愚カナルモノアルハ といへ  
る文に於てトといふ詞は上の人ニ賢キモノといふ一句と  
下の愚カナルモノといふ一句とを續きたる接續詞なり  
さて此詞は用法種々にして詞を接き句を合はせ意味を連  
續する等あり假令は筆ト紙トのは上の詞と下の詞を連  
續するものあり○此地<sup>上</sup>及ヒ河海ノ萬物の及ヒ愚ニシテ  
且不善ナリ<sup>の</sup>且苦ナケレバ樂アラズ<sup>の</sup>バなどは上の句と  
下の句とを合する接續詞なり○何トナレバ其行狀ノ不善  
ナルユエニ耻ツル所アレバナリ又然レモ飲酒ノ心ヲ止ム  
ルコトヲ得ズ○サレバ平生戒ムヘキハ怠惰ト飲酒ナリ等

の文の何トナレバ、然レモ、サレバ等の類ハ前文の意味を連  
續して全文をなすものなり  
接續詞の中に名詞或ハ代名詞の後にありて其意味を精く  
現すものあり之を後詞といふ

第二十八章 後詞

後詞は名詞又は代名詞の後に添ひて兩詞の係り合ひを現  
して位<sup>址</sup>、時<sup>刻</sup>などを明に現すものなり假令は筆ハ文庫ノ  
上ニ置キタリ 友アリ遠方ヨリ來ル といふ文の上ニ、ヨ  
リといふ詞又晝ノ間ハ日光ヲ見ル といふ文の間ハとい  
ふ詞の如し

今猶此詞の用法を精く知らしめん爲に一二の文例を左に  
掲く

假令は 東京ヨリ横濱マテ鐵路アリ といへる文に於て

ヨリといふ後詞は東京といふ名詞の後に添ひて横濱との  
兩名詞を連続し鐵路のある位地を現すものなり又 其道  
ヲ開クコト我ヨリ先キナラバ といへる文に於てヨリは  
我と云ふ代名詞の後に添ひて道を聞くの時刻を現すが如  
し

さて此詞の格別なるものは即ヨリ(自)マデ(迄)中、外、上、下、前、後  
内、裏等なり

第二十九章 感詞

感詞は話又は文章の間にありて喜、怒、哀、樂、驚、歎等の情に感  
じて覺えず發する詞をいふ即ア、(嗚呼)イ、ヤ、チ、ア、ナ等の如  
し

此詞は多く詞の首にありて章句の意味を強くするものあり  
或は詞の終にありて文意を構成するものあり假令は噫

々天我ヲ亡ホセリの噫々、アナウレシヤのアナ我ヲ助ケヨ  
のヨなどの如し  
此他猶俗間に用ゐる感詞甚多し假令はコハ、チャ、マア、ナウ  
の類の如し

第五編 加點法

讀者前ニ掲ケン文典ニ從ヒ我國文法ノ概略ヲ記得セシナ  
ラント信スレハ是ヨリ加點法ノ解釋ニ移ラソ抑加點法ハ  
我筆記法中至緊至要ノ法ニシテ筆記法ノ精神全ク加點法  
ニ在リト云フモ不可ナキ價値アル者ナリ其加點法トハ名  
詞形容詞動詞副詞ニ從テ異ナリ今先ツ名詞ノ加點法ヨリ  
説明セン讀者モ知ル如ク名詞ニハ四ヶノ格アリテ第一格  
(カ或ハ)第二格(ノ)第三格(ニ或ヘ)第四格(チ)ニ區別セリ故ニ筆

記法ニ於テ之ヲ利用シ略字中名詞ニ屬スル記號ニ加點シ  
テ働カシムルヲ左ノ如シ(因曰一ハ一箇ノ名詞記號ト見ヨ)

第四格

第一格

第二格

第三格

右ノ法ニ從ヒ略字略語中ヨリ一二ノ名詞記號ヲ擧ケテ加  
點スル左ノ如シ

汝ハ(代名詞)

彼ノ(全上格)

法則ニ(名詞第)

詞ヲ(全上格)

右ニテ讀者大略名詞ノ加點法ヲ知了シタルヘシ凡ソ動詞  
ニテモ形容詞ニテモ皆名詞ノ位ニ在ル時ハ必ス右ニ準シ  
テ加點スヘシ終ニ臨ソテ一言スヘキハ加點ノ格ノ數ヘ方  
ハ總テ記號ノ表ヨリ始ム可シ尙文字ノ形狀ニヨリ加點法

ノ變スルハ後ニ明細ニ示シ置ケリ

形容詞ノ加點法ハ名詞若クハ働詞ノ如ク幾多ノ點ヲ附ス  
ルニ非ス唯記號ノ頭ヘ一ノ如キ點ヲ加フルナリ其例左ノ  
ノ如シ

如キ

全タキ

働ラキ

副詞ノ加點法ハ前項ニ述ル形容詞ノ加點法ト全一ニシテ  
惟形容詞ノ語尾ノキヲクニ變スル場合ニ記號ノ尾ヘ附ス  
ル者ナリ其例左ノ如シ

如ク

全ク

多ク

働詞ノ加點法ハ能動受動ニ因テ其加點ヲ異ニス抑此加點  
法ハ略字略語中數多ナル而已ナラス實際ニ臨ソテ其働ラ  
キノ大ナル名詞形容詞ノ比ニアラス即チ働ラキノ時限ナ  
ル過去現在未來ニ因テ點ヲ附スルモノナリ而シテ働ラキ

ノ時限ヲ猶分別シテ第一現在第二現在過去第一未來第二未來トシ區別加點スルモノナリ左ニ用ト云フ略字ニ付キ

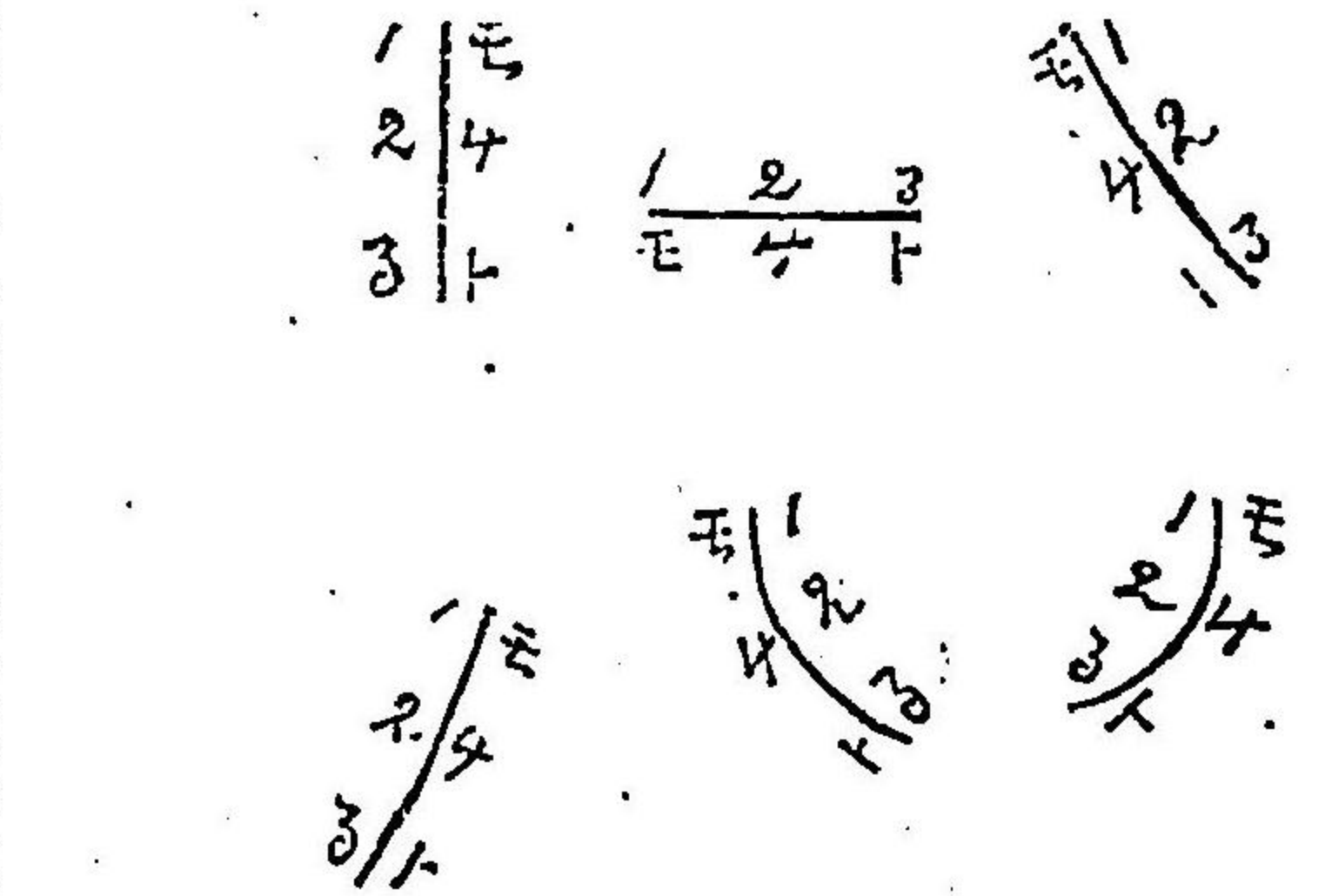
| 詞別<br>時限 | 能動詞   |       |       | 受動詞  |      |      |
|----------|-------|-------|-------|------|------|------|
|          | 第一現在  | 用イヌ   | 用イヌ   | 用イヌ  | 用ラヌ  | 用ラヌ  |
| 第二現在     | 用イシ   | 用イズ   | 用イシ   | 用ラシ  | 用ラシ  | 用ラズ  |
| 過去       | 用タリ   | 用タリ   | 用イタリシ | 用ラタリ | 用ラタリ | 用ラタリ |
| 第一未來     | 用ン    | 用ン    | 用イザン  | 用ラン  | 用ラン  | 用ラン  |
| 第二未來     | 用ルナラン | 用ルナラン | 用イザラン | 用ララン | 用ララン | 用ララン |

加點ナ示ス 受動詞ノ點ハ能動詞ヨリ長ク引クヲ以テ區別ス 又能受

動詞加點法

兩動詞トモ右方ハ皆打消シノ語トナルナリ猶文字ノ形狀ニヨリ加點ノ位地ヲ變スルニヨリ左ニ記號中ノ文字形狀ヲ悉ク拔萃シ之ニ一々加點シテ讀者ヲシテ記號ノ形狀如何ニ變シタル者ナリト雖モ容易ニ加點ノ位地ヲ知ラシムルノ便ニ供ス

名詞ノ格加點法

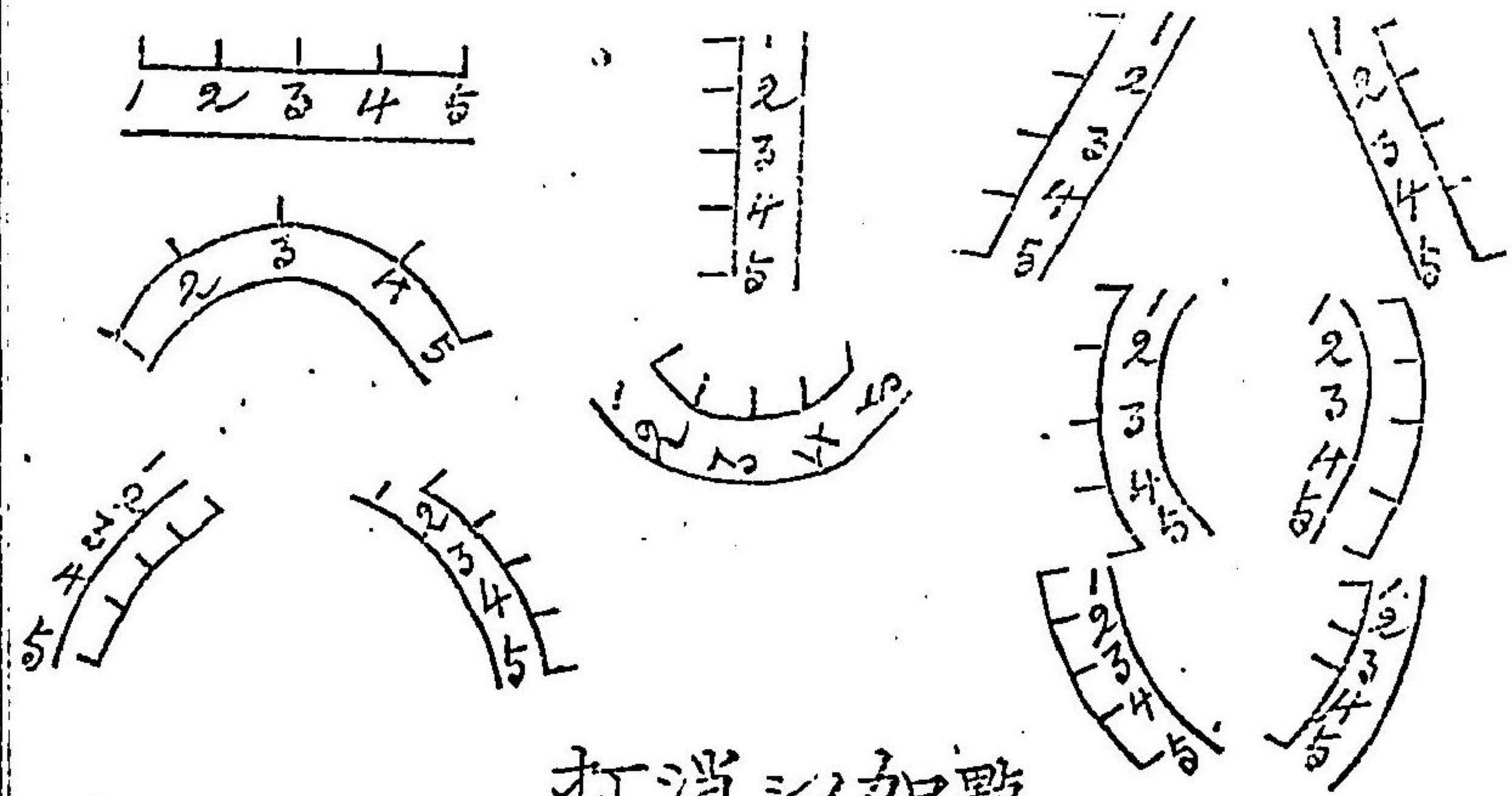


(1)ハ即チ名詞ノ第一格ニシテ(1)ノ所ニ加點スル時ハ名詞第一格(ガ或ハハ)ナルヲ知ル自余234ト共ニ之ニ全シ又名詞ニシテモ或ハトノ語尾ノ付ク時ハ上圖ニ示ス地位ニ加點スヘシ

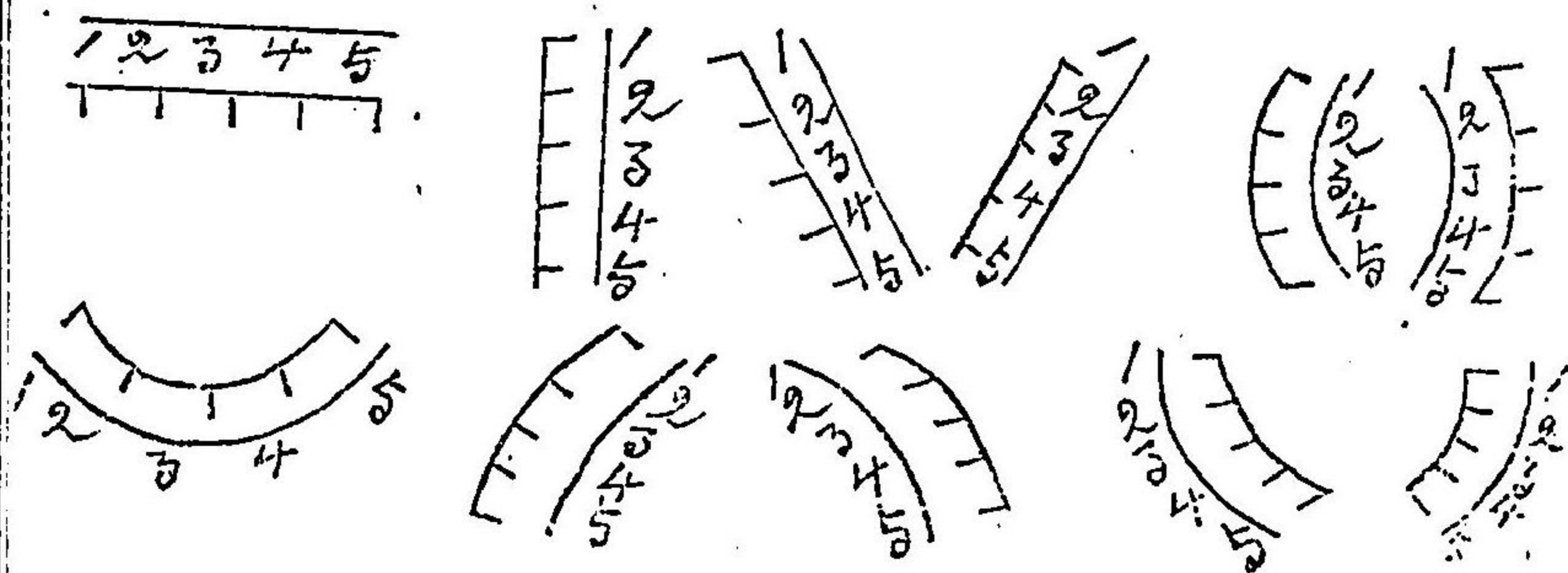
詞法  
 形加 一 ( ) ( ) ( ) ( )  
 副詞 全上 一 ( ) ( ) ( ) ( )

|     | 能動    |         | 受動     |         | 能動    |         | 受動     |         |
|-----|-------|---------|--------|---------|-------|---------|--------|---------|
| 現在  | 知ル    | 知ヌ      | 知ラル    | 知ラヌ     | 云フ    | 云ヌ      | 云ハル    | 云ハヌ     |
| 二現在 | 知レリ   | 知ラズ     | 知ラレシ   | 知ラズ     | 云ヒシ   | 云ヌ      | 云ハレシ   | 云ハズ     |
| 過去  | 知リタリ  | 知ラザリシ   | 知ラレタリ  | 知ラザリシ   | 云ヒタリ  | 云ハザリシ   | 云ハレタリ  | 云ハザリシ   |
| 一未來 | 知ラシ   | 知ラザラン   | 知ラレシ   | 知ラザラン   | 云ハシ   | 云ハザラン   | 云ハレシ   | 云ハザラン   |
| 二未來 | 知ルナラン | 知ラザルナラン | 知ラレナラン | 知ラザルナラン | 云ハナラン | 云ハザルナラン | 云ハレナラン | 云ハザルナラン |
| ニ導カ | 明瞭ノ域  | 層讀者ニ    | 點シ猶一   | 動詞ヲ加    | ル一二ノ  | 典中ニ在    | 上ニ前文   | ス       |
|     |       |         |        |         |       |         |        | 狀ヲ區別    |
|     |       |         |        |         |       |         |        | シテ加點    |
|     |       |         |        |         |       |         |        | スルヲ要    |

動詞加點法ノ圖



打消シ加點



- (1) 第一現在
  - (2) 第二現在
  - 或半過去ト云フ
  - (3) 過去
  - (4) 第一未來
  - (5) 第二未來
- 受動詞ノ點ハ能  
動詞ヨリ長ク記  
スル者ト知ル  
前ニ全シ右ニテ  
記號ノ形狀ハ悉  
ク擧ケタレハ讀  
者能ク記號ノ形

蓋シ人ノ使用スル言語ノ動詞ハ種々變化スト雖モ決ノ右ノ外ニ出ル者ニ非ス故ニ人ノ言語ヲ筆記スルニハ必ス其時限ノ何ニ屬シ若クハ能ク受何レノ動詞ニ屬スルカ一度耳桑ニ觸ル、アレハ忽チ判斷シ加點法ノ誤ヲサルヲ要ス本編總論ニ述シ如ク我國ハ文章ト言語ト一定セサル者ナレハ之ヲ一刀兩斷前法動詞加點法ニ適應スル甚タ困難ナレト讀者苟モ精練注意ノ銳意事ニ此ニ從フアラハ又甚タ難キ事ニ非ス何トナレハ吾人既ニ其功ヲ奏シ得タレハナリ」

讀者左ニ猶數多ノ略語ヲ擧ケタレハ必ス能ク研究諸記アラントラ是皆普通文字ノ字格ノ繁多ニ反シ簡略ナル者ニシテ特ニ普通ノ演舌討論中ニハ必ス用フ可キ語ノミナレハ濃淡ノ別圈ノ大小曲直ノ差別ヲ明ニシ必ス能ク記得セラレ而シテ後前法ノ加點チ一々施シ飽マテ練習アレ

|        |                  |                               |                |
|--------|------------------|-------------------------------|----------------|
| ○----- | 如レ               | 元 <sup>四</sup> 来 <sup>リ</sup> | 集ル             |
| ●----- | 及 <sup>而</sup> ビ | 假令                            | 類              |
| ○----- | 候                | 働ク                            | 智 <sup>知</sup> |
| )----- | 何 <sup>何</sup> ニ | 又                             | 日本             |
| (----- | 以テ               | 外                             | 世界             |
| (----- | 審 <sup>審</sup> カ | 我                             | 助 <sup>助</sup> |
| ?----- | 敢テ               | 我等                            | 利害             |
| ○----- | 問                | 最初                            | 利子             |
| ○----- | 答                | 最後                            | イニ             |
| -----  | 即                | 後                             | 學會             |
| -----  | 嗚呼               | トモ                            | 筆記者            |
| /----- | 於テ               | 嘗テ                            | 筆記的            |
| /----- | 答                | 決メ                            | 相              |
| \----- | 皆 <sup>總</sup> テ | 未ダ                            | 非ズ             |
| \----- | 而シ               | 何テ                            | 念々             |
| L----- | 何 <sup>先</sup> 際 | モ感 <sup>先</sup> テ             | 間              |
| L----- | 際                | 足 <sup>先</sup> キ              |                |
| └----- | 云々               | 飛脚                            |                |
| └----- |                  | 聞                             |                |

夫  
為政  
不併  
下降  
方角  
適々  
其時  
合時  
信用  
既  
タル  
届  
學士  
變  
免角  
免角  
適  
容易

可也  
高尚  
關係  
心得  
如何  
願  
難事  
側  
承知  
區別

來  
一  
所  
出  
能  
來  
再  
後  
蓋  
全  
故障  
苟  
太  
心  
切  
勘  
定  
注  
意  
求  
九  
揭  
哉  
中  
就  
呼  
不  
給

考  
雖  
寧  
口  
但  
彼  
彼  
等  
是  
是  
等  
難  
有  
謝  
無  
故  
其  
故  
添  
ル  
續

見  
ル  
用  
ル  
迫  
ル  
更  
ニ  
抑  
モ  
頻  
ニ  
然  
リ  
經  
過  
背  
左  
様  
妨  
々  
保  
証  
其  
處  
格  
別  
更

其  
樂  
申  
ス  
答  
ル  
時  
夫  
等  
為  
時  
々  
危  
險  
重  
子

極ム  
定ム  
汝  
欲ス  
能ク  
唯  
模  
樣  
雇  
入  
テ  
九  
尤  
モ  
志  
意  
等  
調  
活  
用  
其  
通  
リ  
長  
シ

向  
景  
況  
筆  
記  
法  
學  
方  
充  
分  
直  
打  
後  
伏  
テ  
若  
シ  
常  
々  
選  
力  
速  
ク  
抄  
ル  
種  
類

所  
通  
通  
帝  
意  
杜  
撰  
短  
シ  
愉  
快  
待  
テ  
亦  
不  
知  
果  
ク  
欠  
ク  
書  
ク  
扱  
限

多  
々  
屢  
々  
盡  
ス  
巨  
敷  
少  
シ  
学  
ク  
顧  
ル  
均  
シ  
ク

何  
レ  
利  
益  
紳  
士  
諸  
君  
互  
ニ  
自  
ル  
何  
レ  
遂  
ニ  
況  
ヤ  
近  
キ  
丁  
裕  
一  
般  
衰  
化  
茲  
以  
テ  
頗  
ル  
却  
テ  
兼  
テ  
剩  
レ

有  
言  
葉  
茲  
ニ  
除  
ク  
ヨ  
リ  
カ  
ラ  
其  
々  
ス  
ル  
ハ  
々  
々  
也  
各  
々  
施  
ス  
讀  
ム  
法  
則  
到  
底





第六編 發音論

本編ニ於テハ音質音種呂律節譜ヲ講解シテ讀者ノ參考ニ  
 供スヘシ先ニモ述ヘシ如ク記號中ノア、イ、ウ、エ、オ、ノ五音ヲ  
 母音ト云ヒウ、ク、ス、ツ、フ、ム、ユ、ル、ウ、ノ九音ヲ父音ト云フ此  
 ノ兩音合シテ發スルチ子音ト云フ  
 發音ノ種類ヲ分チテ八種トス即チ清音濁音拗音鼻音半濁  
 音濁拗音鼻拗音半濁拗音トス左ニ其解ヲ舉ク

清音

清音ハア、イ、ウ、エ、オ、ノ五十音ヲ云フ

濁音

濁音ト云フハ清音ノ濁リタルチ云フ音數二十箇アリガザ  
 バダノ四行是レナリ

拗音

拗音ハ清濁兩音ノ如ク單一ノ音ニアラスシテ二音ノ相合

シテ元來ノ音トナル者ナリ即チ左ノ如シ

|       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| アキキ   | クク    | ツツ    | シシ    |
| イウエオ  | クク    | ツツ    | ウエオ   |
| チチ    | ニニ    | フフ    | ヒヒ    |
| ウエオ   | ニニ    | フフ    | ウエオ   |
| アイウエオ | アイウエオ | アイウエオ | アイウエオ |

鼻音

鼻音ハ鼻ニ抜ケテ發スル音ナリ左ノ如シ

ガ、グ、ク、ソ、ン

半濁音

半濁音ハ唇ノ先ニテ彈キ發スル音ナリ左ニ掲ク

パ、ピ、フ、ベ、ボ

濁拗音

濁拗音トハ普通ノ拗音カ濁リテ發スル者ナリ左ノ如シ

アギウギニオグアイウエオアイウエオヂヂヂヂヂヂ

アブウブアオビビビビビビ

鼻拗音

鼻拗音ハ鼻音ノ相重リテ發スル音ヲ云フ左ノ如シ

アギウギニオグアイウエオ

半濁拗音

半濁拗音トハ半濁音相重リテ發スル音ヲ云フ左ノ如シ

アビウビエオ

音質ハ唇音齒音上顎音齒頭音結音等ノ類ニ區別ス而シテ

其ノ唇音トハ唇頭ノ拗ヲキニ因テ發スル(ブ、ム、フノ類)ナリ

齒音ハ齒頭ノ拗ヲキニ因テ發スル(ツ、ズ、ヅノ類)ヲ云ヒ上顎

音ハ上顎ノ拗ヲキニ因テ發スル(グウ、クウ、シウノ類)ヲ云ヒ

齒頭音ハ(スウ、ズウノ類)ヲ云ヒ結音トハ語ヲ詰メテ呼ブ時

ノ發音ニシテ口外ニ出アザル(フ、ヅ、グノ類)ヲ云フ

呂律節譜

呂トハ一越、雙調、黃鐘ノ三ヲ云フ律トハ平調、盤涉ノ二ヲ云

ヒ呂律合シテ十二調子(一越、斷金、平調、勝調、下無、雙調、晝鐘、黃

鐘、鐘馨、盤涉、神仙、上無等ナリ)トナル節譜ハ平上去入ノ四聲

及ヒ風調、鈎、閑、際、流、延、累、緩ノ九種ナントモ吾筆記法ニ於テ

ハ呂律節譜ノ繁冗ヲ去リ簡易ニ法リ左ノ三種ニ區別ス

強音ノ語聲ノ擊節

強音符「ノ」ハ音聲ヲ抑揚スルニ用ユル符ニシテ左ニ例ヲ示

ス

上、紙、コノ訓タル全ク「カミ」ナレトモ實際ハ「上」ノ方音

強シ故ニカ、ル場合ニハ區別ヲタメサシ爲メ  
上ノ音ニ強音符ヲ施シ *so* トナスノ類ナリ

語聲

「*e*」此ノ符ハ上聲ヲ示スニ用ユル者ナリ

「*o*」此ノ符ハ去聲ヲ示スニ用ユル者ナリ

擊節

「*...*」

此ノ符ハ文章中ニ於テ聲力アル所ニ施ス符ニシテ  
注意ヲ要スル符ナリ

第七編

句讀法

句讀法トハ一語或ハ成句等ノ句讀段落ヲ正フスルニ施ス  
符號ノ法ナリ左ニ掲ケテ逐一説明シタルハ筆記ノ際必ス

注意シテ用ユヘシ

句讀ノハ一語ヲ切ルニ用フ

半重點 *u* ハ數語ヲ切ルニ用フ

重點 *:* ハ連語ヲ切ルニ用フ

段落 *×* ハ文章ノ段落等ヲ切ルニ用フ

括弧 *( )* ハ註解ヲ入ル、時ニ用フ

副弧 *[ ]* ハ括弧中ニ亦註解ヲ入ル、時ニ用フ

指示 *々* ハ文章中ノ肝要ナル所ヲ示ス

章 *卍* ハ一篇ノ文章ニ於テ之カ章ヲ示ス者即チ

第何章ト云フカ如シ

連讀標 *...* ハ文字ニ因テ成レル一語ノ中ヨリ斷絶シ

タルヲ連續セシムルニ用フ

文章標 *〃* ハ文章ヲ書キ初メタル片見易キ様ニ此標

ヲ符ス或曰頭字發端

添註標

ハ

ハ脱字脱語ヲ書キ入ル、時ノ標ナリ

廢文標

ハ

ハ章句ヲ削除スル時ニ用フ

省文標

—

ハ別ニ記録アルニヨリ筆記ヲ要セサルモ

ノ會議ニ於ル原案ノ如シ

引用標

〆

ハ例言適例ヲ引用セシキニ用フ即刑法第

何條ニ云々ト云フ如キ時ニ用フ

連續標

〇

ハ一語或ハ連語ヲ總括スルニ用フ

即ナ

空氣

室素 素素 水素 酸素 等ノ如シ

疑問點

!

ハ疑問ノ終リニ記ス

星標

米米米

十字標

十

複十字標

キ

雙書

||

全一ノ單語或ハ連語ノ數多アル場  
合ニ於テ之レ等ノ符號ヲ以テ其單  
語又ハ連語ニ代用ス

第八編

間投詞

符合十七種

間投詞ハ言語外ノ形狀ヲ示スノ時ニ用フコレ又逐一記慮  
シテ之ヲ實際ニ用フモノヲ務ム可シ

喜

號

嬉シ樂シト云フ文ノ終リニ施ス

笑

號

唯何トナクケフト笑フ片ニ用フ

嘲

號

嘲リ笑フ片ニ用フ

怒

號

忿ル文ノ終リニ用フ

|   |    |   |                         |
|---|----|---|-------------------------|
| 十 | 晋  | 號 | 罵晋スル文ノ終リニ用フ             |
| × | 嘆  | 號 | 嘆キ悲ム文ノ終リニ用フ             |
| × | 泣  | 號 | 泣クメク言ノ終リニ用フ             |
| U | 唇  | 號 | バアノ如キ唇ヨリ發スル音ノ時ニ用フ       |
| △ | 噓  | 號 | クサミヲ記スルニ用フ              |
| △ | 噓  | 號 | サクリヲ記スルニ用フ              |
| フ | 咳  | 號 | エヘソ又ハオホソナドノ時ニ用フ         |
| △ | 暖  | 號 | ア—トアクビヲ記スルニ用フ           |
| △ | 暖  | 號 | エ—ト俗ニグ—フノ代リニ用フ          |
| ▽ | 叱  | 號 | ダツト舌打ノ代リニシテ文字ノ記シ得ザル記シナリ |
| ▽ | 羊叱 | 號 | スサツト之モ舌打ノ代リニ用フ          |
| Y | 強叱 | 號 | キエウト奥齒ノ處ニテ舌打スル彼ノ牛馬      |

× 驚愕號 驚キタル風情ノ處ニ用フ  
 ナ追フ發聲ニ代用ス

第九編 筆記文

予ハ上來縷々編ヲ追ヒ章ヲ重サチテ示指シタレハ最早讀者ハ充分ニ知了シタルナラソ且ツヤ讀者ニシテ果シテ予ノ指示スル所ニ從ハマ必ス演舌討論若クハ講議ノ筆記ハ容易ノコナラソ去リナガラ古語ニ所謂凡ソ字内ノ講議ヲ以テスルモ練習ナクソハ人ヲシテ一鞋ヲ造ラレムル能ハスト云フガ如ク世間萬般ノ事皆幾多ノ刻苦練習ヲ經テ始メテ成就スルナレト特ニ我筆記法ノ如キハ最モ練習ヲ要スルモノナレハ讀者ニシテ苟モ筆記者タルノ榮地ヲ保タ

ソト欲セハ必ス予カ示指スル所ニ從ヒ精脚刻苦練習ノ良  
果ヲ添メヌ唯恨ム我東洋社會ノ進歩未タ彼レ泰西各國ノ  
如クナラス從テ筆記者ノ地位ノ賤劣ナルヲ然レトモ晩近  
國會起リ又我東洋社會ノ進歩ヲシテ一層開明ノ域ニ進マ  
シムルアラハ筆記者ノ地位ヲ復スル一蓋シ又近キニアラ  
ノ讀者諸君請フ此ノ意ヲ了シ此ノ書ニ從テ研究練磨スル  
所アレ  
今ヤ本編ニテ稿ヲ終ストスルニ際シ讀者ニ左ニ一篇ノ演  
舌文ヲ筆記シテ瀏覽ニ供ス蓋シ左ノ演舌ハ經國美談中ニ  
在ル巴氏ガ阿善國ニ入テ國難ヲ救ハシメテ該國人民ニ歸  
フノ演舌ナリ

Handwritten text in a cursive script, likely representing the content of the book mentioned in the adjacent page. The text is dense and covers most of the page area.

(前=續ク)

Handwritten text in a cursive script, likely representing a transcription of the adjacent page's content.

反文 巴氏ノ演舌

熱心國ヲ愛スルノ會民諸君ニ問ハソ當國ノ英雄「セミス  
クレス」ガ經營シタル此ノ阿善ノ堅固ナル堞壁及ヒ阿善ト  
比留トテ連結セル長壁ヲ毀ツテ之ヲ修築スルヲ禁シタ  
ルハ何ノ國ナルヤ(會民叫ソテ曰ク斯波多ナリ)又民政ヲ以  
テ列國ニ模範タル當國阿善ノ内政ニ干涉シ其憲法ヲ自由  
ニ制定スルヲ禁シタルハ何ノ國ナルヤ(會民叫ソテ曰ク斯  
波多ナリ)又地中海中ニ星羅幕布セシ當國阿善ノ屬地ヲ悉  
皆棄捨セシハ何ノ國ナリヤ(會民絶叫シテ曰ク斯波多ナ  
リ)當國ニ向ツテ此等ノ無禮ヲ加ヘシ者ハ斯波多ナリ然ハ  
則チ斯波多ハ阿善ノ國讎ニアラスヤ然ルニ阿善ノ國讎タ  
ル斯波多ハ今又吾國ヲ逞フシテ傲邦齋武ノ内政ニ干涉シ  
奸黨ヲ助ケテ我自由ノ政体ヲ顛覆シ彼ガ嘗テ當國阿善ニ



加ヘタル無禮ヲ以テ今日又之ヲ我齋武ニ加ヘタリ然ハ即  
 阿善舊來ノ國讎ハ今日又齋武ノ國讎ナリ諸君ハ我ト國讎  
 ナ全クスル者ニアラスヤ今斯波多ヲシテ終ニ齋武ヲ吞  
 セシメハ阿善豈ニ能ク獨リ完キヲ得ンヤ今日阿善ナク  
 ソハ明日齋武亡ヒソ今日齋武ナクソハ明日阿善亡ヒソ然  
 ハ則チ我齋武今日ノ國讎ハ獨リ齋武ノ國讎ニアラス蓋シ  
 又阿善ノ國讎ナリ願ハ諸君ガ齋武ノ回復ニ一臂ノ力ヲ假  
 サレソト先ニ當國阿善ノ奸黨ガ民政ヲ傾覆セシニ當テ  
 當國ノ有志者ハ多ク難チ敵邦ニ避ケテ終ニ民政ヲ回復ス  
 當時敵邦ノ民人モ又與ツテ力アリント聞ク今ヤ却テ敵邦  
 ニ國難アルニ當リ報恩ノ徳ニ厚キ當國ノ人民ハ決シテ敵  
 邦ヲ捨テサルヲ信スルナリ且ツ斯波多ハ人民ノ參政ヲ惡  
 ム虎狼ノ國ナリ阿善齋武ハ人民ノ參政ヲ貴ク道理ノ國ナ

リ故ニ斯波多ト阿齋二國トノ盛衰ハ唯ニ邦國ノ盛衰ニ非  
 ラスレテ專制政治ト自由政治トノ興廢ナリ阿齋二國ノ不  
 幸ハ唯ニ二國ノ不幸ニ止マラス蓋シ希臘全土ノ不幸ナリ  
 果シテ然ハ二國ノ人民ハ後世子孫ノ爲ニ其治体ヲ維持セ  
 サル可ヲサルナリ當國ノ人民幸ニ敵邦ヲ捨テズノハ之ヲ  
 今日ニ救フイ甚タ容易ナルノミ今若シ當國ヨリ五千若ク  
 ハ六千ノ兵ヲ發シテ我境上ニ望マシメハ我國ノ有志者必  
 ス義兵ヲ擧ケテ内ヨリ應スル者アラソ此ノ如クハ大事立  
 ドコロニ定マラソ今日敵邦ノ存亡ハ唯當國人民諸君ノ意  
 中ニアルノミ

平呼單語譯讀 第一

ノツム ナコタル クラク ナサケ ナラブ ムヤミ ウシロ エノコ ノゾク  
クイキ ヤイバ マロブ ケライ フクハ エビ テガミ アサクサ サカヤ  
キシヤ ヌメミ

全 第二

謝義 知識 諸技 大略 讀審 敵對 酒癖 開拓 氣力 具足 家來 口實  
骸骨 記者 愚昧 下女 快樂 火事 彩色 芍藥 策略 茶代 勅使 嫡子  
杓子 小塚 主義 賊徒 綠色 駁駁

全 第三

布告 布達 伊織 市場 從弟 生捕 醫術 才識 妻子 入込 何頃 石疊  
犧牲 石灰 蝗 博士 雌 早舟 莫大 破却 初春 花菱 旗本 伯樂 羽二重  
鉢卷 針金 初葺 花盛 拜借 菩提 火口 骨折 無骨 辟易 兎角 德 土壘  
土木 友達 取做 取持 毒藥 毒蛇 絲瓜 力持 利益 濡衣 累歷 女郎花

平呼連語譯讀 第一

1 一日職ナケレバ一日食ナシ 2 始終亡ビサルモノハ壽 3 山ニ登ラバ須ラク巔ニ  
到ルベシ 4 言葉ハ多キヲ撰マズ其大切ナルヲ撰ラム 5 懶惰ノ人ハ自カラ其浮キ  
言トチ腹ス 6 木ヲ見テ其果實ヲ知ル 7 海ニ入ラバ須ラク底ニ到ルベシ 8 時ハ  
則チ金ナリ 9 病ハ口ヨリ入り禍ハ口ヨリ出ツ 10 人ニ捨ル人ナク物ニ捨ル物ナシ

全 第二

1 舟ハ水ヨリ火ヲ怖ル 2 黒キ鶏モ白キ卵子ヲ産ム 3 口ニ蜜アル虫ハ尻ニ針アリ  
4 打レテ笑フモノハ再ビ打レズ 5 能ク吠ル犬ハ必ズ嚙マズ 6 嚙ミ得サルモノニ  
ハ齒才ヲ見スル勿レ 7 渡ラズンテ淺瀬ヲ渡ルコト勿レ 8 其言葉ヲ聞テ其人ヲ知レ  
9 驕ル人ハ良キ友ナシ

全 第三

1 事務正シカラサルモノハ實益ヲ爲サズ 2 善キコトヲ人ニ施セバ又善キコトヲ享ル  
3 娛樂ハ營ヘバ粟ノ花ノ如シ 4 物ノ良カラサルモノハ愛ス可キ無シ 5 好ミテ

衣服ヲ裝ルコト勿レ 6 科ナキ謝罪ハ願フコト勿レ 7 事務ハ人ヲ作ル者ナリ 8 理  
 ナ解セサレバ自カラ之ヲ好ムニ至ル 9 我ガ爲シ得ベキコトハ人ニ委セズ 10 狙ヒテ  
 定メスシテ矢ヲ射ルコト勿レ 11 義ヲ見テ爲サルハ勇ミナシ 12 時ザル種ハ生ルコトナ  
 シ 13 圓ブ石ニハ苔ノ付クコトナシ 14 錯テ腐ルヨリハ磨キテスルヲ良シトス可シ  
 15 人ヲ教エテ己レニ學ブ可シ 16 高ク賣ルモ歎ムク可カラズ 17 時ノアル内ニ時ヲ  
 得ベシ 18 口ト財布ハ閉ルニ利アリ 19 煙リヲ見レバ火アリト知ル可シ 20 書物ハ  
 己レノ友ト思ヒ

長呼譯讀 第一

誅罰 攘夷 自由 周密 隆盛 獵師 里程 累世 應對 醉醒 往時 開業  
 創業 後悔 好友 慷慨 狡黠 交際 勝負 當初 世上 幸福 預防 聰明  
 測量 相當 追討 落命 腦漿 紹介 苦情 洋學 洋服  
 1 人法律ニ詳ラカナレバ郷黨ヲ厭ハル 2 成業ヲ望マバ怠タル勿レ 3 朝ノ一時ハ  
 夕ベノ二時ニ勝ル 4 一友ニ愛ヲ過セバ十友ヲ失フ 5 用アル學ハ常ニ光澤アリ

6 教育ハ心ト体トノ各様ノ需用ニ注意シテ之ヲ施サ、ル可カラズ

全 第二

1 元手ヲ消費スルハ其給料ニ加倍シテ回勢セシムル法ナリ 2 役夫ノ増加毎ニ大勢  
 カアルモノハ食物ノ増殖ナリ 3 世ノ益々開明スルニ從ヒ富メル人ト貧シキ民トノ  
 間益々隔ルニ至ル 4 社會ハ其自家ノ利益ニ拘ハリ獨リニ商議スルヲ得可シト雖  
 特リニ涉ルコト能ハサル者ナリ 5 交際結合ノ人世ニ必要ナルハ眠リニ於ケルヨリモ  
 甚レ 6 艶ビナル藝術ハ多ク想像ノカラヨリ起ル實用有益ナル學術ハ多ク理會ノカ  
 ラヨリ生ズル者ナリ 7 古ヘヨリ今ニ及ブマデ政治上數百ノ効果ハ政府ノ擅ニ排撃  
 スルニ過ギザルナリ 8 誠ノ快樂己レノ望ム處ノ業務ノ隆盛ニ至ルヨリ外ナラズ  
 9 開化ハ造化ノ惠與ニ依ラズシテ人ノ鼓勵ニヨル者ナリ 10 過去既往ノコト云ヘバ  
 先ツ其是非ヲ別ツコトヲ爲サズシテ直チニ之ヲ蔑ロニスルハ通常ノ人普通ノコトナレ  
 リ 11 知識ト事業ハ自由ノ郊野ニ於テ自由ニ働カセザル可カラズ 12 想像ハ確説  
 ノ基礎ナリ

反呼譯讀 第一

感動 監槍 諫言 愍然 威服 公然 開墾 艱難 簡略 和親 當然 單身  
 歎願 廉價 怠慢 彈丸 淡薄 蓮根 遠近 村落 丹精 鍛鍊 連日 懸慕  
 溫和 溫順 大臣 鎮臺 佞臣 慚謝 南京 運送 勤工 群臣 軍醫 寬大  
 患難 訓導 紳士 辛苦 新聞

1 天下ヲ動カサントスル者ハ必ズ先ツ自カラ動ク可シ 2 大食胃ニ滿レバ學文腹ニ  
 入ラズ 3 生計ノ希望ハ勢力ノ反慮ニシテ成就ノ母ナリ 4 不學ハ慢心ヨリ科少ナ  
 レ 5 何事ヲ學ブニモ必ラズ全腹ノ必力ヲ要ス可シ 6 談話スルモノ種子ヲ蒔キ靜  
 默スルモノ果實ヲ收ム 7 勞作ハ身体ヲ供養シ學習ハ神靈ヲ供養ス 8 學問ハ神思  
 ノ眠ナリ 9 官ハ人ヲ求ム可シ人ハ官ヲ求ム可ラズ 10 始メニ笑ハシヨリ終リニ笑  
 ベシ 11 萬人ノ友ナレバ萬人友トセズ 12 忠臣能ク仁君ヲ佐ル 13 一年前ナラザレ  
 バ七年前ナラズ 14 信用ハ舊習ヲ補フコトナシ

全 第二

1 仁人ノ利益ハ即チ人チシテ信用ヲ措カザルノ道ヲ開發スル者ナリ 2 文化ノ昇進  
 スルニ從ヒテ事物ノ面目ヲ改メ最高ノ道德最大ノ幸福ヲ有スル域ニ進ム可シ 3 凡  
 ツ人文ノ自由論ハ其端緒々々ニシテ一ニ歸セズ故ニ之レガ主義ヲ論定スルコト難シ  
 4 全國總体ノ安寧ハ各々人民ガ自己ノ安寧ヲ計カルノ時ニ於テ最大鞏固ナル可シ  
 5 人類ノ保存ハ單一ナル親屬ヲ得テ完全ナルコトヲ得ルニ至ルベシ 6 凡ソ想像ナ  
 ル者ハ自然ニ於テハ常ニ思想ニ先驅シ其實境ニ於テ常ニ思想ヲ交代スルモノナリ  
 7 貧困ハ卑屈ヲ造成シ富裕ハ權勢ヲ厭忌ス 8 法律ハ善ナクモ萬事ニ干渉スル能ハ  
 ズ 9 未ダ法律ナクシテ能ク生存スル者ハアラズ 10 凡ソ法律ニヨリテ同視セラル  
 、ノ國ハ施政上ノ形体如何ヲ問ハズ之ヲ共和國ト稱シテ可ナリ 11 法ト政トハ動靜  
 公私ノ差異アリ之ヲ生物ニ譬ヘハ法ハ猶體具ノ靜止スルガ如ク政ハ猶精神ノ發動ス  
 ルガ如シ 12 總テ國法ノ主意ハ人ノ性命ヲ重シ之ヲ保護スルノミナラズ又之ヲ養  
 フ所以ノ方便ヲ備ヒサル可ラズ 13 凡ソ萬國公法ノ眼ヨリ見ル片ハ其國ノ強弱ニ拘  
 ハラズ主權國ハ皆同等ナリ 14 財貨ヲ生産スルニ三ツノ必要アリ則チ土地勤勞及ヒ

財本是ナリ 15 國ノ盛衰ハ民ノ盛衰ニア。民ノ盛衰ハ大抵其修身ノ良否ニアリ修身ノ良否ハ知識ノ有無ニ係ハルト雖モ多クハ其天性ト慣習トニヨル者ナリ

詰呼譯讀 第一

疾苦 罰金 實地 出帆 出發 匹夫 各國 目今 昨今 厄介 北國 百官  
白狐 末家 マッチ 葛藤 鳥渡 眞平 結局 決定 失策 執政 一般 切迫  
訛教 設置 節儉

1 己レヲ知ラント欲セバ他人ヲ見ヨ他人ヲ知ラント欲セバ自身ヲ見ル可シ 2 一國ノ結合一致スルハ政府ヨリ起ル者ニアラズ一家團結ノ中ヨリ生ズ 3 教師ハ形ヲノ如ク學校ハ影ノ如シ 4 知識ハ家屋ノ如ク其健康ト然ラザルトハ全ク基礎ノ善惡ニ依ル 5 自由ハ一種ノ生物ノ如ク憲法ハ其範圍ノ如シ 6 汝止マルコト暫時ナレハ却テ早ク結局ヲ見ルニ至ルベシ 7 一年ノ實地ハ十年ノ問答學ニ勝ル 8 結果ヲ見テ其實非ヲ知ル可シ 9 一犬鹿ヲ吠レハ萬犬之ヲ傳フ 10 學問ハ製造物ニシテ學校ハ人間ノ製造所ナリ 11 人ハ潔白ヲ以テ其職任ニカラテ盡ス可シ

全 第二

1 一國ヲ教育スル方法ハ其ノ國兒童男女ニ才智篤厚ヲ生ズルヲ以テ大眼目トナス  
2 人間ノ諸能力ハ實驗ニ依テ暢發ス而シテ其暢發ハ練習ニ依ルナリ 3 教育ノ諸法ニ有テ其學ブ處ノ多少ヨリ寧ロ其方法ノ良キヲ貴シトス 4 言語ニ依テ文法ヲ學ブ可シ文法ニ依テ言語ヲ學ブ可カラズ 5 汝若シ明ラカニ説キ解セザレバ人何ヲ以テ汝ノナス處ヲ了解セン 6 苟シクモ機ヲ失スレバ又逢可カラズ 7 愛情ノ教授上ニ於ルヤ猶彼日光ト滋雨トノ植物ニ於ルガ如シ 8 人一死ヲ以テ萬事ヲ爲シ得可シ 9 勤勉ニアラザレバ百工精妙ニ至ルコト能ハズ 10 正當ニ盡ス勇氣ハ尤モ貴ブベキモノナリ 11 思慮ノ力ハ諸腦力中其暢發ノ尤トモ遅キモノニシテ其全ク伸張スルモノ蓋シ少シ 12 生活ノ名ヲ負ル此物体中ニ更ニ何モノカ存スルヤ此生活中ニハ名ヲ數千ノ志望陰伏セリ 13 我々ノ爲サント欲スル處ノ事ハ我々ノ全力ヲ以テ之ヲ爲ササル可カラズ 14 字句文章ハ學校ノ眼目ナリ

明治十八年五月 日版權免許  
明治十八年九月十日出版

定價金六拾五錢

編輯人

新潟縣平民  
小島周二

出版人

新潟縣平民  
堀治作  
新潟區本町通八番町十二番地

同

同  
松下清三郎  
北蒲原郡中條町

發賣所

公明堂

東泉圖書

|    |    |    |    |    |   |
|----|----|----|----|----|---|
| 一冊 | 一九 | 五架 | 三二 | 函屬 | 類 |
|----|----|----|----|----|---|

一冊

特28

470

076801-000-1

特28-470

日本傍聴記法独学全書

小島 周二/編

M18.9.

DAB-0159

